箱庭の勇者 ~ ガイの成り上がり冒険記 ~

ししだ じょうた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

箱庭の勇者(~ガイの成り上がり冒険記~

スロード**】**

【作者名】

ししだ じょうた

【あらすじ】

異世界召喚冒険もの。

されるままになんとなく世界を救う..... かもしれない 異世界に召喚された底辺にいる主人公が気づけばいつの間にやら流 お話。

9/7 書き直しを行うため強制的に完結させました。

登場人物(1章編)(前書き)

書き込めません。(私には無理) 一人称で書いてるので主人公の容姿や設定などあまり詳しく

また、文章中で特徴ぐらいは書き込みますが不十分になりそうです で、ここに書き込みます。 ので人物の詳細な容姿を想像したいという方がいるかもしれないの

思います) 本文にはそこまで影響しないので読まなくても大丈夫です。(だと

点でのものになります。 21話時点で1章の装備が固定されますので、装備などは21話時

登場人物 (1章編)

獅子王ガイ 主人公 人族

男 17歳 (召喚時) 職業:元高校生、 勇者、 冒険者

装備:ヴァンヘルト (魔剣第3位) 双剣ウェイズ&a m p ;

フロウ (レア+)

サ ヤ 人の戦闘服(ノー マル) 鉄の手甲(ノー

(21話現在)

普通の高校に通う普通の高校生だった。 召喚時の状況は不明だが、

異世界ロンダーシェルに召喚された勇者。

召喚時は能力など未知数だが基本的に主人公なので最終的にはチ

ートになる。

幸運のスキルL>カンストのチートが発覚。

髪や眼は黒、 身長は170センチほどで細身、 容姿は中の上くらい

アリア・ロントリー 人族

女 23歳(初登場時) 職業:冒険者ギルドの受付

はある。 荒くれ者どもを完膚なきまでに打ちのめすぐらいの実力はある。 冒険者の仕事についてはかなり詳しい。 んどくさがりだが面倒見がいいため貧乏くじを引きやすい。 受付嬢になってから10年の間冒険者の相手をし続けていたため、 さりげなく単純な武力であれば冒険者のDかCランクぐらいの力 冒険者ギルドの受付嬢でガイを冒険者にした張本人。 ついでに手を出そうとする 基本的にめ い い 人。

はへこむナイスバディ、 目は赤、 身長160センチほど。 ガイの感想通りに美人 出るとこは出てへこむとこ

スクルド リウンド

雌 ?歳 種族:神獣 状態:幼獣 (9話~)

説の神獣 ロンダー シェ ル世界に伝わる民話、 神話などの伝説に登場する伝

ラゴンを軽く圧倒するほどの力を持つ。 のモンスターより少し強い程度) ドラゴンやユニコーンなどの幻獣の上位存在で、 (現在は幼獣なので、 成獣になればド 普通

拾われてからはガイのペットになった。 いる。 もともとはレナの暮らすエルフの里で育てられていたが、 めちゃ めちゃ ガイに懐いて ガイに

ಠ್ಠ ほど。 毛の色は黄色、 容貌は風 耳の長さが20センチほどあり体長は40センチ 谷のナウ カに登場するキツネリスに酷似してい

レナ・アンストロ・リィガー 女 19歳 (初登場時) 職業:エルフの戦士 エルフ

マル+) 装備:祝福された全能の弓 (レア+ + 祝福された小刀

Ţ

エルフの鎧 (レア) エルフのローブ (レア)

21話現在)

ドがガイの下に残ると意思表示したのでレナもガイとともに居る。 弓を使う戦い方が得意で、回復系の魔法も使える。 スクルドを探してエルフの里を出たエルフの戦士の スクル

に強くなる可能性が大。 の暮らすエルフの里では5本の指に入る実力者。 成長とともにさら 不老不死とも言われるエルフとしては異常な若さだが実力は彼女

チほど。 れなくかなりの美人 髪の色は金色、腰にかかるほどの長さ。 アリアと為を張るほどのナイスバディで、 碧眼、 身長は17 エルフの例にも

女 9歳(初登場時) 職業:なしノリル・リーベン 鬼人

Ŕ ガイに拾われガイを兄と慕うようになる。 隷商の集団に襲われ逃げているうちに迷宮に迷い込んでしまったた 家族とともに鬼人の里を出て旅をしていた。 両親をワイバーンに殺されてしまう。 天涯孤独の身となったが 旅の途中、 人族の奴

の力持ち。 鬼人の中でも稀に見るほど強力な力の持ち主で、 しかし、 子供であり心優しいプリルは戦いには向い 大人の鬼人以上 てい

られ、 額から鬼人のあかしである角が生えている。 おさげ風。 0センチほどでロリッ娘。 瞳の色は黒いが興奮状態になると赤くなる。 赤い髪は左右で束ね

さて、まずは何から語るべきだろうか。

弁してほしい。 きっと語るべき言葉は陳腐で稚拙でくだらないものしかないが勘

そうだな、まずは自己紹介から始めるとしよう。

やしない。普通の高校生だった。ちなみに本名だ。 ついでに言うならサイボー グでもないから『イー 俺の名前は獅子王 ガイ、勇気あるGGGの隊員.....ではない。 ィップ』もでき

然やっていたテレビアニメの主人公らしい人物の名前をそのまま使 形だ。つまり現在進行形では俺の職業は学生ではないということだ。 注目してほしい。そう、聡明な読者諸君ならお気づきだろう。過去 に(いや、名字に関してはどうしようもないかもしれないが.....) でもアルバイトでもサラリーマンでもない。 ったらしい。ぶっちゃけ獅子王って名字だけでもイタイっていうの さて、それよりも本題だ。『普通の高校生だった。』という点に 名前の由来は実に安直なもので、俺の名前を考えているときに偶 俺の職業とは何か。 別にニートじゃない。 パートタイマー

う。俺の職業は元高校生、そして今は異世界に召喚されて勇者にな りました。 あまり引っ張ってもしょうがないので俺の職業について説明しよ てへっ

申し訳ない、 激しく自己嫌悪だ。

呼ばれる世界という点。 とりあえず重要な点はこの世界が地球ではなくロンダーシェ

この世界には地球でいう人間、 人族のほかにエルフやドワー

亜人種、ドラゴンなどの魔物がいる点。 そして何より、勇者が俺一人ではない!という点だ。

-話 召喚された国は本日滅びました

通の高校生だ。 俺の名前は獅子王ガイ、勇気あるGGGの隊員.....ではない。 ちなみに本名。 普

の類じゃなく、激しく疑問に思っていることがある。 さて、 俺は今とある問題に直面している。 では問題です。 ここはどこでしょう。 さすがに期末試験の問題とか

「まじでどこだ?」

いぜい、 を聞き出せそうな相手も全く見当たらない。 ブみたいなものをまとったじじいが一人ずつ立ってるぐらいで情報 あたりを見回してみてもドー ム状の建造物の中には何もない。 無駄に装飾のなされた服を着ているデブと、薄汚れたロー せ

おぉ、 ようやく勇者の召喚に成功したでおじゃる」

手もこの場所には見当たらなかった。 ゃいましたぐらいの大発見なんだが、 人間がいるとは思わなかった。 おじゃるだと!?.....まさか、 なんか心情的にはツチノコ発見しち 現実におじゃるなんて口調な この感動を共有できそうな相

魔法使いでおじゃる」 むふふ、 デ・ブー王、だから言ったじゃろ。 褒めてつかわすジ・ジーよ。 わ 約束通りお主は今から宮廷 しは天才じゃと」

デブとじじいって見たまんまだな。

むふふ、 これで勇者を召喚した余の国なら最強でおじゃる。 バル

デンフェルト帝国に攻め入ってセリル姫を余の妃にするでおじゃる」 さすが、デ・ブー王。そこらの凡人とは違うのぉ」

でも出よう。一つしかないし扉はあれだろ。 なんか狂喜乱舞してる二人の邪魔しちゃ悪い な。 とりあえず外に

「これお主!どこに行くでおじゃる!」

「いや、 うかと」 なんか喜んでるし邪魔しちゃ悪いかと思って外にでも行こ

たいだ。 は俺もまだまだだな。 さすがに堂々と真横を通って外に出ようとしたのはまずかっ あまり関わり合いになりたくない人種に呼び止められると たみ

フェルトへ攻め込む気だったでおじゃるな」 むふふ、さすが余が召喚した勇者でおじゃ るූ さっそくバルデン

「はぁ?」

わしわし、召喚したのはデ・ブー王じゃなくてわしじゃよ」

だが事実なんだろう。 らある程度答えは導き出されている。 さっきからこいつらの言ってる召喚やら勇者やらの不吉な単語か というか認めたくないところ

じいとデブのために働かなきゃならんのだ。 界を救ってハッピーエンドってのが王道だろ。 女の子が召喚して召喚された男 (この場合の俺) と恋に落ちて世 だってそうだろ。 だからこそ、あえて俺はこのデブのいうことを聞きたくな 普通異世界召喚って言ったら、 何が好きでこんなじ すっげー かわい

さっさとバルデンフェルトを攻め落とすでおじゃ

はいはい、わかりましたよ」

にあしらって別れるとしよう。 なんだかこいつらの相手をしていても疲れるだけだろうから適当

ないが、あたりの風景は地球のものとは全く違うようだ。 そう思って俺は扉を開けて外に出た。 別に太陽が二つあっ たりし

じゃない。少なくともその確認ができただけよしとしよう。 いにしたような鳥らしき生物が飛んでいる。 俺は再び扉を開きドーム状の建造物の中に入った。 木々は地球のものより活力にあふれ、空には鳩を軽く10倍くら 間違いなくここは地球

デブ王様、 ばるなんちゃらっての滅ぼしてきましたよ」

「むほほほ~ い!よくやったでおじゃる」

にこのデブはおつむが弱いようだ。 してクビにでもしてもらおうと思ったのに。どうやら俺の想像以上 まじで信じるの?とりあえず適当にやる気のなさをアピール

たらすぐに結婚式でおじゃる!」 「では、 さっそく余はセリル姫を迎えに行くでおじゃる!帰ってき

デブは俺が種明かしをする前にさっさとドー というか、 ずいぶんデブのわりに俊敏だなあいつ.....。 ムの中から出て行っ

従うでおじゃる!」と言っていたらしい。 まともな護衛も連れずに向かい、「お主たちは敗戦国じゃから余に ルトに討たれたという話が国中に流れたらしい。 翌日、 俺にはよくわからないが国境でデ・ブー王がバルデンフェ 戦争状態の隣国に

にも一大事だし、 さすがにあれだけの馬鹿でも国王が討ち取られたというのは国的 どうやらあいつには世継ぎも何もいなかったらし

デブが討ち取られたこの国はバルデンフェルトに無条件降伏。 俺が 召喚された国は俺が来てからたったの一日で滅びてしまったとさ。 い。長年に及ぶ戦争の末に王族はみな倒れ、最後の一人だったあの

......え、俺のせい?

2話 俺は帝国の勇者になり損ねました

の高校生だ。ちなみに本名。 俺の名前は獅子王ガイ、勇気あるGGG隊員.....ではない。 普通

を召喚した国が亡びるという不幸な事態に見舞われた。 どうやら異世界にやってきたらしい俺は異世界訪問してすぐに俺

にきて新たな問題が発生した。 別に何の世話にもなってないから何の感慨も浮かばないが、

さて、これからどうしよう?」

うが、不幸なことに、誠に不幸なことに俺を召喚した国の王様は俺 に指令を出す前にお亡くなりになったそうだ。 普通に考えたら召喚してきた相手になにやら指令を受けるのだろ

あんな固い床で寝るのはできれば御免こうむりたい。 昨日はとりあえず俺が召喚されたドームの端っこで寝てみたが、

敗戦によりすっかり意気消沈した様子の大通りを練り歩いてみる さすがに負けた直後で営業している店は一つもなかった。 にわかにあたりから歓声が上がる。 のだ

?

考えると敵さんの国の兵みたいだけどなんで悲鳴じゃなくて歓声が 上がるんだ? なんか知らんが馬に乗った兵隊さんが街に来たみたいだ。 状況 を

広がる。 疑問を浮かべる俺をよそに二階建ての建物の間にバッと横断幕が

『歓迎バルデンフェルト帝国』

違いないだろ。 たいだな。 周りの民衆の姿を見回してみると本気で喜んでるのは間 そこでようやく理解できたがあのデブはずいぶんと嫌われてたみ

行くのは白く美しい毛並みの馬に乗った金髪のお姫様。 いなくあれはお姫様だ。 なんとか民衆の間を抜けて兵隊の姿をその眼で見てみる。 なんでわかるかなんて知らんがな。 うん、 先頭を 間違

? h

から視線を外そうとしない。 不意にお姫様と俺の視線が交錯し、 おいおい、 お姫様はいつまでたっても俺 一目惚れか?

おい、お前。あいつを連れてこい」

っぱ!」

ってくる。 お姫様に命令されたごつい鎧を着た兵の一人が俺のもとに歩み寄 ずいぶん重そうな鎧だけど平気そうに歩くんだな。

・姫の命令だ、ついてこい」

くついていきますかね。 やっぱりお姫様なんだな。 ここで抵抗しても仕方ないしおとなし

たことのない俺には見たこともない巨大な城だった。 お姫様たちに連れられてやってきたのはまともに旅行なんか行っ たぶんあのデ

ブの居城だろう。

間かな?に俺は連れられてきた。 自分の城じゃなってのに勝手知ったるように玉座?いや、 謁見の

り離れた正面に立つ。 と腰かけた。俺は一般兵A(仮)に連れられてお姫様から少しばか お姫様はまるで自分の城のように一つ高い場所にある椅子に堂々

· お前、勇者だろ」

それらしい言葉遣いをしてほしいと思うんだが、 てことにしよう。 お姫様は何の前置きもなしにそう言った。 ていうか、 まぁ これも個性っ お姫様なら

あ、はい。たぶん勇者だと思います」

デブなんかとは対応を変えないとまずいだろ。 下手なこと言って殺されでもしたらたまったもんじゃない。 あの

っていたが、 やはりそうか。 本当にあの間抜けが勇者を召喚するとはな」 あの間抜けな王が死ぬ間際に勇者に騙されたと言

か?」 騙されたってのは少し納得がいきませんが、 なにか問題あります

けだろう。 なに、 あの間抜けのことだから話もまともに聞かずに先走っ そのことについて問題はない。 しかし、 だ ただ

しかし?」

「なぜお前はあの王に嘘をついた?」

嘘?」

嘘なんてついた覚えはないがなにか俺は言っただろうか?

ぞ?」 お前がバルデンフェルトを滅ぼした。 とあの間抜けは言っていた

あぁ、 なるほど。 あのデブはそんなことも言っていたのか。

「いえ、あれは嘘ではなくただの冗談です」

「冗談?」

「はい」

、なるほどな」

ぐらいの規模の国かは知らんけど。 ば今後の方針もだいぶわかるだろう。 いる。ここで気に入られて一気にばるなんちゃらの公認勇者になれ お姫様は笑うでもなく怒るでもなく値踏みするみたいに俺を見て いや、 ばるなんちゃらがどの

まぁいい、わかった。もう帰っていいぞ」

「 は ?」

たのに帰んなきゃいけないの? え、 帰るの?せっかく異世界にきてこれから面白くなるはずだっ

どっかで選択肢間違えたかな?

「どうした、早く帰れ」

いせ、 帰ろうにもどうやって帰ればいいんですか?」

お前は馬鹿か?来た道を戻れば外に出られるだろう」

のか?ここで帰れってのはどうなのよ。 でも勇者だから普通ならなんか魔王とかと闘わされるんじゃない 帰れってそっち?なんだ元の世界に帰れってことかと思った。

「あの、俺って勇者ですよ?」

「ふむだからどうした?」

だからどうしたってあの....

「魔王と戦ったりしなくていいんですか?」

そんなもの我が国の勇者だけで事足りる」

え、 勇者って俺以外にいるの?普通勇者って一人じゃないの?

勇者を一人倒せればお前を我が国の勇者にしてやろう」 なんだ、 お前はそんなに武芸に自信があるのか?ならば我が国の

完全に俺の予想の斜め上の展開に思考が追い付いてこない。 あの一人ってことは勇者は複数いるんですか?

· え、あの、はい、ではそうします」

も空手もボクシングもムエタイもやったことないですよ?いくらな んでもこの返事はまずいだろ。 はいやっちゃった。 俺って喧嘩とかしたことないよ。 剣道も柔道

「そうか、三井」

はい、姫様」

体系の仕事をしてそうな感じだ。 肉体系だが) たぶん20歳くらいだろう、体つきはがっ 三井と呼ばれた男が整然と並んでる兵隊の中から一歩歩み出た。 (いや、 しりとしていてなんか肉 勇者なり兵隊はたしかに

`かしこまりました」 `この男と戦え」

いや、 三井はうなづくと腰に差された剣を抜いた。 こっち素手ですよ?武器は反則じゃない?

・君、この世界に来たばかりだろ」

は知らんけど、その通りだからぐうの音も出ない。 質問、 というよりは確認のように三井は言った。 なんでわかるか

ないよ」 「元の世界で格闘技でもしてた?そうじゃないなら俺には絶対勝て

いもん。 じゃ あだめじゃん。 絶対勝てないじゃん。 格闘技なんてやってな

· はじめ!」

距離が瞬きするような時間でなくなり振りかぶられた剣が俺ののど 元につきつけられる。 姫の一言で三井は一気に駆け出した。 10メートルくらいあった

なんだ、面白くもない」

部屋を出て行った。 姫様は完全に俺から興味をなくされたようで席を立つとさっさと

けられている事実にへなへなと腰を抜かしてしまった。 とがないもんで、 当の俺の方は生まれてこの方ナイフや包丁すらつきつけられ 自分ののど元に剣なんて言う物騒なもんがつきつ

. さっさと城を出た方がいいよ」

え、 三井は剣を鞘に戻しながらそう言ってさっさと俺に背中を向けた。 いや、あの.....これでおしまい?いくらなんでも早すぎじゃ

ね?

に転がってしまう。 うちに両腕を掴まれて城の外まで連れられて行ってしまった。 まるでゴミを頬るように門の外に投げつけられた俺は無様に地面 しかしながら勝負に負けてしまった俺は弁解も何もする暇がない

「さっさと帰るんだな勇者様」

いった。 俺を頬り投げた一般兵B (仮) はそう言い残して城の中に戻って

あっれぇ~、どこでフラグ壊したんだろ?

3話 ものすごくいい人に出会いました

ちなみに本名。 俺の名前は獅子王ガイ、勇気ある (後略)。 普通の高校生だった。

さて、 ばるなんちゃらの勇者になり損ねた俺は、 ここで問題が一つ。 俺はいったいなにをすればいいのだろ ただの元高校生だ。

· いや、どうしたもんか」

昭和の商店街。いや、江戸時代の城下町くらいにしておこう。 つの間にか店は開き、 城から放り出されてからとりあえず再び大通りに戻ってきた。 商人たちが活発に声を上げている様はまさに l1

ばるなんちゃらの勇者になれていればこんな悩みはなかったんだろ うけど今更悔やんだところでどうしようもない。 てがない以上は当てがなくさまようほかにやることがない。さっき 当てもなくさまよったところでなにができるわけでもないが、

「お、やっと見つけた」

. ん? .

ょっとばかりの恨みはある。 顔だせたなぁ!と、 か軽装備にした三井が立っていた。 よくもまぁぬけぬけと俺の前に どこかで聞いたような声に振り返ってみると先ほどの鎧をい 襟首ひっつかむほど恨みはないが、 やっぱりち くら

時間はある?よければ同郷みたいだし話がしたいんだけど」

ええ、 まぁおかげさまで時間は有り余ってますが。 まぁい いだろ、

こっちもいろいろ情報がほしいし突っぱねる必要はないな。

「えぇ、大丈夫です」

すから安心していいよ」 そっか、 じゃあそこの料理屋にでも入ろう。 あ 金はこっちが出

て行った。 いるのだろう。 さすがにこの世界に来た先輩?なだけあって俺の状況は分かって いい加減腹が減っていた俺は喜んで三井の後につい

井が選ぶって形をとった。 中身が想像できないから、 手早く注文を終えて俺たちは向かい合う形で座った。 食いたいものを三井に伝えてそれから三 ありがとう三井。 料理名から

たから年齢は21」 「まずは自己紹介かな?俺は三井 純 W大学教育の2年、 一浪し

「獅子王ガイ、高3、17です」

「え!?獅子王ガイって、 そうです」 ライオンの獅子に王様の王で獅子王?」

何人かいたよ。 なんか妙に食いつくな.....ヲタクだなこの人。 高校でもこんな人

ご想像の通り、 あの勇者王の主人公と同姓同名です」

して勇者になったって感じじゃ すっげ !獅子王なんて名字あるんだね。 まさに勇者になるべく

はぁ....」

の俺は勇者って言えるのか? たしかに、 勇者になるべくしてって感は少しばかりはあるが、 今

「いやぁ、うらやましいよそんな名前」

こっちとしては厨二くさくて嫌な名前なんだがな。

っと。 話が脱線したね。 獅子王君はいつこの世界へ?」

ガイでいいですよ。 獅子王って言いにくいでしょ?」

そっか、 わかった。 で、ガイ君はいつ来たの?」

「昨日です」

昨日!?そのわりにはずいぶん落ち着いてるね」

の方が強いけど。 ぶっちゃけ、 落ち着いているっていうよりもあきらめてるって感

以上はここで生活するんだなくらいにしか思ってませんよ。落ち着 なかったけどね」 いてるっていうなら、三井さんも同じだったんじゃないですか?」 「俺の場合、なるようになる。ってのが座右の銘なんでこうなった わかる?まぁ俺の場合は来たばっかりのころは興奮が収まら

狂喜乱舞するにきまってる。 わかりますとも。 あんたは絶対ヲタクだからこの状況になったら

らないよね」 でも、 昨日来たばっかりだったら、 この世界のことはなにもわか

まぁそれは」

んじゃ、説明はそこからだね」

るだけあって説明は非常にわかりやすかった。 三井さんの通うW大学、 学力が高いうえに彼は教師を目指してい

いる。 ので、 するそうだ。 人材が不足しがちなため召喚の魔法を用いて異世界から勇者を召喚 三井さんいわく、 勇者の中にはその魔王や魔物と戦うために召喚された人間も また、 この世界は国家間の戦争が頻発しているため、 この世界には魔物や魔王といわれる存在がいる

うなものなので戦闘向きでない人間もいるが、 どが向上したり、 ているそうだ。 ようになる人間が居たりする。 基本的には隠れた才能が開花するよ に様々な職に就いている。 確立していない、 召喚魔法自体は一方通行のため元の世界に戻る方法は今のとこ などなど要約するとそんなもんだ。 そのため召喚された勇者はこの世界で生きるため この世界では上級といわれる魔法を簡単に扱える 軒並み地球にいたころよりも身体能力な 様々な分野で活躍し

ンフェルトにスカウトされたって感じかな」 まぁ 俺の場合は冒険者ギルドで1年くらい活動してたらバルデ

うするればい 問題は俺がそのVRMMOをやったことがないという点にある。 なんとなく 61 この世界は のか方針が立てづらい。 ٧ Ř M M 〇のようなものだと理解できた。

三井さんのコネでそのばるなんちゃらの勇者にはなれませんかね

じゃ きる権限はな ない やぁ し入ってから1年も経ってないしね。 俺もバルデンフェルトの勇者団の中じゃ な さすがにそこまでで あそこまで優秀

ふ む やは りばるなんちゃらの勇者になるのはむずか しいようだ。

うのが一番現実的ですか?」 とりあえずは、 三井さんみたいに冒険者ギルドで活動するっ て 61

合った職に就 の世界では超一流って言われるくらいの実力になる人間も少なくな なり冒険者ギルドってのは考え物だね。 ガイ君の能力がどんなものになるのかわ くのが一番現実的だよ。 基本的に能力が開花したらこ 能力がわかったらそれに見 からないからい

単に死ねるな。 確かに、 自分の才能が戦闘向けじゃ なくて料理人とかだったら簡

ちょ その能力はどうやってわかるんですか?」 っとわかんないんだよね。俺の場合、 こんな世界に入った 5

わからない んだったら、 当面はどうしようもないな。 金を稼がな

能力が身体能力アップみたいな感じだったからそれが幸いしたけど」

って思って冒険者ギルドに入ったからね。

たまたま

冒険しかない。

เ

ければどうしようもないが、

そのために死ぬような思いもしたくな

なくとも死ぬような心配もないし」 んなものか調べるのが一番無難だと思うよ。 とりあえずは、 どっかの店で下働きでもしながら自分の能力がど 料理屋でも宿屋でも少

「 そうですか」

異世界にきてアルバイトかよ。 なんか泣けてくる。 勇者なのに

でも死ぬのは勘弁してほしい。

理を無言のまま口にした。 ここで少し沈黙が訪れ、 俺たち二人は話の途中で運ばれてきた料

俺は三井さんに注文してもらったベルフィ というリゾッ のも

のをぐちゃぐちゃとかき混ぜながら思考にふける。

だろうから」 所にでも行くんだね。 まぁ、 考えていても埒はあかないし食べ終わったらギルドの相談 場所はその辺の人に適当に聞けばすぐわかる

幣の銀貨だろう。 りい と言って銀色のコインを5枚テーブルの上に置く。 ながら三井さんは立ち上がった。 三井さんいわく1枚で10000円に相当するら 「それとこれは餞別だよ」 先ほど聞いた貨

「こんなに!?いいんですか?」

ばしばらく生活には困らないはずだから。 これでも国家専属の勇者 ってのは給料がい しても給金が入るのはしばらく後だしね。 はは、 ありがとうございます」 何をはじめるにしても多少のお金はいるよ。 いから気にしなくていいよ」 それまでの生活費にすれ 下働きするに

ずだった相手からこんな大金を受け取るのはさすがに迷うところだ 俺は三井さんに頭を下げて銀貨を受け取った。 無一文では人間生きていけない。 今日まで見ず知ら

代金は払っておくから安心してね」 「じゃあ、 俺はそろそろ休憩時間も終わるし行くから。 言った通り

ままだったらいきなり死亡フラグ経ってたしな。 まじでこの世界でこんないい人に会えてよかった。 三井さんはそう言い残すと手を振って料理屋を後にした。 何も知らない

当に申 さっ し訳な きまで勇者になれない原因になったなんて恨んでいた く思えるほどにい い人だ。 金が稼げるようになっ のは本 たら

ぜひとも返しに行かなくてはいけない。

た。 のリゾット..... ではなくベルフィというリゾット風のものを口にし 俺は店を出て行った三井さんにもう一度頭を下げるとベルフィ風

案外うまいなこれ。

4話 当店は閉店いたしました

なみに本名。 俺の名前は獅子王ガイ、 勇気ある (後略)。 勇者.....らしい。 ち

ドの相談所らしい。 相談所といっても相談を受け付けるだけじゃな く各ギルドの案内所兼相談所だそうだ。 さて、俺はいま巨大な建物の前に立っている。 この街にあるギル

とまでやってるとは実に驚きだ。 る店を探すためにやってきたわけだが、 俺的な神、三井さんに言われた通りどっかで下働きを募集して ギルドの案内所はそんなこ

「さて、入るか」

でいるようなことが容易にできそうなつくりをしていた。 く並んでいるそこは俺のイメージ通りの荒くれどもが酒を飲み騒い くりをしているだけで実際にそうしている人間はいない。 人間がいない。 俺は両開きの扉を押して中に入った。 木造の椅子やテーブルが多 そう、 というか、 つ

あの、誰かいませんか?」

声をかけても返事すらない。 適当な椅子を引いて座ろうとした。 どうしようもないので、 受付らしい場所にすら誰もいない。 人が来るまで待つしかないだろう。 いったいどこのゴーストタウンだ? カウンター の目の前に立って 俺は

. ?

焚かなければほの暗い。 している。 椅子の色がなんだかおかしい。 しかし、 それ以上にこの椅子は奇妙な色を 昼間だが、 広い建物内は明かりを

俺はとりあえず椅子の上に人差し指を走らせた。

真っ黒だよ。 も激甘に見たところでこの状態じゃ合格できまい。汚すぎ.....指が なんだか、 いじわる小姑のおそうじ検査のようだが、すくなくと

子が同じ状態みたいだ。 した俺は別の椅子を引いて座ろうとした。 どうやら、この椅子はしばらく使われてなかったのだろうと判断 どうやらすべての椅

なんか廃墟みたいだな。

ると入り口近くの扉に一つの張り紙を発見した。 疑問に思った俺は仕方がないので建物内を適当に調べてみる。 す

閉鎖しました。 御用の際は各ギルドにてお伺いいたします』

......マジで!?

5話 不本意ながら冒険者になりました

あ大変。 求職のためにギルドの案内所を訪ねたところ閉鎖していたのでさ 俺の名前は (後略)。 勇者.....らしい。 ちなみに本名。

宿屋とかの下働きの為には何ギルドに行けばいいんだろうか

考えても仕方ないし、適当に行くか」

すのはよくある話だ。 人生なるようになる。 時に思い切った行動が思わぬ成果をもたら

う。 人でうなづいていると周りの人の視線が痛いからさっさと行こ

た。 俺はとりあえず最寄りのギルドがあるらしい建物に向かうのだっ

ſΪ こも閉鎖してるのかと思ったらカウンター さて、 下働きの斡旋をしてるギルドはどこか聞いてみるとしよう。 やってまいりましたギルドです。 案の定人が居ません。 の向こうに人はいるらし

きね」 あの、 ?あぁ、 すいません」 は いはい。 パレードも見ないでギルドに来るなんて物好

うに対応するのはやめてほしい。 なんでいきなり毒づかれなきゃいけないんだ?さもめんどくさそ

お姉さん美人なんだからそんな顔しないで.....ぶっちゃけ怖いで

「 は ? ?

11 や いきなり「で?」とか言われても何にも出来ないんですが。

い?じゃなくてギルドカー ド出しなさいよ」

「持ってないんですけど.....」

「えぇ~登録なの?もうめんどくさいわねぇ」

「いや、そうじゃなくて.....」

ごそと何かを探しているようだ。 お姉さんは人の話も聞かないでカウンターの下に潜り込んでがさ

「じゃあはい、このカードに血ぃ垂らして」

「いやだから.....」

ウンターに置いた。ていうか、 お姉さんはそう言って何かの金属でできたような板とナイフをカ 話を聞け。

ただでさえめんどくさいんだから早くしてよ」

「つちょ!?」

傷をつける。 お姉さんはじれったそうに俺の手を掴むとナイフで指先に小さく ちくりとした痛みを伴い俺の血が一滴だけ板に落ちる。

わかったら帰んな」 はい かんりょー。 明日には手続きも終わるから取りに来るように。

「だから、 俺はギルドに入りに来たんじゃないんだよ」

、 は ?

が呆けたようにあんぐりと口を開けた。美人の間抜けな面ってのは 初めて見たが、美人はどんな顔しても美人だ。 ようやく要件を切り出せそうになったところでお姉さんは美人だ

いやしてないよ。だってここ冒険者ギルドだし」 ここって宿屋とかの下働きの斡旋してますか?」

じゃあ、下働きの斡旋をしてるのはどこのギルドですか?」

「一般労働ギルドだけど.....」

「どこにあるんですか?」

んだか気まずそうな顔をしてるがどうしたんだろう。 先ほどまでと違い、どうにもお姉さんの歯切れが悪くなった。 な

いや、 あ とりあえずそういった仕事から始めてみようと思いまして」 んたそこに行ってどうするつもり?」

情けないところはできるだけ隠しておきたい。 たくはない。詳しい説明は省きたいところだ。 いきなり異世界に召喚された勇者が下働きを始めるとかって言い なにせ勇者だからな、

どうしたんですか?」 は?な、 なんでですか?」 悪いけどあんた一般労働ギルドには入れないよ」

まっているのか? あれか?勇者はそんな情けない仕事をしてはいけないと法律で決

お姉さんには俺が勇者だと説明してないし... 服を見れば

もうなんでもいいけど、それは困る。それっぽいとはわかるのか?

^? だってあんた冒険者ギルドに登録されちゃ ったもん」

なぜ?why?何故?

そんな書類とかにサインした覚えは一切ないんですが。

ギルドに登録したら、別のギルドでは登録できないの」 どこのギルドとも情報の共有がされてるんだよね。 だからどこかの 「さっき血を垂らしたカードがギルドカードなんだけど、 あれって

「なんでですか!?別にいいじゃないですか!」

ドは脱退できるようになるからそれまでの辛抱ってやつね」 まぁ規則だからしょうがないってやつよ。 一応半年たったらギル

険者の仕事でも死ねるっぽいし。 それまでに生活費が底ついて死にますって.....働こうとしても冒

餓死するかそれ以外の死に方か.....ある意味究極の選択だな。

事があるからだし」 に実行されるからもう手遅れ。 いですか。 「そうだ!だったらそのギルドカードを提出しなければい あぁ、それは無理。 お姉さんがそれを登録しなければ.....」 登録自体は血液登録した瞬間に魔法で自動的 明日までかかるのは書類上の事務仕 61 な

かに抜け道があるはずだ。 どうしようもねえな。 完全に退路断たれたか?いや、 まだど

だったら、 お姉さんのミスなんだからその辺無効にしてください

ょ

「無理無理、私にそんな権限ないから」

「せめて上に掛け合ってくださいよ。 こっちには命かかってんです

かってると言っても過言じゃないだろう。 こっちはマジで、命がけだ。 今後の人生すべてが今この瞬間にか

「無理だっつの。 人間諦めが肝心なんだ、 あきらめな」

な先生が言っていたんだ。 俺はあきらめない。 あきらめたらそこで試合終了だと偉大

俺は絶対あきらめない。

•

•

•

•

•

なかった。 結論から言おう、 俺は冒険者になった。 というか、 ならざるをえ

間以上の激論を乗り越え、 事態に発展。各方面にさんざん確認作業や、 した。その結果がこれだ。 - ルなんかを決めるギルド議会とかいうやつにまでご厄介をかけま 午後一番に向かって、ギルドの事務受付の終業時間まで実に6時 ついにはギルドマスター が出張ってくる 全ギルドの基本的なル

ろうか? はなくても特例として一般労働ギルドが使えたりするんじゃ ないだ ここまで来たら下働きぐらいならいいだろうってな感じで取り消し もはや、神のいたずらと言う他にないんじゃないだろうか?普通

乗り越えたがやっぱりどうしようもなかったそうな..... でもダメなんだそうだ。 クレーマー も真っ青なクレー 激論を

だっていたら俺に意地悪しすぎだもん。神様はいない、きっといない。

6話 美人なお姉さんと同居を始めました

目にあった。まぁ、大変な目はほんと勘弁してほしかったけど一つ いいこともあったのでここに記しておこう。 紆余曲折を経て冒険者になった俺だが、昨日はいろいろと大変な 俺の名前は獅子王ガイ、 (後略)。冒険者兼一応、 勇者だ。

泊費は0、食費だけ入れればいいそうな。 これは素晴らしいことだ。 しばらくの間泊まる場所を確保した。これは素晴らしいことだ。 大切なことだから二回言おう。 なんと宿

'おはよう、あんた早いのね」

「あ、おはようございます」

う。 ったその人なわけだが、今ではそれもいい思い出.....なのか? このお姉さんこそが俺の運命を強引に捻じ曲げたその人だ。 アリアさんがぼりぼりと頭をかきながら部屋から出てきた。 てきたりしてきたあたりアリアさんなりに罪悪感は感じてるのだろ まぁ、 つまりは、 窓から外を眺めていると俺が居候させてもらっているお姉さん。 後ろからギルドマスターが思いっきり彼女をにらんでたから、 簡単に訳を話したら部屋が空いてるからと同居を申し入れ 昨日冒険者ギルドで俺の話も聞かずに登録をして そう、 しま

だ。 ルドのお姉さんの家に居候しながら冒険者をすることになったわけ かくして、俺は泊まり込みの下働きをするのではなく、 冒険者ギ

その辺も影響したんだろう。

あんた今日はどうするの?」

ドに行こうと思います」 とりあえず、冒険者ってどんな仕事があるのか調べるためにギル

がないか調べる必要もある。 てはいけない。 ギルドカードの受け渡しもあることだし一度はギルドに行かなく ついでにギルドの仕事、 俺が受けても死なない仕事

仕事?そんなのギルドいかなくても私が教えてあげるよ」

え?いいんですか?」

まぁ、 今日は非番だしね」

思ったら、存外いい人だった。三井さんに引き続き俺的な神に認定 しておこう。料理も上手で何気に世話焼きな人だ。 のアリアさん、 美人で怖い人 (ついでにめんどくさがり)

まずは確認だけど、 あんた弱いんだよね?」

ない いきなり言い のが痛い。 にくいこと聞いてくるな。 事実だからうなづくしか

「ええ、まぁ 冒険も何もしたことないんで」

らいだろうね」 森で危険度の少ないモンスターを狩るか、 だったら、どっかのグループに入って下っ端から始めるか近くの 薬草とかの採集をするぐ

弱いモンスターなんかいるんですか?」

ないさ。 「 そりゃ ウサギとか鹿とか食用にするモンスター はそんなに危なく の危険もないね」 まぁ、狩ってる途中でボアとかベアーに襲われなければな

ド のシステムや仕事は以下の通りになる。 なるほど その後のアリアさんの説明を要約すると冒険者ギル

ギルドのランクはGからはじまり最終的にA、 ź SSというラ

かの ないためグル ンクまで上げることができる。 一個師団が対応 ープで仕事をこなすことになる。 しなきゃならない規模の敵と戦うことも少なく 基本的にA以上になると騎士団なん

は一般人の年収の5倍とかがザラにある。 多くなる。 般人には手におえな 中位の仕事が受けられるようになり、村を襲うゴブリンの集団 ができず、 ので当たり前といえば当たり前らしい。 ギルドの仕事はGからEランクまでは下位の仕事し A以上になると上位の仕事が受けられるようになり報酬 危険度は軒並み低め いレベルのモンスターを討伐する仕事なんかが (当然報酬も)。 DからBになると 当然危険度も半端じゃ か受けること

ばれるのはそれ ランクぐらいなんだそうだ。 Aで一つの国に一人ぐらいしかいない。Sになると現在の大陸で一 人か二人、SSランクは過去に一人だけいたらしいが、 基本的にEからCくらいまでのランクが一般的に多く一人前と いらしい。とまぁ、こんなところだろう。 くらいの人間。ベテランなんて呼ばれる人間でも A以上になると超一流 なんて呼ばれ、 今は一人も

なんですか?」 なるほどねぇ 冒険者ならやっぱり武器とか持ってないとダメ

かれてないけど、あんただったら武器の一つも持たなかったら簡単 ぬんじゃない?」 素手が得意なやつとかだっているから規則にはそこまで

なに そこはもっとオブラー よオブラートって」 トに包んでほし ١١ んですが

になっ 妹的 にも苦労 そういえば、 てたんだが な (人は幼馴染と呼ぶ) しただろう。 の世界にオブラー l1 つがこの世界に生まれ やつ がガキの頃からさんざんお世話 な んてもんは てたら、 な l1 薬を飲 だろうか

「そ、仕事受けるんなら先に買っといたほうがいいよ」 とりあえず、武器はないとまずいってことですね」 わかりました」

問題だ。 って大通りに出ることにした。 そのあとはアリアさんの作った朝飯を (うまかった) たらふく食 まずは武器を買わないと命に係わる

で、武器屋はどこだろう?

7話 とりあえずナイフを買いました

(前略)

り着いた。 大通りに出ていろんな店を冷やかした結果ようやく武器屋にたど

て目移りしてしまう。 入ってみると剣だとか槍だとかいろんな武器が所狭しと並べてあ

へえ~、この剣なんかかっこいいな」

愕した。金貨5枚 手近な壁にかかっていた剣に手を伸ばそうとするが値段を見て驚 まじで?

感じで各貨幣の差はちょうど桁が二つ分になる。 大きな塊、大きめのビー玉くらいのサイズ) が1000円といった の所持金、銀貨5枚の100倍.....5百万円に相当するわけだ。 三井さんいわく、貨幣は銅貨が100円ほど、銅塊(コインよ ちょっと高くありません? つまりこの剣は俺 1)

いや、ちょっと高くて手が出ないわ」兄ちゃん、その剣買うのかい?」

ら醸し出している。 々としてていかにも昔は荒くれ者だったぜ!みたいな空気を全身か 不意に後ろから声をかけてきたのは店主らしきおっさん。 ぶっちゃけ顔怖すぎて話しかけづらいんだけど。

「へぇ、そうかい。予算は?」

銀貨で5枚。 防具とかもちょっとほしいから出せても3枚かな?」

ぁ武器に金をかけたい。 はないしね。 防具の相場はわかんないけど攻撃に重点を置きたい俺としては 攻撃は最大の防御。 一撃で敵を殺せば反撃

銀貨で3枚?それじゃ あ武器なんて買えねえよ」

「え、マジっすか?」

「そりゃあ、 いもんならそれこそ銀貨5枚なんてあっという間だ」 ナイフだってそれなりのもん買えば銀貨で

る森には入りたくない。 ナイフでボア (ってことは猪か?) やベアー それはちょっと予想外だな。 さすがに刃渡りが10センチ程度の (これは熊だろ)が出

なんかサービス品とかありません?」

やるとこだが、見たところ腕も大したことなさそうだからな」 兄ちゃんがいっぱしの使い手だったら後払いでもい いから売って

力ってのも重要なんだな。 わかるもんなんだな。戦いが多い世界では相手の力量を見極める眼 まぁた しかに俺は剣も振ったことのない素人だけど、見ただけで

ゃ仕事ができない。 にしても、このままだと本気で危ないなぁ。 自衛手段がない んじ

たくないんですよ」 なんとかなりませんか?今日から冒険者になるんですけど、 死に

だ、 こっちは命がかかってる以上情けないとかダサいってのは二の次 なりふりなんて構ってられない。

こっちの必至そうな形相に反して武器屋のおっさんもあくまで商

売だ。 俺のこともたんなる客の一人としか見ていない。

本銀貨2枚だから」 おとなしくそこら辺のナイフから選ぶんだな。 だめだめ、 いくら言っ たところで金がない んじゃ そこなら高くても一 剣は売れな

俺にはその意味や内容が理解できるってところだ。 たときになんか特別な処置がなされたんだろう。 でいる。 そう言っておっさんが指差したあたりにはナイフがずらりと並ん 驚きなのはミミズがのたうったような文字にもかかわらず たぶん召喚され

「はぁ.....

だろう。 日のギルドのときほど粘ったところで今回の場合事態は好転しない これ以上ごねたところでどうしようもないのだろう。 まぁ、昨日も事態が好転したわけじゃないんだけど。 さすがに

うもない。 ない。この中でもいくらかましなもんを選ばないことにはどうしよ とにもかくにも何も持たないで危険なところに行くわけにはい か

「 ん?」

た。 が30センチほどあるナイフというよりはなたに近いそれだった。 剣というにははるかに短く、 0~20センチのナイフの中でそれは奇妙な存在感を醸し出してい 何気なく見た何本もあるナイフの中で俺の目を引いたのは刃渡り ナイフというには少し長い。 刃渡り1

おっ ん?あぁ、 さん、 そいつはちょ これもナイフなのか?」 いと長いが剣っていうには短いからな。

うでもないらしい」 緑色の宝石がついてたし、 風属性の属性付加のもんかと思ったがそ

妙に飾り気があった。 れている。装飾がほとんどなされていないナイフなのにそこだけは おっさんの言うとおり柄と刃の間に一つの緑色の宝石が埋め込ま

0センチあるのは短いナイフの中ではかなり魅力的だ。 のはたぶん相当便利になるんだろうが、 値段も銀貨1枚に銅塊8つとそこまで高くはない。 それがなくても刃渡りが3 属性付加って

`ふぅ~ん。まぁいいや、これをおくれ」

マジで!?いいのおっさん」 あいよ、銀貨1枚に銅塊.....えぇ~い特別だ、 銅塊は5つでい <u>ل</u> ا

が、 サービスしてやら」 あぁ、さすがに銀貨1枚とか金貨1枚くらいの値引きはできねえ 銅塊3つくらいならお前さんの冒険者になった記念ってことで

三井さんしかりアリアさんしかり。 このおっさんもマジでい 金を稼げるようになっても武器はここで買うようにしよう。 やば ſĺ この世界に来てからめちゃめちゃ いい人に出会いやすい。

「おぅ、いい冒険者になんな兄ちゃん」「あんがとおっさん!ほんと助かるよ」

た。 さんはそこもサービスしてくれた。 歩きやすいようにとおっさんが太鼓判を押したブーツを一緒に買っ しめて銀貨3枚に銅塊7つ。 ほんとは端数もあったんだがおっ いでに胸の部分にだけ鉄製の板がある皮の胸当てと森の中でも おっさんマジ親切

に向かうのだった。 こうして形だけでも冒険者っぽい格好になった俺は冒険者ギルド

8話 初めて仕事をすることになりました

(前略)

りににぎわっている。 にやってきた。 レードをやっていたらしくほとんど人はいなかったが今日はそれな 昼過ぎになって武器屋を後にした俺は昨日も訪れた冒険者ギルド 昨日はばるなんちゃらの騎士団がやってきたんでパ

すけど」 「すいません、 昨日ギルドカー ドの登録をしたんで取りに来たんで

カウンターに ためにカウンターに向かった。 俺はとりあえず出来上がっているはずのギルドカードを受け取る いるのは当然別の人だ。 アリアさんは非番と言っていたので

' はいはい、獅子王さんで間違いないですか?」

「はい」

では、 確認のためギルドカードに触れてください」

が浮かび上がる。 言いながら差し出された昨日の板に触れるとどうしたわけか文字

獅子王 ガイ ランクG』

に文字が並んでるのに下には何もないのはどうしてだろう。 それ以外にはほとんど何も浮かんでこなかった。 上に詰めるよう

「はい、オッケーです」

カウンターの上に置いた。 カウンター のお姉さんは俺にカードを渡すのと一緒に薄い冊子を

「では、詳しい説明をさせていただきます」

ったので確認したいことがあったらアリアさんに聞いた方が賢明だ を俺に説明する。 お姉さんはさっきアリアさんが言っていたのとほとんど同じこと なんとなく説明はアリアさんの方がわかりやすか

なにか質問はございますか?」

通りの説明を終えたお姉さんは形式通りにそう言った。

? あぁ、 ギルドカードに表示される文字が上の方だけなのは何でですか?」 それは下の方にはまだ表示される内容がないからです」

ターの中で代表的なものなんかが表示されるんですよ。 をこなした、成功数は?失敗数は?だとか今までに討伐したモンス していない獅子王さんは表示される内容はありませんから」 「下の方に表示されるのはその人の功績 たとえばいくつの仕事 まだ仕事を

能なんだよ。 が自動的に登録してくれるらしい。 い話によれば、 なるほど、仕事の内容までギルドカードに表示されるのか。 討伐したモンスター は申告制ではなくギルドカード ギルドカードってどんだけ高性

仕事が掲載されているという掲示板の前まで移動した。 とりあえず説明も終わり俺はギルドカードをポケット にしまうと

ない。 希少だからしょうがないことなんだろう。 の掲示板の前だけは人っ子一人いないし、仕事自体も張り出されて みたいだな)が掲載されている掲示板の前には一人二人しか人がい いないが、アリアさんの話では上位の仕事が受けられる人間自体が 下位の仕事、 というか、 なんとなく言いにくいから下位クエスト (モン それぞれの掲示板が似たような状態だった。 上位

れている1枚の紙を取ると受付まで行ってしまった。 には掲示されている紙をカウンターに持っていけば 俺が掲示板 の前まで来たことを受けてか、 先にいた一人は掲示 L١ 仕事を受ける いようだ。 さ

を選ばないといけないから慎重に。 とりあえず掲示されている仕事を確認しよう。 危険が少ない仕事

| 求む、鹿3頭 依頼主:料理屋 大衆堂』

ドメドメ草 2 0 株 依頼主:医者 リンゲル』

『うさぎ1ぴきください 依頼主:みるか』

商品搬送の護衛 隣町まで 依頼主:商人 ガメツキー

etc.etc..

少なかったりする 下位でも護衛の仕事なんてあるんだな。 んだろうか? 隣町までだったら危険が

なんてない俺には難しいかもしれない。 この中で受けるなら鹿が一番妥当っぽいけど、 しこれもやば いだろう。 ドメドメ草なんて見たこと 鹿を捕まえたこと

だる。 させ、 あれ?俺の受けられそうな仕事がない。 なにごともやったことがないのならこれから経験すれば これはゆゆ しき事態だ。

紙を掲示板から取り受付に向かう。 と大丈夫だ。 受付を済ましてギルドの外へ、 とりあえず俺は最初に目に入った鹿3頭の仕事を選ぶことにした。 初めての仕事だし緊張 まぁ人生なるようになるだろう。 してるがき

9話 かわいらしいペットを見つけました

葉っぱが多かったり全体的にでかい印象があるけどその辺は気にし ない方向で。 ってきました街の近くにある森。 さりげなく地球産のものより

探せばいいのか見当もつかない。 道なりにけっこう奥まで来たけど 動物の影すら見当たらないのはどうしたもんか。 とりあえず鹿を探して捕まえなきゃいけないんだけども、 どこを

実にマップ移動とかあったら怖い。 いるとかなら楽できるけど現実はそんなに甘くない。 モン ンみたいにマップ移動したらデフォで何匹かモンスター が というか、 現

0で街に変えるのは勘弁願いたいんだが。 んだろうか、このままじゃ日が暮れても鹿が捕まえられない。 にしてもマジで動物の影も形も見当たらないのはどうしたらい 収穫 Ĺ١

「ん?」

むらに近づいた。 んでもいいんで動物がいることだけ確認したいな。 なんかそこの草むら動きませんでした?とりあえずウサギでもな と思って俺は草

てしまった。 あまりに不用意に近づいたもんで、 その一撃を俺はもろにくらっ

ぷげらっ!」

だ。 を悟った。 人って空を飛べるんだ!浮遊感を味わう短い間に俺はそんな真理 たとえそれが体長3メー 人間はその気になれば空を飛べる。 トル近い熊に殴られたことが原因であ 実にすばらしいこと

「グォオオオ」

ラと血が流れる顔を熊に向けた。 デカい。 の胴回 りの2倍近い太さの木に激突して地面に落ちるとダラダ

奇跡じゃないのか? 子供の胴回りくらいある太さの腕でふっとばされて生きているのは って熊がこんなにでかいのは反則だ。 熊ってふつう2メートルくらいじゃないんですか?異世界だから つか、顔が痛い。 非常に痛い。

にしたら死ぬって。 れよ。今の俺ってどう考えてもレベル1だろ?こんなデカい熊相手 ていうか、まさかほんとに熊に会うはめになるなんて勘弁し て く

シュ。 顔も痛むし逃げるしかない。 とりあえずあのデカブツを撒くまで走り続けるしかないな。 立ち上がると同時に背中を向けて

... ちょ、 ちょっとちょっとちょっとぉ!なんで速いんだよぉ

るって。 んだけど。 あれじゃない?熊って動きがのろいんじゃないの?ものっそい いくら走っても逃げ切れる自信が全くない。 絶対捕ま 速

次にくらったら絶対死ぬって。 無理だよ。 じゃああれか?これはあいつと戦えっていう神の意思か?それも だってあいつの一撃で俺3メートルはふっとんだんだぞ。

すぐに捕まってしまう。 これじゃあ隠れることもできそうにないしまっすぐ逃げただけじゃ なんとか逃げようと走り続けていると開けた場所に出てしまった。

[|] 覚悟を決めるしかないのか?|

ともないし構えなんて知ったこっちゃないけど手に持って威嚇する ようにつきつけてやるだけでも牽制にはなるだろ。 取り急ぎナイフを鞘から抜くと適当に構えてみる。 剣を振っ たこ

゙゙ヷ゙゙ルルルルゥ」

とができなくなってしまった。 向けた瞬間一気に襲い掛かってくるだろう。 これで完全に逃げるこ 案の定熊は距離をあけたまま動きを止めた。 たぶん、また背中を

方は隙なんてわからないけど意識がそれた瞬間にまた逃げてやる。 俺と熊はお互いに相手の隙をうかがうように動きを止めた。

きないだろう。 のままこの熊が諦めてくれたら御の字なんだがそれはあまり期待で 動きを止めてから俺の体感的には永遠ともいえる時間が過ぎた。 5分ほどが過ぎたのか、まだ10秒もたっていないのか俺と熊が こ

不意に、本当に不意に近くの草むらが動いた。

「グルアアアアア!」

だっ た。 うが俺のナイフは熊の左目を切りつけた。 まるで神経をぎりぎりまで研ぎ澄ませた侍同士の立ち会いのよう 熊は俺に襲い掛かり俺は熊の一撃を避ける。 偶然なんだろ

うとする。 悲鳴のような叫びをあげながら熊は腕を振るって俺を殴り飛ばそ それも間一髪で回避するが鋭い爪によって胸板が削られ

る

子はないようだ。 とに勘弁してくれよ。 ラダラと垂らしながら余計に殺気立ってこっちをにらんでる。 人しく街に帰れるのに。 これで熊の方が諦めてくれるならよかったのだが、あきらめる様 俺と熊はお互いの立ち位置を入れ替えるようにして再び対峙 獣らしく口からは涎をダラダラ、左目から血をダ このままあきらめてくれればこっちだって大 ほん

俺は何気なく一度ナイフを振って構えなおした。

「ギュルアァァ」

熊 の腹から血が噴き出した。 俺はもう一度ナイフを振っ なぜか知らないが熊は腕から血を流して悲鳴を上げる。 てみた。 すると今度は腹が切れたのか なぜ?

゙もしかして.....」

にしか見えない。 き出した位置から考えても、 実はおっさんが言ってた風の属性武器じゃないのか?突然血が噴 どっちにしろ使える。 かまいたちみたいな感じで切れたよう

そりゃそりゃそりゃぁ!」

切りつける。 を上げる。 俺は適当にナイフを振りながら少し離れた位置にいるはずの熊を 腕 足 腹 背中と次々血を吹き出しながら熊は悲鳴

ぐ、グゥゥ」

ま動かなくなった。 最後の頭に放った一撃が致命傷になったのか熊は地面に倒れたま 念のため頭と両手両足をもう一度切ってみるが

声も出さず動く気配もない。

「..... ふう」

ついた。 ちにするなんて夢にも思っていなかった。 俺は気が抜けたようでぺたりと地面に腰を落としながらため息を まさか熊に襲われるとは思ってなかったしそいつを返り討

う。 とりあえず危機も去ったことだし休んだところで問題はないだろ

「ん?」

そうだ。 スを彷彿させる。 につき20センチ近くありそうだ。 らいの小動物が目に入った。 黄色い毛並みは鮮やかでさらさらして さきほど気配がした草むらの方に目を向けてみると30センチく つぶらな瞳は緑色をしていて、顔が小さいわりに耳は片方 なんとなくナウ カのキツネリ

手を付けている俺の手のにおいをふんふんと嗅いだ。とりあえず動 くこともせずされるがままにしていると黄色い の手をなめる。 トテトテと俺に近づいてくる黄色い小動物は腰を落として地 小動物はぺろりと俺 面に

お前のおかげでこいつに勝てたよありがとな」

違いない。 たはずだ。 少なくとも最初に草むらが揺れなければこの展開にはならなかっ 草むらを揺らした黄色い小動物のおかげで勝てたのは間

つちや つ 軽く手を差し出してみると黄色い けペットにしたい。 なんだか首を傾げたりしてかわいらしい所作をしている。 アリアさん怒るかな。 小動物は手を伝って俺 の肩に乗 忑

「まぁいいや、お前ついてくるか?」

いるのかは微妙だが肩から降りようとしないあたり俺についてくる のだろう。 黄色い 小動物はキュイ!と元気よく返事をする。 (そうだと思いたい) 言葉がわかって

ないな。 振ってみたところやはりかまいたちのような感じで3頭まとめて仕 を買うことができてラッキーだった。 おっさんに感謝してもしきれ 大きさをコントロールできるみたいだ。 ほんとうにこんないい武器 留めることができた。どうやら俺の意思次第でかまいたちの発生と いでわかった風の属性武器かもしれないというナイフを実験がてら その後、 偶然見つけた親子らしい3頭の鹿を発見した。 熊との

決なんだが。 か?その辺も確認しないといけないな。 だけど、 おっさんが属性武器じゃないと判断したのはなぜだろう とりあえず街に帰るのが先

oて、どうやってこの鹿を持って帰ろう。

- 0話(いきなり所持金が増えました)

ァ した俺はようやく街まで帰ってきた。 無事にと言えるのかわからなかっ たが、 鹿狩りのクエストをクリ

たいどういうことだろうか? 朝早くに街を出たはずなのに、 日もどっぷり暮れているのはい つ

に泣き叫びたい。 が余計に早い。 ついでに、顔から血がダラダラ流れてる状態だから、 というか倒れそうだ。 しかもかなり痛いから今すぐ 体力の消費

それに乗っけるのも一苦労だったし、凹凸の激しい道をこんな即席 輪付きのソリみたいなもんを作ったまではよかった。 のソリもどきで無事にたどり着けるはずがなかったんだ。 た。その辺の木を適当に切り倒したり蔦なんかを使っていびつな車 そもそもの問題は、 あの熊を持って帰ろうとしたのが だけど、 61 けなかっ

途中で諦めそうになったけどここまでの努力を無駄にしたくない 心で頑張った。誰か褒めてくれ。 案の定、 街にたどり着くまでに5回車輪が外れ、3回全壊した。

に到着する。 やっとの思いで熊と鹿が3頭のっかったソリを引いてギル もう、 街の中だってのにこんだけきつ い思いすん の

· ふんがぁ _」

そっと敬礼する。 方も限界が訪れたのか4回目の全壊だ。 ん張りとばかりに足に力を込めて一歩を踏み出したところ、 つの世話ンあることはないが、ここまで頑張ったソリに心 掛け声とともに扉を開き冒険者ギルドの中に入る。 もうギルドについたからこ 最後のひと踏 ソリの の中で

夜も遅い時間だったのでギルドの中に人の姿はまばらだった。

ういう時に24時間営業の店は助かると思う。

「ちょっと、あんた大丈夫なの?」

ないですよ? になんでいるんだろう。 うな表情のアリアさんが立っていた。 疲れからうつむき加減だった血だらけの顔を上げてみると心配そ こんな時間に女性が独り歩きするなんて危 今日は非番だって言ってたの

ええ、 まぁ めちゃめちゃ痛いですけど死なずにすみそうです」

た。 苦笑しながら答えるとアリアさんの視線は俺から後ろの熊に移っ

どうしたのそのアースベアーは」

「アースベアー?」

地属性のベアー よ毛並みが茶色いでしょ?」

ら気づかなかった。 時なんかは相手が熊ってことで頭がいっぱいいっぱいになってたか のか?と思ったらこの世界の属性がない普通の熊は黒一色らしい。 言われてみるとこの熊は毛が茶色っぽい色をしている。 というか、熊が茶色いのって結構普通じゃない 襲われた

ういうのの買い取りとかってやってますか?」 まぁ、 襲われ たんで命からがら倒したんですけど、 ギルドってこ

くなっ まで運んできたけどどうなんだろう? 買っ てもらえないなら苦労して森の中から街まで運んだ意味がな てしまう。 せっ かく倒したし金になるかもしれないからここ

「倒したの!?あんたが一人で!?」

「ええ、まぁ.....」

だろうか?かなり強かったけど風のナイフ (仮、 でだいぶ楽に倒せたんだけども。 アリアさんは驚きに目を丸くしてるけどそんなに大層なことなん 俺命名)のおかげ

とはないけど苦戦するんだよ?それを 「アースベアーなんてEランクの冒険者が二人がかりで倒せないこ

一人で倒したって......あんた実は強かったんじゃない」

かったのか。 確かに一撃 の破壊力は軽く死ねるぐらい強かったけどそんなに強

بخ ら早死にするはめになるのはどんな漫画やゲームでも常識だ。 は風のナイフのおかげだから俺が強いのかって言われたら微妙だけ かりで倒すってことはけっこう強いのか?まぁ、こいつを倒せたの Eランクってことは今の俺より二つ上のランクだ。 武器が強い= 持ち主の強さではない。それがわかってなかった それが二人が

すよね。 っても銀塊1つくらい だからってあんた..... まぁい なんか、 だから俺が強いっていうよりも武器のおかげです」 買った武器が値段のわりに使えるやつみたいだったん の値段にはなるはずだよ」 けや アースベアー ならギルドに売 で

いきなり資産が三井さんからもらった時の倍になっちまったよ。 マジで!?銀塊ってことは10万だろ?かなりい い値段じゃ

のこともあるし買いたたいたりしないから安心しなさい」 今日は非番だけど手続きは私がやってあげる。 うちに入れる食費

は 所定の手続きを進めていく。 基本的に俺が最初に受けた 報酬は銅貨6枚と1頭につき2000円相当だった。 頭狩ってくるクエストだったからそれの完了手続きを先に済ませる。 言いながらカウンター いのか? の向こうに入っていくアリアさんに続い けっこうわり のは鹿を3 て

緒にやってもらうわけだがそこで一つ問題というか思いもよらぬこ とが起こった。 続いてただの熊だと思ってたアー スベアー の買い取り手続きも一

「は?」「こいつ賞金首だわ」

なに?え、熊にも賞金首とかあんの?

頭のところが十字に白くなってるでしょ?」 なんか近くの村が襲われたとかで討伐依頼が出されてるよ。 ほら、

る個体はそうそういないそうだ。 白っぽくなっている。 またも言われて初めて気づいたが、 なんでも普通は一部分だけ毛の色が変わって 人間でいえば眉間の部分だけ

なってたみたい。 かり支払われるけどランクに影響はないわね 冒険者もかなりの人数が返り討ちにあってて依頼は中位の仕事に まぁ、 突発的な事故みたいなもんだし報酬は しっ

たっ 別段そこは問題じゃないだろう。 たら冒険者をやめることだし無理にランクを上げる必要はない。 ンクに影響がない のはちょっ ともったい ない気がするけど半年

「で、賞金っていくらなんですか?」

銀塊3つ。 熊の部分買取でさらに銀塊1つだね

のか? にいきなり40万も稼いじまったよ。 マ で!?いきなり40万!?昨日の朝まで無一文だったの 冒険者って案外ぼろい商売な

ないでも食っていけるぐらいの金になったよ。 毎日稼ぐことはできないかもしんないけどこれで二か月くらい働か まぁ、 ラッ キー にラッキー が重なっ た結果だからおんなじように

じゃ、 値段に納得い つ たらギルドカード出して」

「?なんでですか?」

のよ。他人が倒したモンスターを勝手に盗んで持ってきたりとかっ かが正規の手段で手に入ったかどうかの確認とかしないといけない てのの防止のために」 仕事が終わったらギルドカードを確認して持ってきた証拠品なん

ないんですか?」 でも、 誰かが倒したものを取引で譲ってもらうとかってのはでき

ギルドカードは高性能だからそう言った取引なんかには必ずかかわ そういう場合はギルドカードをお互いに見せ合って契約をすん てくるから忘れちゃだめよ」 තූ

能があるんだ? まじギルドカード神じゃん。 このちゃちい板一枚にどんだけの

さんの顔色がわずかに変わる。 アリアさんにギルドカー ドを手渡して処理をしてもらうとアリア

「どうかしました?」

「あんたに称号がついてるんだけどね」

「称号?」

手に入んのよ。 いとかの変わり者もいるんだけどね」 今回みたいに特殊な討伐をするとその人の二つ名なり称号なりが 依頼主によっては特定の称号を持ってないと雇わな

「はぁ.....それがどうしたんですか?」

ランク相当のアースベアーを倒したんだからね。 あんたの称号、 つの方なのよ」 ⊸ B r a v e はわかんのよ。 だけど問題はもう G ランクなのに D

「もう一つ?」

間が持ってる称号なんだけどね、 a m e r のほうよ、 使役者.....動物なんかを戦いに使う人 あんたそんなの飼ってたっけ?」

られているってことだ。 寝てるこいつが俺のペッ ろう。今は俺の胸元、 これはもしかしなくともさっき森であった黄色い小動物のことだ 胸当てを少しずらして隙間を作ったところで トとしてギルドカードの方には完全に認め

いや、実は森でこいつを見つけましてね」

ウンターの上に置いた。 言いながら俺は胸板を外して黄色い 小動物を起こさないようにカ

きたと」 「ふう〜 あんたは居候のみでありながら森でペットを見つけて

げかける。 黄色い小動物を見下ろしながらアリアさんは俺に冷めた視線を投 確かに俺は居候だから強く出るわけにもいかない。

つのおかげで俺は助かったんだよ。 飼うわけには いかない か

な?もちろんこいつの分も食費とか出すから」

めてもらえば俺の癒しともいえるこの小動物をペットにできるんだ。 こうなれば拝み倒す以外に方法はない。 なんとかアリアさんに認

ふう まぁいいわ。 ちゃんと面倒は自分で見るのよ」

め気味みたいだけど認めてくれたのは確かだ。 アリアさんは黄色い小動物を買うことを認めてくれた。 子供が捨て猫を拾ってきたときのお母さんみたいなことを言って 半ばあきら

· アリアさんありがとう!」

どこかでそう思っていたので本当にうれしい。 さんの手を取ってしまったが、ふり払われることはなかったのでこ のぐらいのスキンシップは大丈夫なんだろう。 し赤い気がするけど、照れてるのか? なんだか知らないけどこいつはきっといい拾いものなんだ。 喜びのあまりアリア アリアさんの顔が少 心の

で、そろそろ傷の手当でもしたら?」

手当てしないと出血多量で死ぬかもしんない。 それは俺も思ってた。 一向に血は止まんない しい いかげん

ドに併設されている医療所へと向かうのだった。 俺はその後の手続きなんかはアリアさんに任せてそそくさとギル

うん、マジで顔面血だらけなのは気分悪いわ。

- 0話(いきなり所持金が増えました(後書き)

べたそれっぽい単語にerを付けただけの形です。 称号に関してですが、私はそれほど英語に詳しくないので辞書で調

きればなしの方向でお願いします。 本来の意味と違うだとかこんな単語は存在しない的なつっこみはで

摘を頂けたら随時調整しますので、 英語に詳しい方なんかがこういうののほうがよくない?といった指 よろしければ有識者の方は突っ

込みお願いします。

- 1話 思った以上にナイフはいいものでした

はアースベアーとかいう大物を倒したおかげで懐もだいぶ温まった は思ったけれど案外この世界にもなじんできた.....気がする。 しアリアさんに食費を払ってもぜんぜん金に余裕はある。 この世界に来てから3日が過ぎた。 まだ3日しかたっていないと

もやってきた武器屋を訪れていた。 日は新しく装備を整えて明日以降の仕事をやりやすくしようと昨日 俺は、 当面冒険者として食っていくしかないと腹もくくったし今

お、今日も来たのか?金は大丈夫なのかよ」

らカウンター てやろう。 昨日までの懐具合しか知らないおっさんはそんなことを言い から出てきた。 ふっ、 今の俺の所持金を見てビビらせ

- 「まぁね、昨日働いたおかげでだいぶ稼げたよ」
- へえ、また銀貨5枚で買い物でもするのか?」
- 今日はもっと余裕あるよ。 銀塊で3つ分くらいは買うつもりだ」
- ・銀塊3つだと!?」

だろう。 たばかりの若造がいきなりそんな大金を持ってきたら驚く かったおっさんは目を丸くした。まぁ、昨日冒険者として働きだし まさかいきなり前日の6倍の予算を持ってくることを予想してな のも当然

`おいおい、なんかやべぇ仕事でもしたのか?」

なったよ」 いせ、 偶然アー スベアー を倒せてね。 おかげで懐がだいぶ温かく

開けている。アリアさんは呆然とした顔も美人だったがおっさんは やっぱりむさいおっさんのままだ。 なかったのかおっさんはさらに目を大きく見開いて口もあんぐりと まさか、 冒険者なり立ての男がアー スベアー を倒すとは思っ てい

武器がほしいけど安くても銀塊で2つはするし防具なんかのことを 考えるとまだちょっと手は出しづらいな。 りもよっぽどいいナイフも持ってるしまだ剣は必要ないだろ。 分の予算に見合った装備を適当に手に取った。 俺は昨日みたいに金貨で5枚とかのばかげた武器は手に取らず まぁ、 やっぱり、 普通の剣なん 剣とかの

「そういえば、昨日買ったナイフなんだけど」

ないよな」 ん?どうかしたのか?まさか刃こぼれしたから取り替えろとかじ

責任じゃないだろ。 やつだったみたいなんだけど」 まさか..... さすがに自分で使って刃こぼれしたんならおっさん そうじゃなくてさ、 なんかあのナイフ風属性の \mathcal{O}

「はぁ!?」

発生した様子はまったく見受けられない。 を振るう。 しげとナイフを見つめながら試し切り用の巻き藁に向かってナイフ 俺は驚いた様子のおっさんにナイフを手渡した。 しかし、 巻き藁は微動だにせずナイフからかま おっさんは たちが しげ

「いや、俺がやったらなんか出たんだよ」「おいおい、違うじゃねえかよ」

たら大変な を振った。 俺はおっさんからナイフを受け取ると同じ巻き藁に向かってナイ 展示されてる他の武器に当たって弁償とか ので出力はだいぶ抑え気味にし こてだが。 の問題にな

を見ておっさんは首をひねらせていた。 案の定巻き藁は上下に分断されどさりと地面に落ちる。 その様子

「こいつは属性付加じゃねえよ」

「え、違うの!?」

あったけどそんなに速く振ってるわけでもないのに。 すごい速さで剣を振るってかまいたちを発生させるとかって表現が じゃあなんであんなかまいたちが発生したんだ?漫画とかでもの

単純な魔力の増強ってとこだろ。 く知らないし」 いや......魔法なんて使ったことないし習ってもないよ。 こいつは魔力増強の宝石が入ってるみたいだな。 お前さん魔法使えたのか?」 たぶん無詠唱と 使い方全

られた。 ことがないだけで魔法の才能があったからじゃないかと結論がつけ るようにするもんだそうだ。 法を強化し詠唱しなくても低難度の魔法なら威力を落とさずに使え おっさん いわく、 ナイフに埋め込められていた宝石は風属性 俺が無意識に使えたのは今まで使った の

つまり俺は勉強さえすれば魔法が使えるようになるらしい。

って大丈夫だった?」 けっこうい いもんだったんだな。 銀貨1枚と銅塊5つなんかで売

うえで売ってたらもっと儲けられただろうがな」 んを返せなんて商売人として言っちゃいけねぇよ。 まぁな、 わかってりゃもっと高値で売ってただろうが、 まぁ、 わかった 売ったも

ちなみにおいくら?」

゛ざっと見積もって銀塊1つってとこだ」

らアー スベアー たみたいだ。 やっ べえ、 普通のナイフとして買ってよかった。 に勝てなかっただろうしかなりお得な買い物ができ これがなかっ

らわないと困るわな」 「まぁ、 そんだけいいもん買ったんだ兄ちゃんには有名になっ ても

ſΊ そう言っておっさんは俺の背中をバンバンとたたいた。 おっさんどんな馬鹿力してるんだよ。 かなり痛

いや、 で、 防具?しばらくは昨日買った胸当てだけで十分じゃねえのか?」 今度は防具を中心に買いたいんだけどいいもんない?」 昨日のアースベアーとの戦いでこうなっちゃってね

状態だ。 出した。 言いながら俺は鉄板の部分がごっそりとえぐられた胸当てを取り もはやほとんど使い物にならないのは誰が見ても明らかな

たしかに、こんな状態じゃ使いもんにならねえな」

かを持って戻ってきた。 おっさんは防具が置いてあるコーナーに入るといくつかの鎧なん

はないって思うんならこっち」 「とりあえずナイフでウィ ンドカッター が使えるし敵に近づく必要

製と書かれている。 くらい丈夫そうな鎧を指差した。 と言って重厚というほどではないが胸当てとは比べ物にならない 鈍い光方をしていて、 タグには銅

したいならこっちだな」 で いくらウィンドカッター が使えるとは言っても機動力を重視

服を彷彿させる。肩は出ているし腕の防御はできそうにない。 われたそれはどことなくドラゴ ボールに出てくるサ こちらも昨日の胸当てよりも守られた範囲が広い腹と胸を鉄で覆 ヤ人の戦闘

そうだな、普段の移動も考えるとそっちの方がいいかな?」

買って合わせれば充分だろ。 サ ヤ人の戦闘服を指差しながら俺は言った。 腕の方は手甲でも

を買って店を出た。 結局、今日は手甲とサーヤ人の戦闘服、 万が一の時の予備の短剣

厨||か俺は..... さて、 とりあえず森に行って修行でもしてみるか。修行って....

まさか自分でそんなことを考えるとは思ってもいなかった。

-2話 拾いものは便利そうでした

再びやってきました街の近くにある森でございます。

った形になっております。 にできた鉄製の防具に手の動きを阻害しないようにできた手甲とい 本日の装備は風 の強化ナイフに銅製の短剣、 うん、説明はこんなもんだ。 体の前面を守るよう

ょうどメスだったスクルドには将来的に俺のサポートができるぐら を司る女神だったか神様だったかの名前だ。 森の奥まで進んでいく。 ちなみにスクルドは北欧神話における未来 一元の世界の俺の友人からすればギャレオンなりガイガーって名前い育ってほしいという願いを込めてこの名前を付けた。 今日は昨日俺の相棒になった黄色い小動物ことスクルドを伴って 確か女神だったんでち

を付けろって言われるだろうが、 ら死んでもそんな名前は付けたりしない。 俺は自分の名前が好きじゃないか

「キュイ!」

· ん?どうしたスクルド」

がい が毛が散っ をしてアリアさんの部屋には絶対入ろうとしない。 まじすげぇ。 っていたのでダメもとで言ってみたところ「キュイ」と一鳴き返事 不意に俺の肩に乗っているスクルドが鳴いた。 いみたいで俺の言葉は意味まで理解できるようだ。 アリアさん たりすると掃除が面倒だから部屋には絶対入れるなと言 こいつはかなり頭

物はどこにも載っていなかった。 ないそうだ。 アリアさんが言っていたが、ここまで頭がいい動物は見たことが 辞書なんかで調べてもらったけどスクルドみたい な動

バー トテトテなんて言っているがこいつの走る速さはゴールデン スクルドは俺 が全力疾走するくらい速い。 の肩から飛び降りるとトテトテと先を走って こんなに小さい体でどうし しし レ

こんなスピードが出るんだ?

ん?

倒れていた。 スクルドが茂みを飛び越えて向かった先まで行ってみると誰かが 近づいてみるが動く気配はない、 死んでいるようだ。

「キュイ!」

ンを持っているところを見ると死ぬ直前に何かを書いたみたい となにやら手帳のようなものを持っている。 反対の手にはボールペ というか、ボールペン!?こいつもしかして勇者か? 死体の手のあたりでスクルドが鳴いたので手のあたりを見てみる

られたそれは間違いなく地球のもの。それも日本人みたいだ。 手帳を取ってみると生徒手帳のようだ、高校の名前と顔写真が貼

が書かれていた。 適当にページをめくりメモ帳の欄までたどり着くとそこには遺言

うかんされて最初は楽しい毎日がつづいていましたが、 をつづけ僕は最後のときをむかえます。 父さん母さん、 先立つ不孝をお許しください。 突然異世界にしょ 国が亡び旅

たならりょうしんにこの手ちょうをわたしてください』 もしもこれをみつけた人がゆう者で、ちきゅうに帰ることができ

ていた。 ほとんどひらがなだけになっていた。 ところどころが血で汚れた手帳にはその後も遺言が続けて書かれ 焦って書いたのか字は汚くて読みにくく最後の方になると

うが問題だ。 のがあったが、 俺ももしかしたらこうなるのかもしれない。 今はこの亡くなってしまった勇者をどうするかのほ そう考えると怖 も

墓の場所を買わなきゃならないだろう。俺だって生活がある、見ず 知らずの相手にそこまでする余裕はどこにもない。 街には墓地があるかもしれないが手続きもわからないし、 たぶん

そのまま放置するなんてことはしたくない。 とかに抵抗はあったが見ず知らずとはいえ同郷の人間だ。 この場に 力い木の下に穴を掘って亡骸をそこに移動させた。 俺はポケットに手帳をしまうと仕方がないので近くにある一番デ 死体を持つこと

所に埋めた。 掘り返される心配はないと信じたい。 なんかに荒らされて壊されるかもしれないが、亡骸はかなり深い場 亡骸を埋めると木の棒を十字に切って墓標を立てた。 亡骸を持ち上げたところで何かが地面に落ちた。 レンズのようだ。 モンスター

れている様子もなくメガネなんかの役割はなさそうだ。 スがはめ込まれているようだが、これはいったいなんだろう。 俺は先ほど落ちたレンズを拾い上げると中を覗き込んだ。 レンズを目に当てた状態で何気なくスクルドに視線を向けるとそ ただのガラ 歪曲さ

備考:獅子王ガイのペット。 レベル:3 スキル:なし のラス:神獣

れは俺の頭の中に直接流れ込んできた。

「は?」

してスクルドを見ると同じ情報が再び頭の中に流れ込んでくる。 レンズを外してみるとその情報はなくなるがもう一度レンズを通

...... なんだこれ」

レンズを通してみたものの能力がわかるっていうアイテムだろうか? 俺は レンズを外してしげしげと見つめた。 これはあれだろうか

まで能力とか確認できなかったから便利っちゃ便利だが。 この世界ではこんなアイテムに頼らないといけないのか?まぁ、 普通、 ゲー ムだったらカーソルあわせて簡単に確認できるもんが 今

俺は一度できたばかりの墓を振り返り今度はレンズに視線を移す。

わりにもらうぜ?」 もしも帰れたら手帳は届けてやるよ。 そん変わり、 これは駄賃代

ったのならこんなものに使い道はないだろうし問題ないだろ。 死体 な便利なもの捨ててしまうのはもったいない。 から追いはぎするようで気持ち的には思うところがあるけどもこん 返事なんてあるはずないが一応声に出して確認する。 死んでしま

て俺はレンズをポケットの中にしまった。 仮に地球に戻れたなら間違いなくこの手帳は届ける。 そう心に誓

今日はもう帰ろう。

少し気落ちしながら俺は来た道を戻った。

..........明日は我が身.....か.....

12話 拾いものは便利そうでした (後書き)

とでご納得お願いします。 基本的にお気楽思考で進むつもりなんですが、展開の都合上ってこ 少し重い話になってしまいました。

- 3話(俺はとんでもなくラッキー な男でした)

力がわかるのなら、自分のステータスだって調べられるはず。 の能力を調べることだ。 まずはレンズを通して自分の手を見てみると案の定頭の中に情報 というかアリアさんの家に戻るとまず最初に行ったのは自分 さっき拾ったレンズを使えばその人物の能

が流れ込んできた。

獅子王ガイ 称号:Br スキル:幸運L> a V 種族 e · 人間 . 9 9 Τ a m クラス:勇者 e r 魔術Lv . 3 9 レベル:7 肉体強化Lv . 3 5

なにこの幸運のレベル....

ている。

備考:異世界から召喚された勇者。

現在は冒険者ギルドに所属

段以上のものだったりと運がい このスキル、 この世界に来てからいろんない あれじゃ ない?これってカンストってやつじゃないっすか? レベルも含めて尋常じゃなさそうだ。 い部分がめちゃめちゃ多かったから い人に出会ったり買った武器が値

勇者なのにすげえ情けないな。 と俺の才能ってなんだ?幸運によるヒモ生活ができる才能とかか? 三井さんの話して いた能力の開花ってやつがこれのことだとする

けた。 自分の能力に頭をひねっていると仕事帰りのアリアさんが扉を開

ただいま、なにしてんの?」

 \Box スキル :交渉Lv ロントリー 3 種族:: 事 務 L V 人間 . 5 クラス:一 般人 ベル 9

この頃』 備考:ギルドの受付として10年以上務める。 恋人がほしい

ちそうだ。 リアさん恋人ほしかったのか。 アリアさんを視界にとらえた瞬間情報が流れ込む。 やばい、 俺のヒモ生活のフラグが立 ていうか、

は異常といえるだろう。 たのにスキルレベルが5しかないのに俺のスキルレベルは低くて3 それにしても少なくともアリアさんを見た感じ俺のスキルレ 単純に7倍の差があるってのはおかしいだろ。 10年以上ギルドの受付で仕事を続けてき

おかえりなさい、 実はさっき森でこんなもの拾いっ たんですけど」

なもの見たこと内容でしげしげとレンズを見つめるとレンズを通し て俺を見た。 俺はそう言ってアリアさんにレンズを渡した。 アリアさんもこん

させ、 見えます?」 なにこれ?」 これってただのガラスがはめ込まれたレンズじゃないの?」

だろうか、 どうやらアリアさんには能力とかの情報が見えないようだ。 勇者専用装備的なものなのか? あれ

んですよ」 なんだかわかりませんけど、 俺が見ると見た相手の能力がわかる

「はぁ?なにそれ?」

ルドの受付やってるからか事務がどの程度できるとかってのが見え たとえば、 アリアさんを見るとアリアさんの能力 .. たとえばギ

るんですよ」

「 ふぅ〜 ん..... それって便利なの?」

のだっていうのに..... アリアさんにはこれ の良さがわからないみたいだ。 これはい も

だろ。 ないっ の人間からしたらそうでもないのか?.....アリアさんだから興味が まぁ、 て可能性は否定できないけど。 地球から来た人間からすれば便利って思えるけどこ わかる人にはわかるもんなん の世

ってますか?」 つをそれで見たら種族がリウンドとかいうやつだったんですよ。 俺にとっては便利なんですけどね.....そういえば、 スクルドの 知

獣で馬ぐらいの大きさなのにドラゴンとか倒すって話はよくあるわ ことないわよ」 ね。でもあれっておとぎ話に出てくるだけで実在するなんて聞いた 「ん~.....リウンドってあれでしょ?昔話とかに出てくる伝説 の

なデカくなるの? まじで?スクルドのやつ今は子猫みたいなサイズなのにそん

ているとかなんとか。 ンやユニコーンなんかの幻獣の上位存在にあたると物語では語られ 精霊神たち(これは実在が確認されているらしい)と同等でドラゴ り獣の中の神って呼べるような存在らしい。 アリアさんに詳しく話を聞いてみると、 リウンドってのは文字通 その力は精霊 の最上位

たぶんマジだろう。 のスキル、 レンズの情報が間違っていないならスクルドって最強じゃ くようになっちゃうかも.... 幸運のレベルから考えるとスクルドがリウンドってのは このままだと俺って勇者なのに他力本願で生き

の膝の上で丸くなって寝ているスクルドをなでながら俺はそん

......うん、できることは自分でやるようにしよう。

- 4話(命の恩人は美人さんでした)

つ の間はアースベアーを余裕?で倒せたし簡単に済むだろうなんて思 て3日目、仕事は2回目だけどそれはまぁ気にしない方向で。 今日のお仕事は調子に乗ってベアーの討伐を受けてみました。 今日も今日とてお仕事です。 ていました。 とはいってもまだ冒険者ギルドに入

現状を簡潔に説明しよう。ごめんなさい、ギルドの仕事なめてました。

絶体絶命

にそいつらはやってきた。 してアリアさんから聞いていた高く売れる部位をはぎ取ってる途中 アーは簡単に倒せたんだけど問題はそこじゃない。 ベアー を倒

てふざけてる状況じゃない。 全身が黒い毛で覆われた狼。 やつらは群れでやってくる..... なん

を俺は確認してなかった。 レベルは3と低めだったし余裕だと思ったんだ。 最初は一匹しかいなかったからレンズで能力を確認してみたら、 だけど、 備考の欄

まえらは 集団で狩りをおこなうため一匹見つけたら30匹はいる。 G か お

で仲間を呼んだ。 てしまった俺はまさに絶体絶命だ。 俺を見つめるや否や一匹しかいなかったそいつはすぐさま遠吠え 瞬く間に30匹どころか見渡す限りの狼に囲まれ

のはたったの3匹だ。 かまいたち攻撃を仕掛けてもほとんど避けられてしまい俺が倒せた なにせこいつらは連携の取れた動きをする上にめちゃめちゃ速い いる (さすが神獣) スクルドのやつも何倍もデカい狼相手に善戦 が、 いかんせん数が多い し2匹ほど倒した

た。 の俺は片手に風のナイフ、 た短剣で腹をかっさばいてやる。 だけで徐々に押され 人化できれば楽なのかもしれないが生憎とそんな便利機能はなかっ 大口開けて襲い掛かってきた狼の口を手甲で受け反対の手に持っ だいる。 の 片手に短剣という双剣装備の状態だ。 やばい、 ちなみにどうでもいいことだが今 俺の癒しがやられ てしまう。

まいたち乱射すればい に包囲されているからそいつのもとまで行けるかが問題だ。 リーダーだかまったくわからん。 だろうが、どいつもこいつも同じようにしか見えないのでどいつが んだから関係ないし。 こういう場合群れのリーダーを倒せば他のやつらは逃げてい 61 のか..... どっちにしろリー リーダーがわかったところで完全 ダー わかんない くん

だぁぁぁ!ちくしょうめ!」

ಠ್ಠ 貧になったら俺もスクルドも狼どもの餌食になってしまうだろう。 ベルに反して魔法なんてかまいたち以外に使えない。 このままじり 気に襲い掛かってきた三匹の狼を切り落としスクルドの傍に 範囲魔法なんかが使えれば楽に倒せそうだが生憎とスキルの 寄

「やばい!?」

武器が二つあるから二方向ならなんとかなるが、 撃は喰らってしまう。 瞬のすきを突くように三方向から同時に狼が襲いかかってきた。 もう一匹からの攻

備えようとするが一向に襲い掛かってくる様子がない。 なんとか襲 い掛かってきた二匹を切り伏せもう| 匹か らの

ん?

いない。 事切れていた。 ちらりと目を向けてみたところ狼は眉間に矢が突き刺さりすでに いったい誰が援護してくれたんだ? 俺もスクルドも (当然だが) 弓なんて装備は持って

事態に狼どもも面食らったのか混乱している様子だ。 俺が援護の存在に気付くや否や雨のように矢が降り注ぐ。 突然の

仕留めてください」 あなたの前方の一番奥にいるのが群れのリー ダーです、 そいつを

た。 れのリーダーを一閃する。 どこからともなく聞こえてきた声に反応して俺は一気に駆け出 混乱している狼どもは突き進む俺に攻撃することもなく俺は群

残される。 逃げるようにその場からいなくなり、 それからの事態は劇的に変化した。 俺とスクルドだけがその場に リーダー を倒され た狼たちは

「いったい誰が.....」

声から察するに女らしかったがいったいどこの何者だろう。 きょろきょろとあたりを見回しても声の主の姿は見つからない。

クレイ様、ご無事でよかった!」

てきた。 断じて俺の名前はクレイじゃない。 不意に聞こえてきた声に反応して上を向くと突然木から人が降っ いや、 木の枝から飛び降りたのか?というかクレイ様? 不本意なことながら獅子王ガ

あんたいったい.....」

え、 木から飛び降りてきた女は俺を無視してスクルドに駆け寄っ なにクレイってスクルドのことなの? た。

んですよ?」 本当に良かっ た。 突然里からいなくなったのでずっと探していた

れてしまっていたのでそんなことには気づいていない。 てきた。だけど俺はそんなことよりも正面から見た彼女の姿に見と 女はほっと胸をなでおろすと俺に向き直りすごい形相で睨みつけ

蒼い瞳、 とこは出ているしへっこむところはへっこんでいる。うん、 では嫌味さを全く感じさせない。女性らしい体つきをしていて出る が行き届いているのかさらさらとしている。 ルはアリアさんとかなりいい勝負してる。 クルドの毛並みみたいにいい気持ちだろう。 の人が着たら派手って印象しか受けないだろうが、彼女の美貌の前 腰にかかるほどの長さの金色の髪はこんな世界にあっても手入れ 緑を基調とした鎧は様々な装飾がなされている。普通の女 強い意志を感じさせる たぶん撫でてみたらス スタイ

芸術とも言える容姿の中で一際目を引いたのは人間のものとは違う 形をした、 雪のようなっていう表現がぴったり当てはまる白い肌、 上向きに伸び先がとがっている耳だった。 全体的

「...... エルフ?」

人間、あなたを殺します」

え.....なに、どゆこと?

- 4話(命の恩人は美人さんでした(後書き)

いまさらですが、成り上がりという要素に関してはまだなりを潜め ています。

降になりますので悪しからず。 現在は一章という位置づけですが、成り上がりを見せるのは2章以

· 括 美人のお姉さんは俺のペットの追っかけでした

さて問題です。 俺は今殺すと言われました。 それはなぜでしょう。

- 1、見てはいけないものを見てしまった。
- 2、彼女の大切なものを壊してしまった。
- 自分でも知らない間に彼女にセクハラしていた。
- って、わかるかボケ!
- 「言ってる意味が分からないんですけど?」
- 「あなたは馬鹿なんですか?」

ちゃいないが、 確かに俺だって自分の頭の出来が普通の人より優れてるなんて思っ い!なんでこいつはいきなり人の言葉か呼ばわりすんだよ。 いきなり馬鹿呼ばわりされるほど悪いわけじゃない。

- 、私はあなたを殺すって言ったんですよ?」
- それはわかってるよ。 問題はなんで殺されるのかってことだ」

あるからって殺されるのも嫌だけど。 理由もなく殺されるなんてたまったもんじゃない。 いや、

- · そんなこともわからないんですか?」
- 少なくとも俺は、 君に何かした覚えはないんだけど?」
- ええ、 私は何もされていません。 理由はこの方です」

とあくびをしてる。 エルフの女が指差したのはスクルドだ。 スクルドの方は我関せず

いや、うん.....やっぱり理由はわからん。

「どういうこと?」

断です!」 クウルフの群れに襲われてクレイ様を危険にさらすなんて言語道 あなたがクレイ様を誘拐したのがいけないんです! あまつさえダ

「クレイ様?」

ドのことだろう。 やっぱり、さっきから彼女が言っているクレイ様ってのはス ていうか、 誘拐なんてした覚えないんだが。 アクル

きたんだよ。別に誘拐なんてしてないって」 誘拐って……俺がついてくるか?って聞いたらスクルドがつい 7

せん!あなたが誘拐したに決まってるんです!」 ですよ!それに、クレイ様が人間ごときについていくはずがありま 「誰ですかスクルドって!?この方は誇り高きリウンドのクレ イ様

かったぞ?」 知らんがな。 別に俺がスクルドって名前を付けた時も嫌がってな

名前をつけられて大層ご立腹です!」 「そんなことありません!クレイ様はあなたのような人間ごときに

子猫チックでマジかわいい。 そうな反応の差はいったいなんなんだ? エルフの女の無駄なテンションの高さとスクルドのどうでもよさ 当のスクルドは丸くなって寝の態勢に入ろうとしている。 やっぱスクルドは俺の癒しだ。 やば ſĺ

別に許してあげます。 んつ !もうい いです。 さぁ クレ クレイ様も無事でしたから今回だけは特 イ様、 里に帰りましょう?」

「キュイ!」

「つ痛!く、クレイ様!?」

ついた。 毛を逆立ててエルフの女を威嚇してるがどういうことだろう。 エルフの女はかまれた手を押さえて混乱している。 しゃがみこんで手を差し出したエルフの女の手にスクルドはかみ スクルドがかみつくだなんて予想だにしていなかったのか スクルドの方は

「ふぅ.....スクルドおいで」

した。 膝に乗って丸くなる。 俺はその場にあぐらをかいて座るとスクルドに向かって手招きを スクルドは逆立っていた毛を落ち着かせるとトテトテと俺の

ないと俺には何にもわかんないから」 とりあえず、 座って話でもしよう。 君とスクルドの関係とか聞か

混乱していた様子だが、スクルドの様子を見たエルフの女も俺と向 かい合うようにとりあえず座った。 俺はスクルドの背中をなでながらエルフの女に座るよう促した。

らしてて一応冒険者ギルドに所属する冒険者ってことになってる」 「とりあえずは自己紹介かな?俺は獅子王ガイ、この近くの街で暮 ...私はレナ」

う。 50 エルフの女、 てのもあるだろうけどここまで話が弾まないのもどうなんだろ レナはそれだけ言って口をつぐんだ。 自己紹介だか

関係は?」 スクルドと..... レナが言うところのクレイ様ってのとレナの

なぜそんなことをあなたに話さないといけないんですか?」 いや、 一応スクルドの飼い主は俺だからな」

ト扱いしているというのですか!?」 飼い主!?あなたは誇り高いリウンドであるクレイ様をペッ

伝説の神獣らしいから当然っちゃ当然なのか? どうやらレナにとってスクルドは相当神聖な存在みたいだ。 まぁ

んです。 あなたのような無礼な人間に.....これだから野蛮な人族は嫌いな クレイ様、 やっぱり帰りましょう?」

させ、 ない。 レナの声は聞こえてるんだろうけどスクルドはピクリとも反応 そんなスクルドの対応にレナの方は泣きそうな顔になってる。 なんか申し訳ない。

こいつを説得するから」 スクルドもこんな調子だし詳しく話してよ。 話次第だったら俺も

っく.....

かれてるみたいだけど、それは俺のせいじゃないんだから。 け、せ、 そんな悔しそうな顔しないでよ。 レナよりもスクル

イ様は私たちの里の光だったんです.....」

ドを探すために旅に出たっていうのがいきさつらし スクルドがいなくなって大騒ぎ。 は断るはずもなく丁重に世話をしていたそうだ。 リウンドの言うことを世界の秩序、 クルドの世話をまかせてどこかに行った。 やってきたそうだ。 レナの話によれば、 その際にスクルドを生んだ親はエルフたちにス エルフの里にスクルドの親であるリウンドが レナをはじめ数人の戦士がスクル 神の言葉なんかに従順なエルフ もともと神と同位である しかしある日突然

てたってことだな」 つまり、 スクルドを世話するって約束をこいつの親としたから探

「.....そうです」

様が相手だからってどこか他人行儀に相手してるのがレナの態度か らもなんとなく感じ取れる。 接してくる相手ばかりの状況が嫌になったてところか?やっぱり神 神と同位だからと言って尊敬というか畏敬のような感情を持って ナの役割もわかるけどスクルドの気持ちもなんとなくわかるな。

じゃないか、と俺にはそう思えた。 頭がいいスクルドはそんな環境が嫌になってエルフの里を出たん

なら1回、 れともお前の親がお前を託したっていうエルフの里に帰るか?帰る なぁスクルド......お前はどうしたいんだ?俺と一緒に 俺といるなら5回鳴いてくれ」 いるか?そ

がいい。そうすれば偶然だのイカサマだの言われたときに反論がし やすくなる。 相手の時はこういった数は自分に不利なように不自然な数にした方 普通に考えたら2回とかのほうがいいんだろうが、堅物なんかが

゙キュイキュイキュイキュイキュイ」

溜めてスクルドを見つめる様は実に不憫だ。 即答かよ。 61 くらなんでもレナが可哀そうすぎる。 目じりに涙を

く、クレイ様.....」

゙ま、まぁそういうことだから諦めてくれ」

スク ルド本人がそう決めたのだからこいつも文句はないと信じた

対と言えるはず..... ſΪ というか、神獣であるこいつの言うことはエルフのレナには絶

うのなら私もそれに従います」 「わかりました。 クレイ様がそこまでその人間とともに居たいとい

どうやらわかってくれたみたいだ。助かった。

「私もお供いたします。たとえそれが人族の街であろうとも!」

.....ま、まじで?

-6話 新たな居候は料理上手でした

「で、どういうことかしら?」

そう言った。 床に正座する俺を椅子に座って見下ろすアリアさんは冷たい声で あの、 怖いんですけど.....

「どういうと言いますと?」

出て少しずつでも態度を軟化させないといろいろ危険だ。 こういった状態の人間は刺激してはいけない。 できる限り下手に

なんで毎日毎日家の住人が増えるのかって聞いてんのよ」

んだ。 バンッと、力任せに机をたたいたアリアさんはぎろりとレナを睨 下手に出たところであまり意味はなかったか。

スクルドを?だったらあの子に返してあげればいいじゃない」 あの.....どうやら彼女はスクルドを追ってきたみたいでして...

運動をしているところを見ると寝ているようだ。 置ともいえる俺の膝の上で丸くなっている。 この状況にあってもまったく動じていないスクルドはもはや定位 背中が規則正しい上下

しようとしたところ彼女が勝手についてきてしまったんですよ」 スクルドは帰りたくないと意思表示をしたので現状を維持

今度は怒りの矛先を変えるために努力してみるが十中八九無駄だ だって完全に俺だけをにらんでるもの。

けど私の家なのよ?」 だからって家につれてくるの?ここは確かにあなたも暮らしてる

ごもっともです。

ついてくるなんて聞いてない。それも女なんて.....」 「たしかにスクルドを飼うことは認めたわ。 いや、俺だって知らなかったよそんなこと.....」 だからって元飼い主が

ルで怖くなってる。 ただでさえ怖い顔で睨んできてるアリアさんの顔が放送禁止レベ やばい、ミスった。 下手な言い訳なんてするべきじゃない。

言いたいのは~ たんでしょうが!あんたの話なんて知ったこっちゃないのよ!私が 「だ・か・ら、なんだってのよ!あんたがこの女をここに連れてき はい! (後略)~聞いてんの!?」

<u>ٿ</u> : アリアさん。 それから30分近く休むことなく俺への怒りの言葉を並べ立てる させ あの、 足がめちゃめちゃ しびれてきたんですけ

「あの、人間の女性の方?」「あんたはほんとに.....」

なによ」

まだ言い足りないのか言葉を続けようとするアリアさんを止めた

のは今まで沈黙を保ってきたレナだった。 おお、 女神降臨

はないのでご安心ください」 あなたとこの人間の関係は わかりませんが、 こんなの取るつもり

あの、 こん なの扱いですか?

くないですか? 確かにレナとの関係は良好とは言い難いけどこんなの扱いはひど

ちょ、 ば!馬鹿言わないでよ、 私だってこんなのいらないわ!」

たのに。 恋人なんかじゃないけど、 アリアさんまでこんなの扱いですか?やばい、 アリアさんとの関係は良好だと思って 泣きそうだ。

きます。 ただけるのなら、その間の食費などはしっかりと支払わせていただ 「そうですか。 なんなら家賃も支払いますよ?」 ならば、 いいじゃないですか。 ここに住まわせてい

「わ、私が言いたいのはそういうことじゃなくて.....」

れに家事だってこのごくつぶしと違って手伝わせてもらいます」 「だ、だから.....」 部屋だって不本意ですが、この人間と同じ部屋で構いません。 そ

ダメなんですか?」 この人間は男でしょう?恋人でもない男は居候にできて女の私は

おぉ、 アリアさんが言葉に詰まった。

くない? というか、 確かに俺は家事を手伝ってないけどごくつぶしはひど

づいてないのか?家の広さのこととかいくらでも反論できる理由は でも、 レナの言ってることも結構無茶苦茶だけどアリアさんは気

もう、 そうですか、 わかっ 助かります」 たわよ。 あんたも好きにすればいいじゃ

いんだろうか..... 俺の疑問はよそに結局しぶしぶながらアリアさんが折れたけどい

ちない気持ちでいっぱいになる。 申し訳ない気持ちと不自然なアリアさんの態度にどうにも腑に落

で寝泊まりすること」 「ただし、 部屋はガイと一緒なんて認めないわ。 あんたは私の部屋

込みを襲われたらたまりませんから」 「まぁ、そういうことでしたら従わせてもらいます。 この 人間に

あの.....そんなことしませんよ?

せんでしたよ?そりゃあアリアさんは美人だからそういう関係にな がなかったと言ったら嘘になるけど手を出そうなんて一度も考えま から無理やりだとか絶対にしたくないし。 れたらうれしいけど、居候させてもらってるしお世話にもなってる アリアさんの家で世話になってからの4日間、 悶々とした気持 5

特に男の俺なんて信用できないんだろうな。 まぁ、レナは人間のことをどこか毛嫌いし てるきらいがあるし、

てなかったら作り足さなきゃいけないからちょっと待ってなさい」 まっ たく.....とりあえず食事にしましょ。 一人増えるなんて思っ

そう言ってキッチンへ向かおうとしたアリアさんをレナが止めた。

待ってください。 そういうことでしたら私が作らせていただきま

す

「あなたが?」

腕を見ていただくという形で」 がいいでしょう?私も料理はできますから今回はどの程度のものか 「はい、これから住まわせていただくのですから家事は分担した方

.....わかったわ、そう言うなら作ってみなさい」

に気になったので声をかけることにしよう。 と料理を始めるレナの後姿を難しい表情で見つめるアリアさんが妙 アリアさんは椅子に座り直しレナがキッチンへ向かう。 てきぱき

アリアさん、 どうしたんですか?レナの方をにらんで」

「レナ?」

なんで?ちょっと質問しただけなのに。あれ?地雷踏んだ?

私はアリアさんで、あの子はレナって呼び捨てなの?」

のに。 どうしたんだよ、 アリアさん?表情がまた怖くなってますよ? この家に来てからこんな表情見たことなかった

いや、 的な.....」 なんというかその......アリアさんはお姉さんでレナは友達

アさんが俺に嫉妬?そんなのないだろ。 んの表情は一向にやわらがない。あれか?嫉妬なのか?でも、 しどろもどろになりながらなんとか訳を話そうとするがアリアさ

うまかった。そのことを素直に口にするとまたもアリアさん.....ア その後の食事はどこか重苦しい雰囲気だったがレナの作った料理は リアの表情が恐ろしいものになったりして本当に大変だった。 結局アリアさんのことも呼び捨てにするという方向で話はついた。

なんか、もう疲れた.....

- 7話(新たな仕事は迷宮探索でした)

は本日のお仕事を求めてギルドを訪れていた。 レナがアリアさ……アリアの家に居候することになった翌日、 俺

じで聞かなかった。 説得もしたんだが、 今日はもう一人お供が増えている。 膝の上と同じく定位置になりつつある肩の上にスクルドを乗せ、 スクルドがいるならたとえ火の中水の中って感 レナだ。家で待っているように

て冒険者ギルドへやってきたわけだ。 説得はあきらめ白い目で見てくるアリアさんの出勤時間に合わせ

、なんだこれ?」

が躍っている。 って掲示板の前にたどり着くと一際大きな紙に『迷宮探索』 掲示板の前に普段は見慣れない人だかりができていた。 **人垣を縫** の文字

な。 ないがCランク以上推奨と書かれている。 かなかに珍しい仕事なんだろう。 備考の欄に、ランクに制限は設け 昨日まではこんな仕事なかったし、周囲のざわめきを考えるとな 迷宮ってのは危険なんだ

デブの国で首都と言われていたのにこんだけ人材がしょ なる。 ういうことだ? ちなみにこの街の冒険者は平均するとFとEランクの Dランクが数人いるが、Cランクはほぼいな ίÌ ぼい もともとは 人間が多く のはど

迷宮ってのはそんなに危険なんですかね?」

たアリアさんに聞いてみた。 俺はさっそくギルドの受付の制服に着替えてカウンター に出てき

深部まで行ってないだろうから。 つけてきたわよ」 たけど強めのモンスター もいるしなかなか危ないみたいよ 「たぶんあるんじゃない?昨日見つかったばかりだからまだ誰も最 あぁ、 へえ~。やっぱり迷宮ってことはお宝とかがあるんですか? 昨日見つかったらしいわね。 一応先遣隊もいくつかアイテム見 とりあえず先遣隊が調

けられるかもしれない。 やっぱ スキルで幸運を持っている俺ならなかなかいいアイテムを見つ リゲームみたいに迷宮やダンジョンの類にはお宝があるの

「さすがに俺が入るのはきつそうですね」

以降になったらきついだろうけど」 の勇者とか騎士が迷宮に入るらしいから案外楽できるかもよ?明日 「う~ん、どうかしらね。ここだけの話今日ならバルデンフェ

ランクの迷宮なんて余裕じゃないのか? るなんちゃらにスカウトされるほどの実力者だったら少なくともこ はたぶん三井さんのことだろう。 もともと冒険者として活躍し、 は思っても見ない情報だった。 ばるなんちゃらの勇者っての ば

値は十分にありそうだ。 せっかく知り合った人だし、 なにか手伝いをするだけでも行く価

そういうことならあの仕事受けるよ」

に変わりはないから気を付けてよ?」 そう?まぁバルデンフェルトの人たちが入るとはいえ危険なこと

わかってる、大丈夫だと思う」

なにせこっちは幸運のレベルがカンストしてるんだ。 討ちもらし

なんかに強力なモンスター い話だ。 はいないと思う。 まぁ、 いても逃げれば

も迷宮に向かうために出発しようとするところだった。 仕事の登録を終えて街のはずれまで行くとちょうど三井さんたち

ず声をかけてあわよくば便乗させてもらおう。 馬車に荷物を積み込んでいざというところだったので、 とりあえ

どうも、 三井さん」

ん?おぉ、ガイ君じゃないか。どうしたの?」

飯を一緒した時とは違って鎧なんかを完全装備した様はかなり強そ 三井さんは馬車から降りるとこちらに駆け寄ってきた。 この間昼

うだ。

「その後どうしてるの?働き口は見つかった?」

ですよ」 いやぁ、実はあれからいろいろあって冒険者やることになったん

事よくやる気になったね.....もしかして」 「え!?そうなの?俺が言うのもなんだけど冒険者なんて危ない仕

はい、俺たちも迷宮探索に行くんです」

もうCランクまで行ったの?」 「マジで!?え、だってあれから一週間も経ってないじゃない

のは予想外だったんだろう。 さすがに冒険者になっただけじゃなくて迷宮探索まで行くという 驚いた様子の三井さんに俺は苦笑した。

ゃ お恥ずかしながらGランクです。 お世話になってるギルド

تع こぼしなんかを頂戴しようと思いましてね。 の人が今日迷宮に行くなら、 三井さんたちがいるって言うから取り ハイエナみたいですけ

なるほどね、そう言うことか」 「ははは、 この世界で生きてい くならそういう狡賢さも必要だよ。

なんでも言ってください」 ますから俺なんかでも手伝えることがあったらお手伝いしますんで 「あ、当然三井さんたちの邪魔はしませんし、 この間のお礼もあり

便乗したいってことでしょ?」 「おっけ、わかった。ここで声をかけてきたってことは迷宮までも

「はい」

あげるから」 即答かよ。 ははは、 了 解 じゃあ乗りなよ、 せいぜいこき使って

ಭ てきていたレナも一瞬戸惑ったようだが、 三井さんに促されて俺は馬車の荷台に乗り込んだ。 俺に続いて馬車に乗り込 俺の後につい

者が馬に鞭をうった。 俺とレナが馬車に乗ったのを確認して三井さんも荷台に乗り、 御

迷宮ってのはどんなところなんだろう。 楽しみだ。

1 7 話 新たな仕事は迷宮探索でした (後書き)

お気に入り登録してくださった読者の皆様に深くお礼申し上げます。 おかげさまで日間ランキングで3位に入りました。

話 迷宮の奥にいたモンスターは超ど級でした

だとばれるといろいろ面倒なことが増えるとのことなので顔が というか特徴的な耳を隠すようにローブのフードを目深にかぶって の上で寝の態勢に入っている。ちなみにレナは周りの人間にエルフ と三井さん。 迷宮に向かう馬車に揺られながら他愛もない話に花を咲かせる俺 レナは隅の方でじっとしているし、スクルドは俺の膝

そう言えば、 と切り出して俺はレンズを取り出した。

「なにそれ?」

これってそんなラッキーアイテムなのか? どうやら三井さんも能力が見れるレンズのことは知らないようだ。

間には使えないみたいなんですけど、 「これを使うと見た対象の能力がわかるみたいです、 勇者専用のアイテムとかです この世界の人

言いながら俺はレンズを通して三井さんに目を向ける。

1 2 а 三井純 v e 称号:Knight スキル: 騎士L V H u 肉体強化L 種族:人間 n t . 3 7 V 冒険者LV クラス:勇者 Explor e t c . 2 3 7 魔術 . 8 9 e r 帝国騎士 L V W a r e t c . 8 9 r レ 剣 士 L ベル 0 : 8 V В . 1 r

ルデンフェルト王国に仕えている。 備考:異世界から召喚された勇者。 以前は冒険者だったが現在は

何もかもが俺よりも上だ。 人と戦おうとしたのはほんとに世間知らずだったんだな俺は。 さすがに俺よりもずっと長くこの世界にいるだけあってレベル というか、 こんだけの差があるのにこの

どんなんどんなん?ちょっと貸してよ

ると意を決したようにレンズ越しに世界を見る。 俺からレンズを受け取った三井さんは興味深げにレンズを見つめ

レベルおかしくない?」 おお~、 すごいすごい。 っていうか、 ガイ君のスキルって幸運の

普通に考えたって異常なことなんだろう。 そちゃカンストっぽいっすから。自分でもこの数字は驚きだけど

がいいだろう。 けっこうレアなアイテムっぽいしレンズはあんまり人に見せない方 を返してくれた。 自分の能力なんかもみた三井さんは興奮冷めやらぬ様子でレンズ 親切な三井さんだから見せたし貸しもしたけど、

かったことに気が付いたので、 ついでと言ってはなんだが、 この機会に確認することにした。 レナのことをレンズで確認してい な

S レナ・ ル:189 アン ストロ・ リィガー 種族:エルフ クラス:戦士 レ

備考:エルフ族の戦士。 v 7 7 スキル:エルフの秘術Lv 剣士LV・43 年若いが末恐ろしい才能を秘める』 . 9 8 精霊術LV 弓術 L v . 8 8 . 1 4 e t 回復魔術

ちょ、おま.....。なにこのレベル。

はないけどそれを除けば基本的なレベルだって三井さんの倍以上だ。 勇者の三井さんより強いじゃん。 さすがに肉体強化とかのスキル

あるが、 ルなんだと思う。 たぶんだが、 肉体強化のスキルは誰も持っていなかった。 肉体強化はもともと地球にいた勇者たち限定のスキ 実験がてらギルドにいた冒険者たちを見たことも

喚されたときにいろいろ変わるっぽいからその影響じゃないかなん て俺は思ってる。 まだったらこの世界で生きていけないからだと思う。 地球にいたころ普通の人間だった俺たち勇者は身体能力がその というか、 召

とまぁ、 能力に関しては置いておくとしてそろそろ迷宮に着くよ

なんというか、 切り立った崖の下。 実に見た目からしてそれっぽい作りをしている。 そこにその穴は存在した。

やっぱ、見た目怪しすぎるよね」

「そうですね」

育ったからなのか? るがそれほど危険な場所にはどうしても見えないのは平和な日本で け見た目からして迷宮らしいそのつくりは多少面白そうには見え 初めて見たときは自分もそう思ったと三井さんは言った。 忑 うち

えて穴というか、 周囲にモンスターの姿も見当たらないので、 洞窟という名の迷宮へと入った。 のん びりと準備を整

者っぽい。 外はこの世界で生まれ育った普通の騎士だという。 ズで能力を確認したところレベルは50と47といった結構な熟練 メンバーは三井さんたちは三井さんを含めて三人で、 とりあえずレン 三井さん以

ベルー桁とかどんな冗談だよ。 というか完全に俺だけレベルが違う (逆の意味で)。 人だけ

程度危険なモンスターはこっちで片づけるから」 俺たちも仕事だからガイ君たちを手伝うわけにはい とりあえず俺たちが先行するから二人はついてくるようにして かないけどある

ぶん三井さんはレナの能力見てないな。 いなんて思ってない そういって三井さんは二人の騎士を引き連れて奥へと進んだ。 んだろう。 自分より倍以上レベルが高 た

黙々とつい 中を寒いものが走るけどあんまり気にしないようにしよう。 レナはアリアさんの家を出てから一言もしゃべらず俺 てきている。 なんか背後霊なんかの類みたいで心持ち背 の歩く

「じゃ、俺たちも行くか」

「キュイ!」

俺の後に続いた。 の上で元気よく返事をするスクルドとは対照的にレナは無言で

スター は違って奥に行けばいくほど報酬は上がる。 とにかく迷宮の中を探検すればいいそうだ。 馬車の中で三井さんから聞い を討伐する必要はないそうだ。 た限りでは迷宮での冒険者の仕事は 基本的に出てきたモン 普通の討伐系の仕事と

ていいだろう。 りのことも考えて倒した方が後々楽はできるそうだが今回は三井さ んたちがいるから俺たちはそんなにモンスターのことは気にし まぁ、 奥に行くほどモンスターの数も質も上がるから必然的 なく に

らずかは別に 物関係を奪って溜めこむことが多いらしく、 なもので周辺の村を襲ったり道行く冒険者や承認を襲って武器や宝 らを回収 迷宮ってやつはモンスター たちが自主的に作ったコロニー て直接の利益を出すのが常套らし して迷宮内にはそれらが散乱しているので冒険者はそ その価値を知ってか知 さすがにゲー の よう

みたい に宝箱なんかを開けてアイテムを拾うことはな 11 んだな。

だ。 ね が相手するのは単純に討ちもらしたやつだったり、とどめの刺し損 から倒して無人の野を行くがごとく迷宮を突き進んでいく。 俺たち ていくが三井さんたちは非常に強い。 出てくるモンスターを片っ端 とりあえず三井さんたちの後ろを50メートルくらい離れてつ 雑魚過ぎて障害にならないと判断されたやつばかりで非常に楽

道、残りの二人が左の道へ行くことになったようだ。こういう場所 た方がいいとは思ったのだが、迷宮探索初心者の俺は黙って三井さ では突発的なトラブルに対応するためにできるだけまとまって動い んの後に続 していた。 それからしばらく、 いた。 三井さんたちはしばらく話し合った後で三井さんは右の たぶん1キロぐらい進んだところで道が分

だった。 3匹程度でほとんど苦労は増えていない。 てくるモンスターの数も増えはしたが10匹の集団に襲われ るえば終わってしまう。 三井さんは さすがに人数が減ったおかげで手数が減り俺たちの方に流れ 出てくるモンスターを先ほどと変わらないペースで倒して 100近いレベルなだけあって一人でも圧倒的な強さ 風 のナイフを敵 . て 2、

また、分岐か.....」

で道が分岐していた。 れからどうするのかを俺たちに聞いた。 さらに進んでい くと今度はさっきの分岐から500 三井さんはこちらに振り返り手招きするとこ メー

行くつもりなんだけどガイ君たちはどうする?」 とりあえずさっきの道とつながってるかもしれ な しし から俺は左に

はけっこう迷いどころだ。 さっきまでのモンスター を相手に

それほど苦労はないんじゃないか?という結論に達している。 なら苦も無く発生させられる。 かりしかいない。 した感じでは風のナイフのかまいたちの一撃で倒せるモンスター ば 実験したところかまいたちは連続で2 つまりは三井さんと別れたところで の回ぐらい

ら今までと同じ規模の敵しかいないなら正直楽勝だ。 こちらには単純計算で三井さんの倍の実力者であるレナもいるか

0三井さんの経験から言ってこっから先にさっきまでの敵より1 倍ぐらい強い敵は出そうですか?」 ん..... ここまでの感じだと俺たちだけでも戦えそうですけど

いなら。 さすがに というのが俺の意見。 10倍とかのレベル の敵だと苦戦しそうだがそうじゃ

思うよ」 敵は出な 「そうだ いんじゃないかな?せいぜい属性付きのベアーぐらいだと ね ... や っぱり迷宮によるけど、 さすがに 10倍以上強い

は聞 のことだな。 属性付きのベアー いている。 あ 61 つが地属性のベアー で他にも何種類かいるっ ってのは初仕事の時に俺が倒したアースベ

ょ それなら大丈夫だと思います。 俺たちは右に行かせてもらいます

先に俺たちがここから出ても日暮れまでは待っててあげるから。 すがに日が沈んだら報告もあるから先に戻らせてもらうよ」 「そうかい?じゃあ、 わかりました。 ありがとうございます」 日暮れまでにはここから出るようにして さ

日暮れまでだい たい 6時間ぐらいある。 まぁ戻る時間も考えてあ

と2時間ぐらい進んだら戻ることにしよう。

出てきたけど俺のかまいたちだけで切り伏せる。 この調子だとレナ はなにもしないままで今回の探索は終わるだろう。 が現れた。 三井さんと別れて右の道を進んでいくとやはりというかモンスタ 角突きのウサギやらゴブリン、普通のベアー なんかが

けで金が30 う。多くの場合は銀貨だけしか入っていないけど、 かりすぎる。 切り伏せ時折落ちている金貨や銀塊入りの巾着袋みたいなものを拾 俺たちは会話もないまま歩き続けた。 0万近い額になっている。 出てくるモンスターを俺が やばいな、 すでに拾っただ 迷宮探索って儲

-?

不意にレナが足を止めたので俺も立ち止りレナの方を振り返る。

· どうかしたのか?」

精霊がざわついています。この先に強い魔物がいるみたいです」

ぐらいのレベルしかいないし大したことないだろ。 なレベルだって言うしな。 だって一般人からすればまったく抗うことのできない災害のよう 61 魔物 : ね。 三井さんが言ってた限りだと属性付きの 属性付きのベア ベアー

先まで行こうぜ」 大丈夫だろ?もうちょっとだけ進んだら戻るつもりだしもう少し

の進む先を見てその毛を逆立てていることも、 が一匹も出ていないことも。 俺はその時気づいていなかった。 俺の肩に乗るスクルドが俺たち さっきからモンスタ

そして俺は自分のスキル、 幸運を過信しすぎていたんだ。 運がい

ていたんだ。 いことだし大したモンスターも出やしない。 そう心のどこかで思っ

つ松明の明かりだけが光源のためあまり遠くまで見ることはできな くらいの広さってこんな感じだ。 明かりのないその場所では俺の持 た。実際に入ったことはないけど、テレビなんかで見る東京ドーム いがたぶんそれくらいの広さだと思う。 しばらく迷宮内を進んでいくとすごい広さの広間らしい場所に出

にしか見えなかったがそいつは間違いなく巨大な何かだ。 不意に広間の奥で何かが動いた。奥にある黒い何かが動 いたよう

やばい、避ける!」

間の奥に進むようにその場を離れた直後、 たりを明るく照らした。 俺は自分でもわかっていなかったが直感的にそう叫んでいた。 何かが吐き出した炎があ 広

てくるとそいつがなんなのかを一目見て理解した。 突然明るくなったので一瞬何も見えなかったが、 徐々に目が慣れ

゙ドラゴン.....」

赤っぽい皮膚のそいつはどこからどう見てもドラゴンだった。

え、まじで?こんなん出るの?

19話 ワイバーンは強敵でした

ないんじゃな え、 ちょっと待って?この迷宮って強くてもベアーの亜種しかい いの?

なのに、だというのに、そうだってのに! 俺って幸運のスキルカンストするぐらい運がいいんじゃないの?

なんでドラゴンなんているんだよ!」

がよくわかる。 わらない明るさになった。 ドラゴンの吐いた炎のおかげでドームは太陽の昇っている外と変 おかげで目の前にいるドラゴンの大きさ

ってものすごいデカさだ。 たぶん全長は3か40メー トルくらいある。 広げられた翼も相ま

でください!」 火属性のワイバーンです。 間違ってもあなたのナイフで切らない

けないじゃん。 いや、無理だよ。 属性とか関係なくこんな化け物相手にできるわ

こんなの相手にできるわけないでしょ?逃げようぜ? 即座に弓を構えているレナを見るが戦うつもりみたいだ。 なせ、

吐いた炎のおかげで入り口がふさがっている。 れば抜けられないほどじゃない。 入り口に目を向けてみるとさっきドラゴン.....ワイバーンか。 軽いやけどを覚悟す

逃げよう!こんなの相手にできないって」

危険になったら逃げるのが一番だよ。 も逃げの一手には敵わないっていうじゃないか。 弓に矢をつがえて狙いを定めているレナに向かっ 三十六もの計略をもってして て叫ぶ。 ほら、

無駄です。 この子は逃がすつもりはないみたいですよ

間はほとんど誰も入ってないっていうから久しぶりの人肉に目がく ダラと涎を垂らしてこっちを見てる。 らんでるのか? ナの言うとおりワイバーンは凶悪な牙の生え揃った口からダラ この迷宮には俺たち以前に人

· だぁぁ、もう!ったく」

だなんて勇者以前に男として失格だ。 択肢はない。 女の子一人を凶悪なモンスター の前に残して逃げ去る 少なくとも俺の中にレナー人を残してこの場を逃げるっていう選

き放ちワイバーンに向けて構えた。 俺はレナの言っていた通り風のナイフは鞘に収めたまま短剣を抜

バーンが動 まってもアウトだろう。 もアウトだろうし、ベアー の方に突っ込んでくる。 俺が構えるのを待っていたかのごとく剣を構えた い た。 小さくその巨体を浮かせるとものすごい速さで俺 人ひとり軽く呑み込みそうな口に捕まって なんて比べ物にならないほど鋭 のと同時に い爪に捕 ワ

と連続 壁に激突した。 んな淡い期待は一瞬で塵と消えた。 横っ 飛びにワイバー ンの突撃を回避するとワイバー して火球を吐き出してくる。 これで気絶でもしてくれれば楽できるだろうが、 地面に着地し俺の方に向き直る お前はリオ ウスか! ンはその ? そ

がれた。 出す以外に選択肢はなくなってしまった。 というか、 もはや逃げ道はどこにもない。 壁に突撃したおかげで壁が崩れて入り口は完全にふ こい つを倒 して入り口を掘 さ

枝にちょうどよさそうだ。 印象しか与えてくれなかった。 かない短剣だ。 火球もなんとか回避するが、 ワイバーンの巨体と比べると何とも頼りないという ワイバーンの大きさからすれば爪楊 俺の武器は刃渡り50 センチほど

るが体に刺さろうが羽に刺さろうがワイバーンは意にも介していな 俺とワイバーンから少し距離をあけた場所ではレナが矢を射て あれじゃん、 絶体絶命じゃん。 61

楊枝みたいな武器でどうしろってんだよ。 が尻尾を振って攻撃してくるし、絶えず動いている相手にこんあ爪 世界とはいえ現実だ。 ゲー ムだっ たら攻撃するときとかに硬直時間があるはずだけど 近づけば火球を吐く直前だろうが直後だろう

『精霊よ、その力をアイシクルアロー!「やばいって!どうすんだよ!」

るかに超えているぶっ飛んだ光景だった。 センチ近い大きさのつららみたいなものが現れる様は俺の想像をは が叫ぶ のと同時にレナが氷の矢を放っ た。 何もない空間に3 0

俺に向かって突撃してくる。 までのダメージではないようだ。 は伊達じゃな 氷の矢を喰らったワイバーンは悲鳴のような咆哮を上げるがそこ というか、 矢で攻撃しながら詠唱してたの?レ いってことか。 それに比べて俺の情けな さっきとさして変わらな ~ ル 2 0 いこと。 い速さで 0近 61 0

の短剣でワイバーンを斬るにはあのっまょうじ 回避を優先するがために剣はドラゴンにかすることもなかった。 とダメみた すれ違いざまに切りかかってみるがい いだ。 爪を喰らうぐらい かんせん長さが足り の覚悟はしな

「ちょ、スクルド!どこに行く気だ!?」

らといって安心はできない。 あの小さな体でワイバーンに襲い掛かるという心配はないが、 の肩から飛び降りて駆け出した。 どれだけ俺が乱暴に動いても即座に肩に戻ってきたスクルドが俺 ワイバーンと正反対の方向だから だか

剣や斧が何本も立てかけられていた。 つように座っていた。その横には無造作に積まれた箱が並べられ、 スクルドは広間の端、 ちょうど入り口とは正反対の場所で俺を待

「お、おぉぉ!マジか!ナイスだスクルド!」

いほど強そうな武器がゴロゴロと転がっている。 してくれたようだ。 武器があることに気付いたスクルドが俺にそのことを教えようと 今まで俺の持っていた短剣とは比べ物にならな

「これでなんとかなるといいんだけどな.....」

「キュイ!」

が打ち付けた。 無造作に剣を取ろうとした俺の手をジャンプしたスクルドの尻尾 痛いとは言わないがちょっとショックだ。

どうしたんだよ。早くしないとレナが危ない んだって」

動きを制限しているが、 に立ちふさがってくれていた。 スクルドを追いかけて来る間レナがワイバー ンの足を止めるよう 決定打には程遠い。 先ほどの氷の 矢や実際の矢なんかで

「キュイ!」

なんだよ、その剣にしろってのか?」

鞘に収まったそれは柄も含めれば優に一メートルを超える長さをし け っと荷が勝ちすぎるんじゃないかと思わせる長さだ。 言い ている剣に目を向けた。 ながら俺はスクルドがこれだと言わんばかりに体をこすり 剣に(というかどんな武器もそうだが)不慣れな俺にはち 全体的に黒で統一されたカラー リングの

「キュイ!」

じで俺は黒い剣を手に取った。 し的存在だ。 信じないわけじゃ ないけど不安がないわけじゃない。 そうだと言わんばかりに元気よく鳴 スクルドは神獣だし、 くスクルドに渋々といっ 俺の大事な癒 た

変わらない.... ルドすごいって。 正直自分の手の感覚を疑いたくなったがさっきまで持ってた短剣と 黒い剣は持ってみると見た目と長さのわりにさして重くなかった。 いや、こっちの方が軽い。 すげえよ、やっぱりスク

場にいない。 てみる。 とりあえず戦いの後に拾えばいいと思い剣を鞘から抜き放ち構え 鞘を置いたことで小次郎破れたりと言ってくる武蔵はこの (当然だが)

ったことだ。 なる興奮が体を走る。 驚きなのは両刃の刀身もあらゆる光を吸収するような漆黒の刃だ 禍々しいとは言わないが少しばかりの不気味さと大い

強さの剣が拾えるなんて普通はありえないだろう。 ているようだ。 間違いなくこの剣は強い。 行き当たりばったりともいえる状況でこれだけ ここでも俺の幸運のスキルは無事に

そうして生まれる 俺は !両手で持った柄を握りなおすと何もない空間を一度薙 の は風 のナイフのように不可視のかまいたちでは 11

[「]え!?」

剣で風属性のかまいたちが出るなんて思わないじゃないか。 まさか出るな しらで風 俺としては感覚を掴むために振っただけのつもりだった。 のナ んて思っていない。 イフのようにかまいたちが使えればとは思っていたが だって風属性は緑なんだぞ?黒い どっ

「あ、やばっ!」

なと言っていたのはそれが原因だ。 風属性は 火属性を活性化させる。 さっきレナが風のナイフを使う

時に、 魔法が使えるようになるかもしれないと各属性の魔法を調べてる 基礎的な各属性の相性ぐらいは覚えていた。 だってのに....

「 グルアァァァ アア!!!」

軽く薙いで起こしただけの黒い斬撃はワイバーンの左足を切り落と していた。え、なにこの反則級の武器 俺の想像とは違い、 ワイバーンは悲鳴を上げていた。 というか、

お前の気持ちはよくわかる。 レナも突然の事態の変化に驚いた表情でこちらを見ている。 俺だって同じ気持ちだ。 うん、

首を落とした。 斬撃はワイバーンの羽を切り落とし、尾を切り落とし、 その後の展開は実に一方的だった。 俺が振るうたびに生まれる いや、マジで強すぎるよこの剣 最後には

もんかと考える。 心が過ぎるかと思ったが)確認し、 ワイバーンが確実に死んだことを (首がないのだからさすがに 積まれた箱と剣、 斧をどうした 用

と何 うな防具がないかと思ったが、 きらめた。 2本に薙刀 中身を確認 かの本が入っている箱に分かれていた。 だけど、 のような槍?が1 したところ、 箱は5つあり剣が10本に斧が3本、ランス 箱には金塊や宝石なんかが入って 本 防具自体が見当たらないのでそれは 弓が3本と矢がたくさん。 剣と同じぐらい 使えそ 11

にない。 たいない 他にもい だからってこれだけのお宝をこのままにしておくのはもっ 誰かに取られるのはしゃくだ。 うか の武器があり正直外に持っていくことができそう

それらしいアイテムはなかった。 るほどの幸運の持ち主だ。 ロボットの4次元ポケットも持っていない。 ゲームみたいにどこに入るんだよと思わせるリュ 探せば見つかる!と思って探してみるが いや、 俺はカンストす ックや某ネコ型

の 機会にすると誰かに取られる心配がある。 何度も往復するにはここと出口まではずい 忑 ん距離があるし、 次

゙だぁぁぁ、どーすればいいんだよ!」

ておく。 矢なんかは魔法ではなくそれらしい)を使いすぎて疲れたらしい で壁にもたれて座っていたレナが何事かと見るがそれはそれと置い 突然大声を出した俺を精霊術(さっきまでレナが使っていた氷 の の

マジで解決策がない。

「ん?どうした、スクルド」「キュイ?」

間か? り口とは別の場所からこちらを見つめる人間がいた。 スクルドが見つめる先を見てみると俺たちが入ってきた広間の入 させ、 あれ人

11 おでこに2 亜人は人間だから人族には見えないってのが正しいか。 0センチくらいの角が生えてるし、 人間には見えない。

`ひうつ!」

俺とスクルドの視線に気が付いたのか角が生えたそい つはその姿

が見えてるからそこにいるのはもろバレだ。 を隠そうとした。 いた、 ぎりぎりの位置から覗き込もうとしても角

「おぉ~い、君どうしたの?」

どことなく保護欲をそそられる。 声をかけられるとは思っていなかったのかビクリと反応する姿には んだ。そんな目で見ないでおくれ。 黙って いてもしょうがないので声をかけてみた。 ぁ ごめんスクルド浮気じゃない 離れてとはいえ、

たのかその子は広間に入ってきた。 しばらくじっとしていたがいつまでも俺が見ていることに勘弁し

女の子には遠目にもわかった通り額から角が生えている。 たぶん小学生ぐらいか?背は低くどことなくか弱さを感じさせる

驚きました。 まさか鬼人がこんな場所にいるなんて.....」

だろう。 ら驚けるはずがない。 そう言って目を丸くしたのはレナだ。 たぶんだが、 文字通り鬼の姿をした亜人なん 鬼人なんて俺は知らないか

さっきからこっちを見てたみたいだけどどうしたの?」

るように剣を横に置く。 て語りかけた。 俺は怖がらせないようにしゃがんで目の高さを鬼人の子に合わせ なんか怖がってるみたいだから敵意がない のを教え

お お父さんとお、 お母さんがね あの. その

子の鬼人の子に俺はうなづきながら先を促す。 びくびくとして話すのも戸惑いが強いのかうまくしゃべれない様 少しでも怖がらせな

いように微笑みを絶やしてはいけない。

襲われた?」 ... 洞窟の前で..... その 人族に襲われて.

か? いうことだ?モンスターならわかるが、 ずいぶんと不穏な単語だ。 洞窟の前で人族に襲われるなんてどう 盗賊か何かだったんだろう

鬼人は力が強いので労働力としてさらわれる例が少なくないですか 「たぶん、 人攫いか奴隷商でしょうね。 私たちエルフは性奴とし

「そんなことがあるのか!?」

世界ではそんな身近な問題だったとは知らなかった。この子も襲わ れたせいで怖 確かにこういった世界では奴隷なんて単語もよく耳にするがこ い思いをしたんだろう。 **ഗ**

「それで..... この... ど、 洞窟に来たら......さっきのワイバーンが...

:

もワイバーンの前に素手で立っては勝ち目がなかったようだ。 まったらしい。 どうやら、 家族で逃げ込んだがさっきのワイバーンに襲われ 人族よりもはるかに戦闘力に長けているらしい鬼人 てし

事にこの先の通路に隠れていたそうだ。 なんとか子供だけでもと両親が時間を稼げたおかげでこの子は

大丈夫だよ.....怖いやつらはもういないから」

俺はそう言って安心させるように鬼人の子の頭をなでた。 緊張の

殺されたのだ。つらくないはずがない。 糸が切れたのか、 の子は涙を流し、 声をあげて泣いた。こんな子供が目の前で両親を 俺への恐怖がなくなったのかはわからないが鬼人

俺は鬼人の子が泣き止むまで頭をなで続けていた。

うだ。 こんな子がつらい思いをする世界だなんて.....俺もなんか泣きそ

19話 ワイバーンは強敵でした (後書き)

ちょっと長くなりそうだったので19話はここで終了です。

深く感謝申し上げます。 評価してくださった皆様とお気に入り登録してくださった皆さんに いつの間にか日間ランキングで1位になっていました。

今後とも箱庭の勇者とししだをよろしくお願いいたします。

ブを脱いでもらいその上に寝かせた。 度の疲労からかそのまま眠ってしまったので、 しばらくして鬼人の子は泣き止んだ。 緊張の糸が切れたことと極 レナの着ていたロー

悔やんでいても仕方がない。 てしまっただろう。帰りは徒歩になるのかと思うと気が重かっ とうに日も暮れる時間になっていたので三井さんたちは街に帰っ たが、

夜を明かすことにした。 鬼人の子をここに置いていくこともできないので俺たちもここで

ら絶対に肉は持って帰る。 ンがうまいということは絶対忘れないようにしよう。 今後も倒せた まそうな肉は今までに食べたどんな肉よりもうまかった。 いたのでワイバーンの肉を焼いてみた。 適当に燃える物を集めて火を起こし、 見た感じ霜もふっていてう 食べられるとレナが言って ワイバー

かで一悶着あった。 迷宮の中は危険なのでレナと交代で寝るのだが、どちらが先に寝る 食事も終えてひと段落すると休息を取るために寝ることになった。

に起きているか、でだ。 せ 当然のことながらどちらが先に寝るかではなくどちらが先

ろという。 くなってしまうので渋々俺が先に寝ることになった。 俺は女だしさっきの戦いで疲れただろうレナが先に寝るべきだと レナはスクルドが俺と一緒じゃないと寝ない いつまでたっても話し合いが終わらないと寝る時間も無 から俺が先に寝

探索ということで疲れていたのか睡魔はすぐにやってきた。 ごつごつとしている迷宮の地面は眠りにくかったが初めて の迷宮

考えながら俺は眠 たら謝らないといけない。 迷宮の中で夜を明かすなんてアリアが心配するだろう。 りについた。 そんなことを徐々に薄くなる意識の中で 街に帰っ

いることを考えると荷物が増えるのは得策じゃない。 かという話になった。やっぱりお宝は諦めがたかったが鬼人の子が 俺と交代で眠ったレナが起きてきたのでこれからどうする

で鬼人の子が起きてきた。 鬼人の子が起きたらすぐに街に帰ろうという話をしているところ

「......あの、おはようございます」

「おはよう、よくねむれた?」

「おはようございます」

「キュイ」

あれど俺たちに対する恐怖心はなくなったようだ。 一晩寝ている間に何もされなかったことで安心したのか戸惑いは

適度に朝食を済ませると俺たちは装備を確認して立ち上がった。 うと朝から肉だなんて胃にくるが、何も食べないのはよろしくない。 昨日に引き続きワイバーンの肉を焼いて食べる。 これで一安心だし、とりあえず腹ごしらえをしたら街に帰ろう。 いくらうまかろ

うぅ~ん.....どうすっかな」

持ち帰るのは必然的に剣になるだろう。 は持って帰ることにした。 全部おいていくのはもったいないので、 俺が迷っているのはどの武器を持っていくかだ。 槍や斧なんかはデカくて邪魔になるから 邪魔にならない程度の武器 しし くらなんでも

あの.....どうしたんですか?」

らない相手では戸惑いが強いのは当然だろう。 おずおずと鬼人の子が訪ねてきた。 恐怖心がなかろうと名前も知 ん?名前も知らない?

ガイ、 させ よろしくね」 そう言えば自己紹介もしてなかったね。 俺の名前は獅子王

あの.....プリルです」

重要だな。 コミュニケーションを取るにあたって自己紹介とシェイクハンドは プリルはおずおずと差し出された俺の手を握り返してきた。 うん、

あいつはレナ。 で、こいつはスクルドって名前なんだ」

えず俺が紹介しておけば問題ないだろ。 ってもらえばい をしているレナと言葉をしゃべることができないスクルドはとりあ 次いでレナとスクルドのことも紹介しておく。 火の後始末なんか 個人的な自己紹介は後でや

それで..... あのシシオー さんはなにを悩んでるんですか? 獅子王って呼びにくくない?呼びやすいように呼んでいいよ?」 それじゃ......その......お兄ちゃんって呼んでもい いですか?」

やばい、 の胸をズキューンって効果音付きでどデカい何かが通り過ぎた。 破壊力高すぎる。

だ。 おとなしめのかわいい子にお兄ちゃんって呼ばれるのが夢だったん 妹的存在だったあいつは元気すぎて疲れるやつだったからこんな あぁ、 泣きそう.

あの . だめですか?」 いやいや。 うん、 大丈夫。 お兄ちゃ んでもお兄様でもに

いせ

「...... お兄ちゃんっておもしろいです」ぃにぃでもどんと来い!」

はない。 クルドに近い存在なんだ。 も仕草も最高。 またもズキューンと俺の胸を通り過ぎる何か。 保護欲をそそられるだけだ。 マジでお持ち帰りしたい..... そういう意味ではプリルはス させ、 クスって笑う表情 俺はロリコンで

なくてさ.....」 れか邪魔にならないものを選ぼうとしてるんだけどなかなか決まん 「あぁ、この武器を持って帰りたいんだけど量が多いからね......ど 「それで.....お兄ちゃんは何をしてるんですか?」

せた。 戦えなくなるからってあきらめたのに..... から危ないという暇もないくらい軽い動作で5箱まとめて持って見 プリルはトコトコ歩いて無造作に積まれた箱を持ち上げた。 俺もまとめて持てないことはなかったけど激しくふらつくし 重い

以上あるんだぞ? 箱はそこまでじゃなくても、 こんな小さい女の子がなんでそんな軽く持ってるの?本の入った 金塊入りのやつは絶対1箱で20キロ

くいですけど一括りにできれば何とかなると思います」 「これぐらいなら私持てます。 他のものも持つのはちょっと持ちに

殴り合いしたら一方的にボコられそうだ。 ようなまねは絶対しないようにしよう。 小学生みたいななりしてプリルって怪力無双なんだな..... うん、 プリルに殴られる なん

しかし、 一括りにするって言ってもそんなデカい いくらプリルが怪力でも箱を持った状態で武器は持てな 布は持ってない

昨日倒したワイバーンの死体だ。 ところで異臭もしないし腐った様子は一切ない。 かな いかとあたりを見回しているうちに俺の視界に入っ 涼しい迷宮の中では一日放置した たのは

「ん?あぁ、もしかしたら.....」

地面に引きずったところで敗れるどころか傷一つつかない。 包むのに十分な大きさがある。 もともとが頑丈なワイバーン なりの大きさのそれは二重にすれば落とさずに武器や箱のすべてを 俺は根元から切り取られたワイバーンの翼をプリルに見せた。

簡易的な巨大袋は見た目だけでかなり重そうだ。 べて翼でくるみ、翼に穴をあけて落ちていたロープで縛ってみる。 ダメもとだし落としたところで諦めれば済む話だ。 箱や武器をす

はい、 プリル、 お兄ちゃ 重かったら無理しなくていいんだからな」

丈夫なワイバーンの翼には何の問題もない。 の大きさの関係で持ち上げることはできないが引きずったところで の心配をよそにプリルは軽々とそれを引きずった。 さすがに体

んだけど。 武器の問題が一気に解決してしまった... しし き うれしいことな

の外にたどり着いた。 くと昨日来た道を逆にたどっていった。 その後は入り口を埋めていた瓦礫を黒い剣の一撃で粉砕し道を開 い剣の一撃で紙屑のように切り捨てて何の問題もなく迷宮 出てくるモンスターはこと

やはりというか、 当然のことながら馬車はそこにない。 もし

は歩き続けた。 たらって淡い期待もなくはなかったが、 徒歩で街に戻る間もプリルには頑張ってもらうことにして俺たち まぁ仕方がないだろう。

はしない。 さらに弱い連中だ。 街までの道でも何度かモンスターが現れたが迷宮内のものよりも どれだけ数がいたところでなんの問題にもなり

着いた。 ちょうど夕暮れ時、 オレンジ色に染まる街に俺たちは無事たどり

俺はスクルドを肩に乗せて冒険者ギルドの扉を開いた。 荷物が扉を通らないのでプリルとレナにはこの場に残ってもらい、 家に帰るよりも先にアリアがいるだろうギルドに行くのが先だな。

がいた。 ギルドに入るとカウンター に突っ伏して肩を震わせているアリア

「アリア……ただいま」

「へ?」

知らないが泣いていたようで目は真っ赤になっている。 俺が声をかけるとアリアは突っ伏していた顔を上げた。 なんでか

が、ガイ?……ほんとにガイなの?」

゙えぇ、ほんとに獅子王ガイですよ」

三井っていうバルデンフェルトの人がどこにもいなくなったとか言 ってたから..... あんた..... あの......迷宮でいつまでたっても帰ってこなくて. わたし..... あの.....」

わからないんだろう。 すっ かり混乱 している様子のアリアは自分でも何を言ってるのか

間 の入り口が瓦礫でふさがってたから見つけられなかったってこと たぶん三井さんが見つからないって言ったのは俺たちの入った広

だろう。 いといけないな。 おいてい くとか言ってたのに、 三井さんにも謝っておかな

私 あんたが死んだかもって言われて..... だから..... ほんとに

:

だ。 が言っていたが、 は本当に取り乱して今日一日まともに仕事ができていなかったそう お世話になったギルドマスター(その節はご迷惑おかけしました) の居候相手にこんな心配してくれるなんてアリアは本当にいい人だ。 たのかと思うとほんとに申し訳ない気持ちになる。 俺みたいなただ 結局、ギルドへの報告なんかは全部明日行うことになった。 以前 アリアの目にぶわっと涙が浮かんだ。そんなに心配してくれて 俺が死んだかもしれないという話を聞いたアリア

ちと合流して家へと向かった。 われてギルドを出た俺とアリアは、 とりあえずアリアを落ち着けるためにも家に帰った方がいいと言 ギルドの前で待っていたレナた

われんのかなぁ というか、 アリアさんが落ち着いたらプリルのこともいろいろ言

いや、とりあえずそれは考えないようにしよう。

20話 その後はいろいろ楽でした(後書き)

登録してくださった読者の方々にお礼申し上げます。 お気に入り登録件数が1,000を超えました。

今後とも頑張りますのでどうぞよろしくお願いします。

とも言われた。 てなんだだの白い目で見られたりして精神的にもいろいろキツイこ アリアが落ち着いてからは俺の想像通りプリルについて一悶着あ また俺が同居人を増やしただの文句を言われ、 お兄ちゃんっ

だった。 村に帰ったところでいない。できることなら俺と一緒にいたいとの る村?に送っていくつもりだったのだがプリルがそれを拒んだこと 問題だったのは 両親がワイバーンに殺されてしまい、 俺の中では落ち着いたらプリルを鬼人が住ん 頼れるような相手は しし

た。アリアは亜人に対しての差別意識がないのが何ともありがたい 必至の説得のかいあってかアリアは渋々プリルの同居も認めてくれ プリルの言葉を聞いて当惑する俺と激怒するアリア。 結局は \mathcal{O}

のだが、子供とはいえもともと一人部屋に二人いたところにさらに 一人増えたのだ。 プリルもレナと同様にアリアの部屋で寝泊まりすることになっ アリアの部屋はずいぶんと手狭になった。

を出ることも出来るかもしれないのでさっそく俺は見つけた武器な 額になりそうだ。不要そうな武器なんかも売ってしまえばこの部屋 宝石なんかを売って金に換え金塊や金貨なんかと合わせれば相当な かを調べることにした。 プリルのおかげで見つけたお宝の類は全部持って帰ってこれ た

ヴァ ンヘルト 種 別 : 魔剣 クラス:第3位 属性

すん というか、 レンズはやっぱり便利だ。 のか?つか、 あの黒い剣って魔剣だったんだ.....やっ 第3位ってどうゆう意味だろう。 武器の能力の確認にも使えた。 ぱ り呪われた

火の戦斧 土のランス 種別:斧 クラス:ノーマル 種別:突擊槍 クラス:ノーマル 属性:火 属性·

性:火、 双剣ウェイズ&am 祝福された水の弓 土・水、 風 種別:弓 p;フロウ クラス:ノーマル+ 種別:剣 クラス:レア・ 属性: . 水

『真槍リーベデルト 種別:真槍 クラス:第9位 属性

どうか判断の付きにくかったやつだ。 それにしても真槍ってのは神槍とは違うのか? の5つが属性もちの武器だった。 やっぱ、 真槍はあ 槍でよかったんだな。 の薙刀みたいな槍か

し名前も剣やランスなど見たまんまだった。 これ以外の武器に関しては有象無象、クラスはノーマルしかない

たし少しぐらいレベルも上がっているだろう。 分の能力がどうなっているのか気になった。ワ とりあえず武器に ついでと言ってはなんだが、迷宮の探索も終えたことだし俺は自 ついてはおっさんにいろいろ聞いてみよう。 イバー ンだって倒し

9 S 獅子王ガイ スキル:幸運L> 魔剣士Lv 種族:人間 . 1 7 . 9 9 冒険者 L V 職業:勇者 魔術Lv . 1 2 . 5 7 冒険者 e t c 肉体強化 レベル:32 L V . 8

備考 :異世界に召喚された勇者。 現在は冒険者ギルドに所属して

称号

: B r

a V

e

Т

a m

e r

d a r k

n e s

がってるしスキル増えてる。 暗黒?魔剣を使ったからか?スキルが普通の剣士じゃ ってのもその影響かな? おぉ !やっぱりレベルが上がってる。 称号の dark ていうか、 n essってなんだ? スキルレベル上 なくて魔剣士

お兄ちゃん、何してるの?」

ん? !

の顔を、 プリルが俺の顔を覗き込んできた。 レンズを通して自分の手を凝視している俺を不思議に思ったのか だ。 レンズを目に押し当てている俺

9 プリル・リーベン スキル:筋力強化L> 種族:鬼人 . 2 0 0 クラス:一般人 レベル:3

備考:鬼人の少女。 鬼人の中でも特異な力の持ち主

やはりというか、プリルの意図せず頭の中に流れ込んできた。 筋

力強化のレベル200って.....

うだろ。 るのが普通な種族だったら人間なんてあっという間に滅ぼされちま うん.....普通にこんな子供があんな重いもんを軽々と持ち上げられ つか、 プリルって鬼人の中でも特別なのか.....そりゃそうだな。

· どうしたの?」

となでてやると俺は立ち上がった。 きょとんとした様子で俺の顔を見つめるプリルの頭をくしゃ

魔法の レンズで体に異常がないか調べてたんだよ」

「魔法のレンズ?なにそれ?」

な 秘密だよ。 プリルのことも見てみたけど異常なしだったから安心

ルは子供だ。 レンズのことを話して迂闊に他人にもらされた

まうと俺は武器のいくつかを手に取った。 ら面倒なことになるかもしれない。 少しばかり強引だがレンズをし

うん!」 これから、 武器屋に行くんだけど手伝ってくれるか?」

うなづいてくれた。 レンズのことを気にしていた様子はすでになく、 プリルは元気に

武器を持って家を出る。 てる武器の方が少ないのが何とも情けないことだ。 プリルにいくつかの武器を持ってもらい、俺も抱えられるだけのプリルの持ってる武器よりも俺の持っ

おっさん、いるか?」

た。 俺はいつも通りのおっさんが営業する武器屋の扉を開け中に入っ トコトコと俺の後に続くプリルのために扉は開けっ放しだ。

てまたデカい仕事でもやったのか?」 おう、 どうした兄ちゃん。 こんなにしょっちゅううちにくるなん

る?」 「まぁね。 今日は武器を持ってきたんだけど、 買い取りとかやって

んをうちで売るのは勘弁してくれよ」 「そりや、 い武器なら買い取らせてもらうけど、 うちで買っ たも

「はは、そんなことしないって」

た斧やランスなんかもカウンター 俺は持っていた武器をカウンター に立て掛ける。 の上にのせた。 プリルが持って

を襲ったとかじゃねえよな」 こんなにたくさんどうしたんだ?まさかその辺のキャ ラバ

んなこと しないって。ちょっと迷宮に入っ てね

ってたくせにもう迷宮に入ったのかよ」 迷宮って一昨日見つかったっていうあれか?へぇ~新米だっ

おっさん は純粋に驚いた様子で武器を手に取った。

様子であたりの武器を物色している。 金は金塊1つに金貨が5枚。1500万もの大金を持ち歩くのは怖 に余裕はあるから買取できる.....と思う。ちなみに今日の俺の所持 ものがあったけど、 俺についてきたプリルは武器屋が初めてなのか興味津々とい いい防具を買うために必要な金額だと思う。 まぁ、少し壊したところで金 った

どっ いせ、 こい つは驚いたな...

たの?」

61 な のになにを驚くことがあるんだろうか? た様子で剣を置いたおっさん。 まだ、 3本ほどしか確認して

性もつ いてるだろ?」 つもこいつもかなりいいもんだ。 とくに、 この辺の武器は

騎士団で正式採用されるほどの武器だそうだ。 ンフェルトほどの大国とはいかないまでも小規模の国であれば王宮 なんかが置かれ アリティノーマルですよ? おっ さんが示したあたりは確かに火の戦斧やら祝福され でいた。 た なんでも属性付加されてないものもバルデ でも、 その辺の武器 た水 の弓

下のものしか売らなかったがそれだけでもこんな金額になるのか 武器は全部で金貨で8枚になった。 レアリティ マ +

だな。 というか即金でこんだけの額出せるなんて武器屋って儲かるん

そういやぁ、 こいつはどんなもんだかわかる?」

双剣をカウンターに置いた。 言いながら俺は腰に差したヴァンヘルトと後ろ越しに差していた

剣らしいんだよね」 なんか、 こっちの双剣はけっこうレアっぽいし、 こっちの剣は魔

「魔剣だと!?」

結局カウンターの上に置いたまま観察している。 あれ?ヴァンヘル 取った。 トってめちゃめちゃ軽いよな..... おっさんは双剣の方は無視してヴァンヘルトをすごい勢いで手に だが、 魔剣はカウンターに張り付いたように持ち上がらず、

リジェンスソードだ」 インテリジェンスソードってしゃべる剣のことじゃないのか?」 間違いないな..... 魔剣だよこいつは。 しかも第4位以上のインテ

なんか、 持ち主と口げんかしながら戦うようなイメージしかない。

持ち、 んてそんなにねえよ。 「そりや、 持ち主を選ぶ剣のことだ」 しゃべる剣もあるにはあるが、基本的にしゃべ インテリジェンスソードっていうのは意思を

お前はそいつに選ばれた。 こいつはやっぱりそんな大層なもんだったのか. とおっさんは言った。

位っていう槍もあったんだけど」 第4位とかってどういう意味?今日は持ってこなかったけど第9

てるんだ!?」 なんだと!?9位ってことは真槍か?お前どんだけ

なんかすごいことらしい。

で、その何位とかってなんなの?」

剣だ」 位の剣は神剣って呼ばれて世界に1振りしか存在しないほどすげぇ 「位階はその武器の存在がどれだけのもんかってのを示 してる。

されているとかなんとか。 の4種類の武器が存在し、 なんで・ ŧ 1位の武器は神 10位までの武器はすべて神が作ったと と呼ばれるらし ι'n 剣 槍、 弓

倍々式に増えるらしい。2位から5位までの武器は聖 ないほど強力な剣ってわけか.....でも神様が闇属性の武器作るのっ てなんか変じゃないか?まぁいいや気にしても仕方ない。 かれ、それぞれが光と闇の力を有している。 つまりヴァンヘルトは神様が作った魔剣で世界に4本しか存在し 1位の武器が世界中にそれぞれ1つ、2位で2つ、3位で4つと と呼ばれ、 火 風、水、土、雷の5属性が宿っているそうだ。 6位から1 と魔 0位までは に分

の思ってた以上にすごい武器だったんだな...

のことは俺も話したりしない げば 兄ちゃん、あんまり魔剣や真槍を持ってることは口外しない方が それ目当ての馬鹿どもが寄ってくるからよ。 当然兄ちゃん

らよろしくな」 あんがとおっさん。 助かるよ。 これからもお世話になるだろうか

はない。基本的な防具は売ってるが、いい防具は専用の店に行かな おっさんも言っていたがこの店は基本的に武器屋であって防具屋で いと見つからないそうだ。 俺は防具をいくつか見たが剣に見合った防具は売ってなかった。

はプリルの手を引いて店を後にした。 てないのでは仕方がない。 また今度何か買いに来ると言い残して俺 できることならおっさんの店の売り上げに貢献したかったが売っ

Uて、次は宝石を売ってギルドに報告に行くか。

41話 俺も成長しているみたいです(後書き)

感想でご指摘いただきました。 鬼人が人より優れているのに人に隷属されるはずがない のでは?と、

私の説明不足で申し訳ないのですが、 る個体はほぼ皆無で、 的な意味で力が強いだけの種族です。 んどありません。 人族が魔法で攻撃した場合、 魔法に対する適性を持ってい 鬼人は基本的には単純な腕 抵抗手段はほと 力

また、 い詰めます。 人族は亜人に対して様々な対抗策を講じ、 あの手この手で追

当然、 とは非常にまれになります。 基本的に亜人は里から出ることが少ないので、 1人か、少人数で旅をしているので狙われる心配が多くなります。 人攫いに見つかった場合、罠や魔法なんかを使われて逃げられるこ 亜人側も狙われないよう様々な対策を立てますが、 旅をしている亜人は 奴隷商や

また、 れを装着された者は首輪の主人に反抗できないというものです。 数多く存在し、 ギルドカードのように魔法の効果で異常に便利なアイテムが その中でも隷属の首輪みたいな装備があります。 そ

圧倒的に少な 思われるかもしれませんが、 族よりも優れ いです。 7 いるなら種を上げて人族を襲うのではな 基本的に亜人は人族に比べて絶対数が いか?と

これは、 です。 が多くなります。 基本的に人族よりも寿命が長い亜人種は繁殖能力が低 乱獲などによるものではなく、 種としての繁殖能 力の いこと

よって、 0程度 人族の総戦力が のものなため戦いをすることはありません。 1 0 0としたら亜人の各種族の総戦力は

小国が亜人の軍勢に滅ぼされたという例は過去をさかのぼれば多少 ありますが、 決してその数は多くありません。

ずなのですが、なにごとにも抜け穴はある。 本来は国際条約的なもので亜人の誘拐などは取り締まられているは や人攫いが暗躍するわけです。 ということで、 奴隷商

せください。 応させていただきます) 納得いただけない場合、その他質問がある場合は感想などでお知ら にもネタバレ的なものであった場合は、 以上が私の考えている亜人を隷属化するにあたっての世界設定です。 私にできる限りで説明させていただきます。 ユーザーのメールなどで対 (あまり

あとがきなのに長くなって申し訳ないです。

ち一つはプリルに持ってもらった。プリルが2箱とも持とうか?と 平然とした顔で聞いてくるあたり俺って情けない..... える店に向かうため家を出た。 かなり重かったので二つある箱のう 家に戻って宝石の入った箱を持つと今度はこれを買い 取ってもら

なりの額になったのだ。 傷がついているとかの心配をしていたけど、 宝石の買い取りを終えて店を出た俺の表情は非常ににやけ なにせ、思った以上に高く売れた。 それを差し引いてもか 乱雑に入っていたから 7

なった。 しめて金塊7つに金貨3枚、銀塊4つに銀貨が6枚と言った額に

て?1億3756万8500円相当だ。 に換算すれば、137578500円相当だ。 に銀貨が24枚と銅塊と銅貨がそれぞれ35ずつになった。日本円 週間で億万長者になっちゃったよ。 これで俺の総資産は金塊が12個に金貨が16枚、銀塊が1 やばい俺、この世界に来て ん?わかりにくいっ 3

露店で買った串焼きを頬張りながらギルドに向かう。 ちなみにレナ はやることがあるとかで森に向かった。 大金持ちになったことだし、プチ贅沢ってことでプリルとともに

えればかなり高額なんだが、 く感じてしまうから不思議だ。 ギルドで報告を終えると報酬が支払われる。 とりあえず今日は仕事しないで報告だけだし問題はなさそうだ。 迷宮で得た金額に比べるとどうも少な 銀塊5つと普通に考

けっこうすごいと思う。 てもらった。 ついでに昨日その役割を終えたワイバーンの翼をギルドに買い 穴をあけたりしてあったけど銀塊3つになったのは 穴が開いてなかったら金貨1枚だったそう

だがまぁ、 これぐらいならいいと思えてしまうのも不思議だ。

'なんか、金銭感覚おかしくなるな」

0万くらいの装備が壊れたって金貨1枚でしょ?大丈夫とか言って しまいそうで実に怖い。 まじでゲー ムみたいな金銭感覚になってきた。 このままだと1

大丈夫、お兄ちゃん?」

をなでてやる。 難しい顔をし いたのか心配そうに俺を見上げてくるプリルの

大丈夫だよ」

ちなカードは。 ドの待合室でのんびりとしている。 に金を預け、 ドみたいな役割も果たすらしい。 ギルドカー ドはほんとに便利で地球でいうところのクレジットカ 今はアリアに教えてもらった手続きをしてもらっているのでギル ギルドカードで支払いをできるようにする手続きだ。 どんだけ高性能なんだこのちゃ なんの手続きかというとギルド

がではなく俺の所持するものがってところが悲しいけど。 のギルドランクはGのままだ。ぶっちゃけ分不相応だろう。 からない。 いものがないか探してみるが、下位の仕事では大したものが見つ 待っている間は暇なのでプリルの相手をしたり明日以降の仕事で 億を超える金を持っていても、 そういえば、どうやったらギルドのランクは上がるんだ? 第3位の魔剣を持ってい ても俺 ランク

のランクも上げたいと思う今日この頃。 装備的にはCランクの仕事だって簡単にこなせるわけだし、

怒られたらしく、 リアではない。 どうやら手続きが終わったみたいだ。 最近俺の相手ばかりしていたのでギルドマスター に 今日は別の人間が受付をしてくれた。 ちなみに受付をしたのはア

簡単に教えてもらい、俺とプリルはギルドを後にする。 ギルドカードをクレジットカードとして使うための規約なん かを

いだろう。 金もあるし、 いい物件がないかちょっと探して見るかな。 いつまでもアリアの家に居候しているわけ も か

街まで徒歩で5分程度、 周囲に民家はなく、家を出てすぐ街道につながっているような家だ。 った。二階建て、庭付き、風呂2つにトイレが4つで家具は備付。 んじゃないのか? 利便性はそんなによくないが、街のはずれあたりにいい物件が 森にも10分歩けば行ける。 なかなかいい

警戒してなかったし問題は特にないだろう。 さすがにレンズで見ても家の情報は見れなかったが、 スクルドも

うというと不動産屋のおっさんは驚いた様子だったが、 にしてもしょうがないだろう。 金塊2つに金貨が3枚と言う値段を聞いて即決した。 その辺は気 一括で支払

入居は明日にでも可能というのでアリアには帰ってすぐ話すとし

とりあえず足りないものを買い足すか....

でお別れ プリルの手を引いて日用品が売られる店を適当に冷やかして今日 のアリアの家へと帰るのだった。

なかった. ただ、 俺はこの決断が思わぬ凶事を呼ぶなんてこのとき考えもし

話 俺のせいで彼女は泣い ていたみたいです

らかましだ。 的状況に比べれば短剣一本でワイバーンに襲われてた時の方がいく 俺は今、過去類を見ないほどの危機に瀕していた。 今の俺の危機

うわけだ。 目に合う理由がわからない。 なぜこんな事態になったのか全く分からない。 俺としてはかなり理不尽な事態だと思 というか、

「おイ!聞いてるの!?」

ಕ್ಕ 合っているんだろう。 俺の前には鬼のような形相で睨んでくるアリアが仁王立ちしてい 例のごとく俺は床に正座しているわけだが、 なんでこんな目に

家を買ったことを伝えた後には平穏なんてどこぞへといなくなって ていたんだ。 しまった。 ンに襲われたことを思い返して平和って素晴らしいななんて思っ プリルと二人で家帰った後は適当にのんびりとしていた。 夕方になって仕事も終わり、家に帰ってきたアリアに ワイバ

されてしまった。 火に油を注いでしまったようだ。 さすがに事後承諾だったことは悪かったと謝ったのだが、なぜか そんなことは問題じゃないと一喝

そもそも、 二人で迷宮に行ったのにレナに分け前も与えない わけ

よ?武器とかはいらないって言ってたからまとめて売ったわけだし や 当然レナにも箱の中にあった宝石とか金塊とか渡した

だし、 宝石、金塊なんかの一部とし、レナには宝石の一部と金貨や金塊の うがないのでおおよその量で3等分して俺とスクルドの分を武器や 大部分を渡した。 してレナは三分割するという意見を断固として譲らなかった。 められた俺とスクルドの取り分だったのだ。 そうなのだ、 必要なものは俺が買うから二人で分けたらいいと言う俺に対 俺が売っ た武器や宝石はレナと話し合ったうえで決 スクルドは俺のペット

を主としてお互いに妥協できる程度に分けることができていたのだ。 全部合わせれば2億近い額になって いた今回の冒険はレナの意見

そんなことはどうでもいいのよ!」

えぇ~なにそれ....

でしょ あんたはほんとに私のことなんて都合のいい女だって思ってるん !私だって怒るときは怒るのよ!」

てましたよね?そりゃ、今回ほどじゃないけどさ。 それに都合のいい女だなんて思ったことは一度もない。 せ レナを連れてきたときもプリルを連れてきたときも激怒し

な人だ!」 そんな風に思うわけないだろ、 アリアは俺にとって恩人だし大切

「つ!?」

てるし逆鱗に触れちゃっ あれ ?なん か知らんけどアリアが怯んだ。 たかな. 心なしか顔も赤くなっ

俺は落雷に備えて身をこわばらせた。 が、 11 つまでたっても雷が

硬直しているようだ。 落ちることはない。 恐る恐るアリアの顔を覗き込んでみるが完全に

「あの.....アリアさん?」

「アリア、さ・ん?」

じくらい、アリアに感謝してる」 こととか、俺がスクルドやレナ、 させてもらうことになったのに、 したけど住むことは認めてくれたし..... 申し訳ないって思うのと同 いや、 アリア.....本当に申し訳ないと思ってるんだよ?突然居候 本当の家族みたいに接してくれる プリルを連れてきたときも怒りは

ったとか意味わかんないわよ!......ほんと......意味わかんない......」 「だったらなんで突然出て行くっていうのよ!それも、 もう家は 買

うしたかはわからないけど、 アリアを泣かせすぎだと自分のことを殴ってやりたいぐらいだ。 んな感じだろう。 俺は立ち上がるとそっとアリアを抱きしめた。 ぼろぼろと涙をこぼすアリアを見て俺は心が痛んだ。 大宇宙の意思に突き動かされたとかそ 自分でもなんでそ 最近本当に

大金も掴めた。 て思ったんだ......アリアの負担にはなりたくないし、冒険者として アリア.....ごめん 一言ぐらい相談しなさいよ.....馬鹿.....」 だからこの家を出ようって思ったんだ」 俺のせいでアリアの生活が乱されてるっ

動かす。 震わせる弱弱 わせる弱弱しい姿はこの女性を守らなくちゃアリアは力ない拳で俺の胸をたたいた。 嗚咽 嗚咽を漏らしながら肩を いけないと俺を突き

.....ばか」

家を出ることを認めてくれた。 そう思える言葉だった。 最後の馬鹿という言葉はどこか優しい響きだった。 納得しているかどうかは別にしても 直感的にこの

「ただいま帰りましたクレイ様!」

「 あ

凍りつく。 けた状態でレナが固まっているようにこの部屋の中の時間も完全に タイミング悪く扉を開き家に入ってきたのはレナだった。 扉を開

......なにをやっているんですか二人とも?」

も出来やしない。 レナ。俺は苦笑と言うか乾いた笑いというかを浮かべる以外になに 時間が再生を始めるのと同時に冷めた視線を俺たちに向けてくる

場所を考えてください」 「二人がいちゃつくのは勝手ですが子供が見ているんですから時と

. は?

聞こえてきそうなほど俺たちを凝視しているプリル スクルド、隣で見てるならプリルの気を逸らすとかやってくれよ。 とりあえず俺はアリアを放すと改めて向き直って話をする。 レナの言葉に驚きながら後ろを振り返るとジー の姿が.....おい という擬音が

ドにもできる限り顔を見せるから」 別に会えなくなるわけじゃないんだから、 安心してくれよ。 ギル

てくれるだけ まるで恋人みたいだななんて思ったりするが、 変な妄想してたらまた怒られるな。 のアリアさんが俺なんかと付き合ってくれるはずがな 俺のことを心配し

ていただけないと私にも準備があるんですから」 「会えなくなるってどうしたんですか?旅にでも出るなら先に言っ

かってたけど。 スクルドがいる以上ついてくることは決定なんですね。 まぁ、 わ

てね いだろ?昨日の迷宮でかなり金も稼げたからこの家を出ようと思っ いせ、 レナだけじゃなくてプリルも一緒に暮らすにはこの家は狭

ドもいるから、どうせレナは一緒にくるだろ?」 いせ、 そうですか。 街のはずれにいい物件があったからそこを買った。 それはこの街じゃないんですか?外国とか?」 スクル

それは当然ですけど.....それのどこが問題なんですか?」

はない。 を出るっ LI て言ったらアリアは喜ぶ理由はあるにしろ怒るような理由それは俺もどこが問題なのかわからなかっ

きのアリアさんからすると心配なんだとか無理やり思い込むように すようになった俺が自分の目の届かないところで暮らすのは世話焼 していたけど。 やっぱり、この世界に来て、というかこの街で冒険者として暮ら

緒に暮らせばいいじゃないですか」 この家は借家なんじゃないですか?だったら契約を打ち切って一

お ſΪ そんな付き合ってるわけでもない男女が一つ屋根の下

す理由(まぁ、 んだって言われたらちょっと悩むところだけど、二人には俺と暮ら で暮らすなんて倫理的に問題ありすぎだろ。 いけど、アリアは違う。 レナの理由に関しては思うところある)があるから レナやプリルはどうな

なるほど」

え、 アリア今なんて言った?

越せばよかったんじゃない。 「そっ か 簡単なことだったじゃない。 ほんと、 怒って損したわ」 私もあんたたちと一緒に引

るんだ? 俺は怒られて損したよ。 というか、 アリアはなんで俺につい

あの、 アリアはそれでい いのか?」

なによ、 私はついてくるなとでもいうの?」

いや、そうは言わないけど......一つ屋根の下で暮らすってのはい

ろいろ問題あるだろ?」

て私はダメなの?」 今までだって一つ屋根の下よ?それにレナとプリルちゃ んはよく

る気だ?」 「二人には理由があるからいい 一つ屋根の下で男と暮らしてるなんて恋人ができたときとかどうす んだよ。だけどアリアは違うだろ?

現状恋人がいないってのが逆鱗に触れたのか? なんでそこで黙る。 というか、 笑顔が怖すぎる。 あれか、

大丈夫、 アリアは美人だからすぐに恋人もできるさ。

らないの?」 なんで私が怒ってたのか、 なんで私が泣いたのかって理由がわか

ろで暮らすのが心配だったんだろ?なんだかんだでアリアは優しい から.....」 「そりゃ、この世界に来たばかりで頼りない俺が目の届かないとこ

「こ・の・鈍感男!」

スベアーの爪よりもはるかに強烈な痛みが俺の腹部を襲う。 アリアは笑顔のまま俺の腹に拳をめり込ませた。 前に喰らっ

絶対アリアの方がアースベアーより強いって..... あまりの痛みに意識は遠のき徐々に視界は暗くなっていく。

2 3 話 俺のせいで彼女は泣いていたみたいです (後書き)

若干、無理やり説明した感はありますがご勘弁ください。 盤で説明された通りにレナへ了解とってあったのです。 感想などで武器を売ったことにいろいろ意見などありましたが、

24話 魔法は難しいみたいです

1匹で新居(中古だが)に引越してきた。 アリアの一撃で昏倒させられた翌日、 結局アリアも含めて4人と

緒に町中を練り歩いたんだから今更じゃないかと思ったけどやっぱ 迷宮から帰った日にはワイバーンの翼にくるんだ大荷物を軽々と引 りだめらしい。 ナの意見で業者にお願いすることにした。 のだが、街中で鬼人の力を見せるのはあまり好ましくないというレ いている様を町中に見せびらかし、 アリアの家にあった荷物は当初プリルが持っていくと言って 昨日はフードもかぶらず俺と一 レナはああ言っていたが、

へぇ~結構いい家じゃない」

ら言うだろうし問題ないだろう。 こう言った。レナは案の定何も言っていなかったが、文句があった 昨日の態度はどこへやらと言った様子のアリアは新居を前にし て

たみたいだ。 プリルは元気よく庭を走り回っているし、 新居はなかなか好評だ

る。 階にあるリビングに備え付けられていたソファでゆっくりとしてい リアはさっそく家に入り間取りなんかを確認したし、 レナはー

かった。 んなでのんびりと過ごした。 アリア以外は私物もほとんどなかっ この日は 1日足りない家具や調理器具なんかを買い揃えみ たので、 片づけもほとんどな

は違う。 るらしいんだけど..... えるのはかなりすごいんじゃないのか?まぁ、 込められた石を変えなきゃ いけないらしいんだけど数十年単位で使 けれどトイレは共用で昔懐かしのポットントイレだったが、 るらしい。 アリアに聞 水の魔法の力を使った水洗式だ。 元いたアリアの家というかアパートは男女分かれていた ίÌ て驚 いたんだけど、 この世界にも水洗式 数十年に一回魔法の力が 値段もそれなりには の便所は こ の家

やっぱり家には風呂がないといけないよな。 風呂に入ることはできたんだが、この家には温泉が湧いているとか。 しかも、 風呂付。街では大衆浴場というか銭湯みたいなところで

ぐらい必要らしい。それが5分の1程度の値段で買えるとは幸運ス キルのおかげなんじゃないだろうか?幸運スゲー。 にこの家を建てて同程度の家具をそろえようとすると金塊が15個 備え付けられていた家具もけっこうな値がするものらし

たけど、 とになった。 ことにした。 に部屋が2つあったがとりあえず一階は共用スペー スのために使う 一階にはキッチンとリビング、風呂(露天が2つ)、 まぁ 二階には部屋が6つあり、 4人と1匹で住むのに8LDKは広すぎるだろと思っ んじゃない? 各自の部屋は二階を使うこ 1 イレ2つ

今日もお仕事はお休み。 さて、 本日もまたのんびりデイ。 新居に越してきて2日目だけど、

程度までがそろっていた。 つけた本は魔法に関するものが非常に多く、 なにかあった時のために魔法の勉強をすることに 初心者用から中級者用 L た。 迷宮で見

けど、 く精霊術と言う別ものなので俺の周囲に魔法を教えてくれる人は できることなら誰か魔法を使える人に教えてもらい 三井さんは忙しいだろうしレナが使っ ているのは魔法ではな た いとこ ろだ

ない。

な 本で勉強するだけでも初級魔法くらいならなんとかなるかもし 学校でやっていた勉強は嫌いだったけど、 勉強は大切だ。

付加し簡易的に発動させる魔法は前者に当たるそうだ。 体内の魔力を用いる魔法の2種類に大別される。 武器や防具などに れは本来の意味での外的力場による魔法の発動とは違うらしい。 魔法について要約すれば、 魔法は外的な力場による魔法の発動と だけど、

場の中にいれば、 れ空気中の魔力を体内に吸収するからだという。 魔力が充満する力 中に漂っており、 も外的魔法を発動することのほうが簡単というか、楽らしい。 魔力が充満する力場があるらしい。 外的な力場による魔法の発動は、 魔力の回復は格段に早くなるそうだが、それよ 休憩することで魔力が回復するのは無意識的であ どこにいても微弱な魔力は空気 外的魔法と略すがこの世界には

放てば自分の体内にある魔力を消費せずに魔法を連射できるそうだ。 ある意味無限に魔法を使えるなんてチートっぽい。 力場に充満する魔力を収束し、自分の魔力を用いるように魔法を

るだろ. は中規模の国の宮廷魔法使いに相当する熟練度が必要って難しすぎ ので、上級者以上じゃないと難しいと注意書きがあった。 しかし、 周囲の魔力を収束するのはある程度の熟練を必要とする 具体的に

程度上昇するそうだが、 俺みたいな異世界から召喚された勇者は熟達するにしたがっ が備わっていて総量はよほどのことがない限り変わらない。 にイメージされる魔法と同じみたいだ。 なもんなんだろうと俺は思った。 自分の体内にある魔力を消費する方法だ。 RPGのレベルアップによるM 人間には生まれ持っ これは、 P增加 て魔力 て ある 般的

魔法も使いやすいそうだ。 人によって、 得意な系統があり得意な系統ほど威力が上が うん、 完全にテンプレだな。

が風の魔法を当てれば威力が上がるとかそんな感じみたいだ。 たとえば、 る威力の増減はない。 として雷はどの属性とも相対的な関係に当たらず、 位に立ち、 基本的な系統は、 水は火に、 ファイヤーボールに水の魔法をかければ、 火 結構レアな属性らしい。 風は土に、 水 風 土は水に対して優位なんだとか。 共 雷の5つで火は風に対して優 かけ合わせによ 消えてしまう 例外

歩の初歩に当たる魔法すら使えないとか。 これは先天的に才能を持っていないとどれだけの練習を重ねても初 さらに特殊な例に光と闇(うん、これもテンプレだな)がある。

どちらかというと後者の体内の魔力を用いる魔法に当たる。 ことしかできない。 ただのナイフにしかならないらしい。 イフは使用者の魔力を増幅し、 ちな みに俺が最初に使ってた風のナイフは属性付加ではない つまり、 魔力を持たない人間が振ったところで 風属性の攻撃であった場合強化する あのナ の で

基本的な知識としてはこんなもんだろう。

必要らしい。 をより強固にすることで威力の増加と発動の成功率を上げるために に魔法を使う上で重要なのはイメージすることだ。 俺はさっそく初歩の魔法を試してみることにした。 詠唱はイメージ テンプレ通り

我が敵を切り裂け、ウィンドカッター!』

題もない なり いだろう。 の広さを誇るうちの庭だし、 そう思っていた俺が甘かった。 初歩の魔法くらいなら何の問

も風 るはず 詠唱することで威力が上がっ のナ イフで発動させていたかまいたちな な のに容易に視認できるほどの空気の密度だった。 た風の刃は不可視であるはずの風 んかとは比べ物になら 大きさ で

ない。 にある柵をぶち壊した。 ベアー の体躯よりもさらに巨大な風の塊になって庭のはずれ

^?

なにこの威力 上先に生えていた木をブチ倒しどこぞへと消える。 完全に予想外の威力のウィンドカッター ははるか遠く、 ちょ、 おま..... キロ以

な数字だけど、三井さんなんかに比べたら大した数字じゃない。 のにこの威力... 一番最近確認した俺の魔術レベルは57だ。 初心者にし ては異常

つかやばい、 買ったばっかの家なのに柵こわしちった

前に直しておけば大丈夫だろ。 レナについていったので家には俺とスクルドしかいない。 幸い今日も レナはいないしアリアは仕事に行っている。 怒られる プリルは

法は詠唱破棄、 とりあえず詠唱した魔法は威力がやばい可能性が高い つまり詠唱せずにイメージの弱い状態で試すことに ので初級魔

そうだな.....『アイシクルアロー』」

何も出ない....

たいだ。 してみるとしよう。 レナが使っていた精霊術はどうやら根本から魔法とは別のものみ 氷の矢どころか氷のつぶすら出現しない。 今度レナに確認

『ライトニングスロウ』

これは雷系の初級魔法だ。 正面も は目標に向かって飛んでい 本によれば雷の帯が1メー くという魔法のはず。

そして俺の手から離れる様子がない。 でさっきウィンドカッターがなぎ倒した木のあたりまで伸びてい まず長い。 しかし、 俺の手元からどこまでも伸びていく雷の帯は見える限 これ も俺の想像とは見当違 つまり、 いの威力と言うか外見だっ 飛んでいない。

在する。 うな魔法らしいので今の俺の状況とはいろいろと違う。 投擲するように腕を振るっても手から離れない。完全にランスだ... ちなみにライトニングランスは初級魔法の高難度の魔法として存 なんとか飛ばそうとして雷の帯が伸びている前後に手を振った これじゃあライトニングスロウじゃなくてランスみたいだ。 それも2メートルほどの円錐が体の正面に浮かび上がるよ IJ

なんか想像したのと違う.....」

たわけだが全然それと一致していない。 俺の イメー ジでは本に書かれてい た通りのものをイメージし 何が問題なんだろう。

`とりあえず次だな.....」

要検証だな。 そうとして飛ばないのに、 消えるようにイメージすると即座に消滅する雷の帯。 消そうとしたら消えるんだ?まぁ なんで飛

゚ファイヤーボール』

の大きさだと 上空はるか高 の火の玉が正面に飛んでいく程度のものだったはずの炎の塊は これ を出したのは完全に失敗だった。 い位置に出現した。 街からも見えるんじゃない 俺の中のイメージでは拳大 の 俺の

も はやあれは火じゃなくて炎としか言えない。 おそらくだが大きさは直径2メー トル近くある。 たぶんワイバー 燃え盛る炎の塊

吐いていた火球よりデカい。

ーっけ!」

で落下していく炎の塊は流星のごとく 緩やかと言うには速く、 目にもとまらぬというには遅すぎる速度

地面に落ちる。

の草木を燃やし炎がどんどんと大きくなる。 街道近くの草原に落下した炎の塊は爆発こそしないまでもあたり

· ちょ!?やばいって」

っているので、初級魔法で消せるかどうかは微妙だ。 炎を消すには水をかければいい。 だけど、 かなり広範囲が燃え盛

た魔法に関する本をめくって水の魔法が書かれたページを開いた。 しかし、やらないわけにもいかない。俺は慌てて教科書にし

て津波みたいな魔法を発動させれば炎も消せるはず.. 初級魔法でも桁違いの威力を見せる俺の魔法だ。 たぶん、

ことができない。 という悪循環。 しかし、 焦ってしまった俺はなかなかそれらしい魔法を見つける 時間がたつにつれて広がっていく炎に焦りが増す

だぁぁ、くそ!なるようになれだ!」

上げる。 いれば魔法はどんな形でも発動できるはずだ。 魔法で必要なことはイメージ、 この原理から言えば、 イメージさえできれば系統に沿って 詠唱はイメージを強固にし威力を

水よ、 我が敵を洗い流せ、 タイダルウェイブ

今回はイメージした通りの規模だったらしく、 ころで津波は消えてあたりには水だけが残されている。 いない草原に突如として水が湧き上がり、津波となって炎を包む。 俺のイメージは無事に魔法として発動したらしい。草しか生えて イメージするのは津波、炎をすべて押し流す津波だ。 炎をすべて包んだと

あぁ.....よかった.....」

地面に倒れたと気づいた時にはもう遅かった。 急に力が抜けてがくりと膝が落ちる。 眠り 体中のどこ

にも力が入らない。

た。 徐々に暗くなる世界の中で俺はわずかに残された意識でこう考え

柵直しておかないとアリアに怒られる.

25話 そろそろ魔法が使えるみたいです

なっている。 力尽きたようにもたれかかってるし、 いったいぜんたいどういうことだろう。 目が覚めると俺は自分のベッドの上で横になっていた。 俺はいつの間に寝たんだ? スクルドも俺の枕もとで丸く ベッドの横ではプリルが

「 あ"!」

思い出した。 魔法がどんなもんか試していたらいろいろあっ たん

時間がわかんないからアリアがいるかはわからないけど、 いるってことはレナは帰ってきてるだろう。 ここに寝てるってことはアリアかレナが見つけたってところか? プリルが

あ!やっと、起きたのね」

が帰ってきてるってことは柵のことは間違いなくばれてる。 扉を開けて部屋に入ってきたのはアリアだった。 やばい、 アリア

帰っ てきたら家の前で倒れてるんだもの。 驚いたわよまったく..

:

柵がブチ壊れてたこともびっくりだったんじゃないでしょうか?

襲ってきたの?」 「まぁ、 なかったけど。 レナが命に別状はないって言ってたからそんなに心配はし なんであんなことになってたわけ?モンスター でも

れるアリアには申し訳ないが、正直黙っていたい。 違うんです、 魔法の練習してただけなんです。 心配そうにしてく

..... ごめんなさい、 魔法の練習で柵を壊しちゃいました」

へぇ~魔法の練習だったんだ」

あの、 それだけですか?

しろっていうわけだわ」 魔力使い果たして気絶したわけだったのね。 どおりでレナが安心

..... あの、 怒らないの?」

なんで?」

なんでってあの...

「だって.....策を壊したし.....

がどうしようがあんたの勝手でしょ?さすがに私の部屋のものを壊 したとか言われたらそりゃあ怒るけど」 「ここはあんたの買った家でしょ?あんたのものじゃない。

... 完全に予想外だ!

柵を壊 したなんて言ったらレナやプリルを連れてきたとき並みに

怒られると思ってたのに。

確かに俺の家だっていえば俺の家だけど、 みんなで暮らしてるん

だからとか理由はあると思うのに.....

たこんなことにならないようにしっかり魔法について勉強しなさい」 倒れたあんたを心配したプリルには謝っておきなさいよ。

そう言ってアリアは部屋を出て行った。

別れに思うところはあるけども、 雷が落ちると思っていただけに拍子抜けするほどあっさりとし まぁ気にしてもしょうがない。 た

ら俺は再び眠りについた。 に夜の帳が落ちている。 アリアに怒られないなら心配は何もないだろ。 明日も魔法の練習をしよう。 外を見ればとっ そう思いなが

日はプリルも縁側みたいなところに座ってこっちを見ている。 ら今日も魔法の練習のために庭に出た。 翌日、 アリアも言っていた通り心配したというプリルに謝ってか 昨日のことが心配なのか今

いように気を付けないとまずいな。 いろいろと俺の魔法は危ないみたいだからプリルに危険がいかな

そもそも、俺はどの系統が得意なんだろうか?

が付きづらい。闇と光の魔法なんかは試してないし、こっちも試さ んことには何とも言えないか。 どの系統の魔法を使っても威力が桁違いだったからどうにも判断

試してみることにした。 今日重点的に試す魔法も決まったことだし、 さっそく初級魔法を

教科書 (魔術の本)で所定のページを開く。

..... 試せそうな魔法がないだと.....」

や敵の体力を奪い自分のものにするドレインといったもの 初級に当たる魔法は、 ヴァ ンヘルトもあることだし闇の魔法から試そうとしたんだけど、 敵の視界を奪い闇の中に覆い隠すダークネス しかなか

んて論外だ。 試す相手が居れば大丈夫だろうけど、 誰もい ない。 ij

仕方がないから光系の魔法にしよう。

゙お、これなんかいいな『ライト』

非常に便利な魔法みたいだ。 周囲を照らす魔法で、 この間の迷宮みたいな暗い洞窟なんかでは が、 問題がある。

真昼間に試したって明るくなったかどうかわからん」

明るい状況で試したところで明るくなっているかなんてまったくわ からない。 何かを光らせるのではなく周囲を明るくする魔法なのだ。 周囲が

くそ、次だ」

たりしないと試しようがない。 癒すヒー ルや状態以上を回復するエイドなんかは傷ついた人間が居 闇の魔法と同じで、 今の状況で試せる魔法が見当たらない。

神は俺に闇と光の魔法を試させないようにしているようだ。

「しょうがない」

と調整できるようにしよう。 仕方がない ので、 昨日試した魔法の威力を自分の意志でしっ かり

さを調整できないなんて実用性に欠ける。 最後に使った津波の魔法みたいに自分の意志で威力や魔法の大き

ウィンドカッター』

手始めに使っ たのは柵をぶち壊した風魔法。 本日は詠唱を破棄し

きるほど圧縮された空気の塊だ。 たおかげで大きさはだいぶ抑えられているがやっぱ 可視の風ではなく、 いたものよりはるかにでかい。しかも、 わずかにではあるが空間が揺らめくのが視認で かまいたちの時のように不 り俺 の想像して

ジしたのにプリルの身長ぐらいの大きさがある。 風のナイフを使っていたときみたいな小さなかまい もっと小さく小さ たちをイメー

一度魔法をキャンセルしてイメージをし直す。

゚ウィンドカッター』

全然大きさが変わっていない。

『ウィンドカッター』

『ウィンドカッター』

『ウィンドカッター』

『ウィンドカッター』

『ウィンドカッター』

きさが変わらない。 のか? 下手な鉄砲数うちゃ当たるってな具合に連発してみるが一向に大 あれか?俺の魔法は俺のイメージが気に入らな

ったく、どうしろってんだよ.....」

ることも出来なくはないだろうけど、 小さくするイメージが弱いのか?詠唱で小さくなるように詠唱す の詠唱なんて「そよ風よ、 けこんな詠唱で発動する魔法は使いたくない。 敵をなでよ」とかそんなもんだ。 俺の考える弱いウィンドカッ 忑

何の気もなく手を振って自分の頭に沸いたイメー ジを払しょくす

る。と、風の流れがおかしい。

?

っとの弱い風が起きるならまだわかるが、 な風の流れを感じた。 手を振ったのだから仰いだようにほんのちょ ような風の流れが俺の頬を撫でたんだ。 特に風も吹いていなかったはずなのに俺の手を振った先から奇妙 かまいたちが通り過ぎた

でるようなそよそよとしたものだ。 手を振ってみるが巻き起こる風は普段暑いときなんかに手で扇 さっきの奇妙な流れとは全然違

......もしかして」

前に出現する。 言わなかった。 俺は頭の中でイメー ジをしながらも詠唱どころか魔法の名前すら が、 俺がイメージした通り拳大の火の玉が俺の目の

· おぉ!」

よかったのか。 威力が上がっていたみたいだ。 かまいたちと口に出したことは一度もない。 ようやく魔法を使う糸口がつかめたぞ。 どうやら、 魔法の名前を呼ぶだけでイメー そう言えばかまいたちを使っ 詠唱破棄じゃ なくて無詠唱でやれば ジはより強固になり、 てた時も詠唱どころか

·..... あれ?」

やばい、 がっくりと体から力が抜ける。 魔力が切れたみたいだ..... この状況は昨日と同じだ。

その後、プリルに大泣きされ帰ってきたアリアには思いっきり怒

魔法の使用は計画的にやるようにしよう。られた。

2 5 話 そろそろ魔法が使えるみたいです (後書き)

いただきました。 今回の話に際して以前の武器屋での会話が不自然なので訂正させて

す。 我が敵を切り裂け』の部分を破棄して魔法名だけを言うスタイルで 詠唱破棄は『風よ我が敵を切り裂け、 ウィンドカッター の。

無詠唱はそんな詠唱自体を行わず、無言のまま魔法を用いる方法で

すので、ご了承ください。 魔法の才能がないのになんで?って感じの会話は26話以降で出ま

勇者はじめました」もよろしくお願いします。 ついでですが、別作品を書き始めました。 更新頻度はこちらよりも劣ることになりますがよろしければ「 一応メインはこちらなの

26話 鬼人ってのはいろいろ大変みたいです

ぶさかじゃないからいいんだけどさ。 命令してきたからだ。 退屈そうにしていたプリルを見てアリアが遊んであげなさい!と 今日も今日とて魔法の練習....ではなく、 いせ、 俺としてもプリルと遊んでやるのはや 今日は街に来てい

悪くはないかな。 元気よくあたりを駆け回るプリルに振り回されながら過ごす日も

お兄ちゃん!次はこっち!」

ら後に続く。 俺の手を引いて新たな店を目指すプリルをほほえましく思いなが

んだなと心のどこかで思う。 家族を失った悲しさを感じさせないその笑顔を見てプリルは強い

「プリル。そんなに焦ったら転んじゃうぞ」

「大丈夫!」

す。 ころは毎日こんな感じであいつに付き合わされていたことを思い 子供の元気の良さと無邪気さには閉口するほかない。 大人しそうに見えたってプリルも女の子で子供なんだ。 地球にいた

なんだプリル、それが欲しいのか?」

「.....うん」

がなされた髪留めを見つめていた。 いだろう。 プリルは穴が開きそうなほど露店で売られている小さな花の細工 値段は、 銅貨4枚か..... まぁい

プリルには昨日、 これぐらいならお詫びに買ってやっても問題ないだろう。 何でも買ってもらえると思うように育つのはよくないことだが、 一昨日と倒れたことでたくさん心配させている。

「おばちゃん、これちょうだい」

ゃ んに手渡した。 俺は財布があり の巾着袋から銅貨を4枚取り出すと露店のおばち

いいの!?」

の頭をなでてやる。 ぱぁっと花が咲くように微笑むプリル。 俺は微笑みながらプリル

特別だからな」 「昨日も一昨日も心配させちゃったからな。 そのお詫び。 今日だけ

「ありがとう!」

ルはさっそく今使っている髪留めを外して新しい髪留めをつける。 おばちゃんから受け取った髪留めをプリルに手渡してやるとプリ

「あぁ。プリルはかわいいよ」「どう?かわいい?」

「キュイ!」

うか、 いて走り出す。 俺の考えには同性のスクルドも同じ意見なのだろう。 一人と一匹)に褒めてもらえてご満悦のプリルは俺の手を引

· つぎはあっち!」

「おいおい、プリルもっとゆっくり歩こうよ」

て元気なプリルを見ているのは膝の上で眠っているスクルドを見て いるのと同じくらい幸せだ。 プリルに手を引かれ苦笑しながらもまんざらじゃ ない。 こうやっ

.....

ているらしい二人組の存在だった。 プリルに手を引かれながらも気になるのは俺たちの後をつけてき

な部分が最近めちゃめちゃ鋭くなっている。 筋力なんかが変わって いないのは気になるところだけど、今は関係ない。 肉体強化のスキルのおかげなのか瞬発力や気配察知などの感覚的

どうにも怪しいという印象しか与えてくれない。 こそこそと俺とプリルが移動するたびに後をつけてくる二人組は

「キュイ」

意を促すように一鳴きした。わかってるよ、大丈夫だ。 スクルドも二人組の存在に気付いているのだろう。 まるで俺に注

だけど場数は多少踏んできた。 なっていないし動きも素人くさい。 たぶんだけど、 あいつらは大した使い手じゃない。 尾行の仕方も 俺だって素人に毛が生えた程度

う。 俺は先を行くプリルの手を引いて人通りの 少ない路地裏へと向か

..... お兄ちゃん..... ここで何する気?」

プリルに予想外の勘違いをされた。 ルに手を出すつもりなんてないし.... ずな 違いますよ。 というかプリル子供の

くせになんでそんな思考が働くんだ!?

けがしないうちに言うこと聞いた方がいいぜ」 おいお前、 その鬼人のガキをこっちに渡しな」

放っている。 した。二人とも手にナイフを握り、 案の定と言うか、 路地に入ってすぐ二人組は俺たちの前に姿を現 薄暗い路地裏の中で異質な光を

い だ。 うといろいろやばいかもしれないし、 確信に変わる。 ェイズとクロウを抜いた。さすがにこんな街中でヴァンヘルトを使 プリルがおびえた様子を見せるが軽く頭をなでてやり俺は双 構えも何もなっていないナイフの持ち方からして俺の予想は 相手は二人とはいえ素人みた 剣ウ

いいんじゃないのか?」 どういうつもりだ?お前らこそ怪我しないうちに逃げ出した方が

「つ!」 -

には剣が差されてるってのに本当に抵抗しないと思っていたのか? まさか俺が抵抗の意思を示すとは思っていなかったみたいだ。

るのはどっちなのかね?」 言っとくけど俺はワイバーンだって倒したことがあるぜ?けがす

「ふ、吹いてんじゃねえよガキが!」

ばそれこそハエが止まりそうだ。 男の動きはどうにも遅く見える。 ナイフを持った相手と戦うのは三井さん以外では初めてのことだが、 ナイフを振 りかぶって一人が俺に向かって駆け出してくる。 ワイバー ンの突撃の速さに比べれ

ナイフを払う。 れていた。 土と火の属性を持つ短剣、 安物だったのか男のナイフは根元からぽっきりと折 ウェ イズの方で切りかかってきた男の

「つな!?」

つ たナイフを見た。 男はまず飛ばされたナイフの刃を見てから自分の持つ柄だけにな

けど、 俺としてもナイフの刃を折るだなんて思っても見ないことだった 十分な脅しにはなるだろう。

どうするんだ?逃げるっていうなら追いかけはしないけど」

「お、おい..... どうするんだよ」

、くそ、覚えてやがれ!」

戻す。 て台詞を残して逃げて行った。 二人組はありきたりなと言うには実際に聞くことは滅多にない捨 ため息を一つついてから双剣を鞘に

お兄ちゃんすごぉ~い!」

はもう一度プリルの頭をなでてやるとプリルの手を取った。 簡単に事態を収めた俺をプリルが尊敬のまなざしで見てくる。 俺

さ、行こうか?」

「キュイ!」

うとしたんだろう。 たぶんさっきのやつらはプリルを鬼人と知って金目当てでさらお レナが以前言っていたように亜人は奴隷として

高値で取引されるらしいから目的はそれなんだと思う。

もなく大金が手に入るとでも思ったのか? 力に優れた鬼人とはいえプリルは子供で女の子だ。 そんなに危険

無邪気に俺の手を引くプリルを見ながら俺は考える。

からあんな連中からすればいいかもと思われるだろう。 りでもしない限り、ただの17の男が一人で鬼人を連れているのだ れない。 あまりプリルを表で連れまわすと今回みたいなことが増えるか 俺が冒険者として成功し、 凄腕なんて言われるようにな も

ばない。 20人とかの集団だったら?三井さんクラスの実力者が率いるグル プだったら?最悪の事態を想像するとどうしてもいい考えが浮か 今回は素人みたいな二人組だったからよかったけど、 もっと多い

不意にぐっ ~という気の抜けた音が俺の耳に届いた。

「ははは、じゃあどっかで飯でも食べよう」「.....お兄ちゃん、お腹すいた」

をかけたってしょうがないしな。 リルを前 にしてそんなことを考えるのはよそう。 要らない心配

想像がつかない。 の時と合わせて二回目だから相変わらず料理名からどんな料理かの 近くの料理屋に入って適当に料理を頼む。 まぁ、 冒険してみてもいいだろ。 外食するのは三井さん

リルも満足したのか口元を汚して微笑んでいる。 頼んだ料理は正解だったようで、 どれもうまいも のばかりだっ た。

こっ ち向け」 61 おいプ IJ ؠڵڕ 口の周りが汚れてるぞ。 ほら、 拭いてやるから

ار الم

リルの口元をぬぐってやるとプリルは席を立った。 言うとおりに顔を向け拭きやすいようにちょっ と顔を寄せてくる

「もう出るのか?」

お兄ちゃん。 レディーに恥ずかしいこと聞かないでよ」

あぁ なんでプリルはこんなませたことばっかり言うんだ?たぶんアリ トイレか。 いや.....というかレディー ってお前

のキャラクターにあってないと思うんだ。

アあたりが要らない知識を与えてるんだろうけど、ちょっとプリル

っ た。 が戻ってくるのを待つ。が、 の育成方針について母親と討論する父親みたいだと苦笑し、プリル このことは家に帰ってから話し合うことにしよう。 なんだか子供 いつまでたってもプリルは出てこなか

プリルのことだからいったん戻ってきて俺に相談するだろうし. 大きい方にしても長すぎるよな。 トイレを汚したりして四苦八苦してるのか?だったら、 頭のいい

すいません、 このくらいの女の子見ませんでしたか?」

ぎがする。 た女性にも嫌な顔をされたがそんなことは関係ない。 の前で男がずっと立っているのだから奇妙な目で見られたし、 ちょうど女子トイレから出てきた女性に俺は尋ねた。 どうにも胸騒 女子トイレ 訪ね

「いえ、私以外は誰もいませんでしたよ?」

<u>.</u>

女性の答えを聞くや否や俺は女子トイレの扉を乱暴に開いた。 3

ない。 つあっ た個室はすべての扉が開かれており、 プリルの姿はどこにも

供には届かないだろうが、 易にくぐれそうな穴があけられている。普通に考えれば高すぎて子 それを穴の向こう側で誰かが受け止めたとしたら? 換気のためにあるのか一番奥の個室の前には子供一人であれば容 もしも誰か大人が持ち上げたら?もしも

「プリル!」

てやった髪留めが落ちているのだった。 女子トイレのあるあたりの穴の下、そこには今日俺がプリルに買 俺は勘定もせずに店を飛び出し、 店の裏側にたどり着く。

「ぷ、ぷりる.....」

どこに行ってしまったのか。 誰に連れ去られたのか何もわからな

く誰かに相談しなくてはと思い冒険者ギルドへと駆け出した。 絶対にプリルを助け出す。 俺は髪留めを拾い上げるとどうすればいいのかわからず、 奴隷なんかには絶対させない。

俺はプリルの髪留めを強く握りしめながらとにかく走り続けた。

筋力についてはほとんど強化されません。 久力 (HP)の強化。 体力強化 のスキルについてですが、 殺気などを感じ取る感覚の強化がなされます。 基本的に瞬発力 (A GI)と持

かりの時点でガイは一流アスリートなみの瞬発力とマラソンランナ スキルのレベルに応じて強化される度合いが変わり、 並みの持久力を有していました。 召喚されたば

当なものになります。 ど)が育っているので、 えないまでも種子島くらいの弾だったらかなりスローに見えます。 筋力は強化されていませんが、武器の扱いに関するスキル(剣士な 現在は全力疾走でフルマラソンを完走でき、 武器を使った攻撃の威力や熟達の具合は相 ライフルの銃弾とは言

補足です。

らんでいます。 魔術の熟達は各属性の名前が付きます。 魔術のスキルはどちらかと言うと威力上昇、 ・5など) MP増加的な要素をは **例**

さらに補足です。

です。 レナのスキルにある回復魔術の項目に関してはエルフの特殊スキル

というスキルが付きます。 **人族 (ガイ) なんかが回復魔法を覚え、** 魔法を多用すると回復魔法

これは、 規模が上昇するといっ 魔術 や属性魔法のスキルとは別に、 たものです。 回復魔法で癒せる傷の

まとめると、

肉体強化および魔術のスキルはHP ゃ MPの基礎ステー タス上昇(

AT、STR値除く)

属性魔法のスキルはその属性の魔法の熟達に関して

職業スキル(剣士、冒険者など)はスキルに関連する能力、 った際の威力、熟達の上昇 (剣士の場合) など 剣を使

回復魔法のスキルは、回復値上昇って感じです。

以上、長くなりましたがこんな感じです。

4.7話 情報屋に気に入られたみたいです

プリ ルがさらわれた!?あんた何やってんのよ!」

間すら惜しい。 えるだけで自分を殴ってやりたいが、 りたい気持ちはよくわかる、 息を切らせてギルドに駆け込んだ俺をアリアが怒鳴りつける。 俺だってプリルに何かがあったらと考 今はそんな後悔をしている時

詳しい話をするとアリアは難しい顔をして頷く。

レナにも伝える。 あの店ね私も早退してプリルを探すわ。 あんたはとにかく探し回りなさい」 しし つ たん家に戻って

そう言いながら手早くメモ用紙になにかを書留め俺に手渡してく

「これは?」

んかから情報を買って仕入れ情報なんかを顧客に流すの」 私にわかる情報屋の名前とかよ。 奴隷なんかは情報屋が奴隷商な

「なんでそんなこと.....」

も働 冒険者にも奴隷を買ったり売ったりする人間はいるもの。 いてればそれぐらいのことはわかるわ」 0年

屋の名前、 を握りしめると俺は冒険者ギルドを飛び出した。 俺はうなづいてメモ帳に書かれたことに目を通す。 特徴とどこらを縄張りにしているかが書かれているそれ 何人かの情報

見つけられるかもしれない。 まず最初にアリアを頼ってよかった。 この情報があればプ ij を

なんとしても一刻も早くプリルを見つけ出さなくちゃ いけない。

んだ。 こうやって俺が走ってる間も彼女は恐怖に震えているかもしれない

「ちょ、アリアくんどうしたの!?」「マスター!あたし今日早退するから!」

の声が聞こえたが、 背後からはアリアさんの怒鳴り声と焦った様子のギルドマスター 今はそんなことどうでもよかった。

報屋を探していた。 プリルがさらわれた料理屋から最も近い場所を縄張りにしている情 俺はギルドの近くを縄張りとする情報屋を3人ほど会ってから、 173

を縄張りにする中で最も多くの情報を有するという話をしてきた。 は持っておらず、空振りが続いていたのだが、 今までの3人はどいつもこいつも情報屋と言うくせに大した情報 最後の一人がここら

主人に話を聞いてみるが一向に見つかる気配はなかった。 しても情報屋らしい人物は見当たらない。 道行く人や近くの露店の 最後の情報屋の話通りに言われた場所を探してみるが、 どこを探

ういったそれっぽい場所に情報屋はいるかもしれ 路地を通る。 不意に目に入ったのは人通りの少ない怪しげ な細い路地。 ない。 俺は早足で

お兄さん、俺を探してるのかい?」

「 ! ?

突然気配も何もない場所から声が聞こえた。 走るような速さで動

じられない。 かされていた足を止め意識を集中するがどこにも声の主の気配は感

「俺ならここにいるじゃないか.....」「どこだ、どこにいる!?」

バンダナ、小さいメガネ。 のままの男だ。 俺の背後にある建物の陰からそいつは姿を現した。 こいつが情報屋のウィルで間違いない。 アリアに渡されたメモに書かれた情報そ 軽薄そうな顔、

誘拐された」 情報を買いたい。 そんな鬼気迫るような様子で俺を探すなんていったい 今日、 鬼人の少女がどっかの奴隷商かなにかに 何の用だ?」

あぁ、 あの件ね。 どうしたのお兄さん?あの子を買う気かい?」

った態度へ っ ける。 俺はウ 1 の怒りからヴァンヘルトを抜き放ちウィ ルのゆっくりとした動きに焦り、 ウィルの言葉と人を食 ルの喉元につき

ふぅ......お兄さん焦りすぎだよ。 どうでもい ル違反もい ίį いところだ」 知っている情報を教えろ!」 情報屋に武器を向けるなん デ ル

ウィルの表情や声色には恐怖もなにも見られなかった。 後ほん 気配の殺し方と言いかなりの実力者なのかもしれない。 の少 し動かすだけで首を斬られるかもしれないというのに

あ んなことをするならあんたに情報は一切売らない まぁ、 んたに報復させてもらうからそのつもりでね」 情報を買うのは初めて見たいだし今回は見逃すよ。 情報屋として

教えてくれ」 わかっ た。 とにかく急いでるんだ。 頼む、 知っ ている情報を

ア してポケットから財布を取りだしウィルに放った。 ンヘルトを引いた。ヴァンヘルトを鞘に納めながら一度深呼吸を 俺は一介の情報屋と言うにはすさまじいウィルの気迫に押されヴ

情報を売ってくれ」 金貨5枚は入ってる。 それで足りないなら必ず後で払うから先に

用しろって言うのかよ」 おいお い、常連ならいざ知らず、 初めての取引でそんな言葉を信

えないほどの成果は残してるつもりだ」 「どうせ俺の情報も知ってるんだろ?これでも新米の冒険者とは思

倒したこと。数多くの宝を集めかなりの金を得たことはギルド内で は知っているはずだ。 もある程度までは広まっている。 賞金がかけられていたアースベアーの討伐に迷宮でワイバー 情報屋を名乗るなら、それぐらい な

だ。 ぎだよな。 「はっはっ なぁ?獅子王ガイ」 そんなあんたを知らないなんて言ったら情報屋の名折れ は 確かにあんたは新人っていうにはちょ いと活躍しす

取り立てに来ようが好きにすればいい。 わかってるならいいだろ。 冒険者ギルドをはろうが、 金は必ず払う」 俺 の家まで

ただけさ。 「くっくっく.....安心しな。 代金は金貨で1枚で十分だよ」 冗談だよ。 ちょっとあんたをからかっ

を俺に放り返す。 言い ながらウィ ルは俺の財布から金貨を1 枚取り出しすと、 財布

の情報屋だって自負はある。 よけ ればこれからも情報は俺から買いな。 俺はあんたが気に入ったぜ?」 これでもこの街で一番

にいるんだ!?」 そんなことはどうでもいい。 プリルはどこの誰に誘拐されてどこ

日中にどうにかって話にはならないからよ」 まぁ、 焦るなよ。 売りに出されるのは間違い なく明日以降だ。 今

俺は絶対に認めない。 ないといけな い思 1 いをしていること言うことだ。 が何と言おうがそんなことは関係ない。 絶対に、 絶対にだ。 彼女が奴隷になることなんて なんとしても早く救い出さ 重要なのはプリル

も次の言葉を待った。 俺はゆっくりとした動作で煙草に火をつけるウィ ルに焦れながら

お姫様とその両親が迷宮に逃げ込む原因を作ったのもこの男さ」 はなかなかあくどい手法で奴隷を集めてるって男でね。 お前さん のお姫様を誘拐したのはジエンロって奴隷商だ。 お前さんの こい つ

「おま.....そんなことまで知ってるのか?」

スリー がこの街に来る前にいた世界のことぐらいさ。それ以外なら、 ウンドのことも知ってるさ。 さんのところにいるエルフの生い立ちもお前さんの肩に乗ってるリ 情報屋だからな。この街で俺の知らないことと言えば、 サイズでも教えようか?」 なんならバルデンフェルトのお姫様の お前さん お前

なかった。 どうやらこいつは俺が思っ スクルドがリウンドだってことまで知っていうとは思ってもみ ていた以上にすごい男のようだ。 まさ

おい おい、 なるぜ?まぁ ちょっ とは笑ったらどうだ?根を詰めすぎると後から ίį とりあえず話をもどすが、 ジエンロの根

いしるしがつけられている。 そう言って投げてよこされた地図はこの街のもので、 つだけ赤

者がいる。 こう苦戦すると思うぞ?」 問題はジエンロが根城にしている家には10を超える護衛や冒険 どいつもこいつも結構な手練れだから今のお前じゃけっ

ばいいからな」 ん?まぁな。お前は情報を売るだけじゃなくて買いもするんだよな?」 自力で手に入らなかった情報は持ってる相手に聞け

でレナかアリアにそいつを売ってくれ」 じゃあ、 俺がそのジエンロってやつの下に行ったことを買え、 h

しなくちゃい おいぉい。 俺は伝言板じゃないんだぜ?そんな面倒なことなんで けないんだよ」

が無事で住むなら、 ドの姉ちゃ 「はあ〜。 「ここで俺が死ねばお前と取引することも出来なくなるぞ?もし ったく、 んかエルフの姉ちゃんに情報を流すってことでい 俺が情報を必要な時はお前から買ってやるよ」 わがままな男だな。 ま、い いだろ。 買値はギル だろ

たいだ。 も出来るだろうに情報を流す、と言ったのはこいつなりの優しさみ 情報を売る、 アリアたちからも金をとろうと思えばそうすること

案外こいつもいいやつなのかもしれない。

あぁ、そいつで頼む」

すれば何人か殺したって罪にはなんねえからよ」 毎 度。 ちなみに、 怪我するまでは手え出すなよ?正当防衛が成立

けるためにやむを得えないかもしれない。 てジエンロの根城に向かって走った。 地図を見て駆け出す俺の後ろからそんなことをウィルが叫んだ。 できることなら人を殺すってのはやりたくないけど、プリルを助 俺は震える手を固く握っ

プリル、無事でいてくれよ。

いるというすたれた屋敷の前に立っていた。 街の西地区にある色町(遊郭街)を抜けてジエンロが根城にして

近づくような場所ではないそこはなるほど奴隷商が根城にしていそ うな印象がある。 色町のはずれもはずれの方にあり、 よっぽどの理由がないと誰 も

てきて俺の頬をなでる。 錆びた門を押し開き中に入るとどこからともなくぬるい風が流れ どうにも不気味な雰囲気だ。

当然だろう。こんなすたれた屋敷の庭に何人もの人間が巡回でもし 駆け抜ける。 ていたら目立つことこの上ない。 いるわけにはいかない。 俺は意を決すると門から玄関へと続く道を しかし、プリルがここに捕まっている以上こんなところで臆し どうやら、 外に敵の姿は見当たらない。それはまぁ、 7

でかい。 すべて建物の中にいることになる。 と言うことは、 ウィルの言ってい この屋敷、 た10人以上いるという護衛は 俺の家よりはるかに

れば同時に3人とかが攻撃してくるかもしれない。 建物が大きいということはそれなりに通路も広くなる。 下手をす

リッ トだ。 0対1という極めて不利な状況の中でこれはかなり大きなデメ

· ふぅ......よし!

広間へと躍り出る。 俺は扉の前で一度気を落ち着けると乱暴に扉をあけ放ち玄関前

今日お前らが誘拐した鬼人の少女を返してもらいに来た。 く返してもらおうか!?」 おとな

?

「何言ってるんだこいつ?」

片手に盾と片手に剣を持っている。 間には2人の男が控えていた。片方は肩に斧槍を担ぎ、 やはりと言うか、当然のことだが扉を開けてすぐの場所にある広 もう一人は

全に赤っ恥だ。 これで、 入ってすぐの広間に誰もいないとかいう状況だったら完

ことはわかってる。さっさとプリルを返せ!」 お前たち.....というか、 ジエンロと言う男が俺の妹分を誘拐した

.....お前あれか?さらったガキの保護者か?」

で来るなんて舐めてるのか?」 なるほどね、ここを見つけられたってのは大したもんだけど一人

きなりバトルかよ..... 言いながら二人はそれぞれの獲物を構える。 おいおい、 入っ てい

ど......プリルを目前にしてそんな甘いことも言ってられないか 剣をつきつけた時はかなり限界まで焦ってたから無我夢中だっ 俺はまだ人間を傷つける覚悟ってやつができていない。 ウィ たけ ルに

当然、 こいつだって武器持ってるんだから当たり前だろ?」 おとなしく返してもらえるなんて思ってな いよな?」

斧槍を振り下ろす。 向に回避して距離を取ろうとする。 剣士の方が盾を前に突き出しながら突っ込んできた。 が、 回り込んでいた斧槍の男が それを右方

つく!」

つ なんとかぎりぎりでそれも躱すと俺は慌てて双剣を鞘から抜き放

「なかなかやるな」

回り込まれるとは思わなかったよ」 そうだね、まさかとっさに避けたくせに武器を持っていない左に

まぁ、 だからこそ俺が先回りしてたんだけどな」

ないのか? には遠く及ばないが、二人同時に相手にしたら彼でもきついんじゃ 男二人はなかなか連携が取れた動きをする。 実力的には三井さん

んだ剣を強く握りしめる。 げらげらと下品に笑う二人をにらみながらそれぞれの手に握りこ

「まぁ、 ゆっくり楽しむことにしようぜ?」 大した相手でもないしすぐに片づけてもつまらないだろ。

「そうだな、久しぶりに人族を斬れるぜ」

う。 だ。 間違いなくこの二人を同時に相手にするのは今の俺には難しいこと 廊下に逃げ込もうにも後ろを見せたらすぐに切られて終わってしま 不幸なことにここは50メートル四方はあろうかと言う広間だ。 とにかく今は、相手を人間だと思って戸惑っている場合じゃ 右から斧槍の男が、左から剣士が襲い掛かってくる。 なんとか1人ずつ相手をできる状況を作らなくちゃいけない。

撃は両手で押し込んでくることもあってかなり重い。 け止める。 めているフロウが押し込まれてきている。 剣士と斧槍の攻撃をそれぞれの手に握ったウェイズとフロウで受 剣士の攻撃はそんなに大したことではないが、 徐々に受け止 斧槍の攻

「くそっ!」

ばれて避けられてしまった。 ウェイズを振るう。 押し出すように盾を蹴って剣士との距離を開くと薙ぎ払うように が、 斧槍の男の判断もなかなか早く、 後ろに跳

「この!」

に跳んだ。 蹴り飛ばしていた剣士が再び切りかかってくるのを見て俺も後ろ

うか、このまま戦いが長引いたらほかの連中も集まってきてピンチ 練れかな?対人戦になれてない今の俺じゃあ苦戦は免れない。 っぽい。 やはりというか、 なかなかの手練れみたいだ。 いせ、 かなりの手 とり

やっべ、どうしよ.....」

ぽつりとつぶやく俺の前後を剣士と斧槍の男が囲む。

だな、 こいつ、 でも所詮はガキだ」 ただのガキかと思ったらなかなかやるじゃねえかよ」

ゃ ったく、 いけないんだからキツイことこの上ない。 じりじりと距離を詰めてくる二人。 さっきの一撃で斧槍の方だけでも斬っときたかったな。 こっちは一人で相手をしなき

· キュイ!」

たんだな。 不意に俺の肩から重さが消えた。 っ あ... そういやスクルドがい

なんだこいつ!?」

首筋にかみつく。 で距離を詰める。 スクルドは小さな体だっていうのに、 慌てながらも振り下ろされた斧槍を避けて、 狼と見まごうばかりの速さ 男の

「っぐ、この畜生が!」

「っお、おい!」

気につめ、 俺は突然の事態の変化に戸惑った様子を見せる剣士との距離を一 少し体を動かせば相手にぶつかるほど肉薄する。

「っち」

持ったウェイズでその剣を受けるとフロウを持った手で相手の盾を 無理やりに引きはがす。 慌てて剣を振るう剣士だが、 この距離では剣は長すぎる。 逆手に

切り上げる。 いた勢いを殺さず、 ボキリと言う鈍い音が聞こえたがそんなことは関係ない。 回転するようにウェイズで下から逆袈裟の形で 盾を引

゙ぐぁ!」

すると俺はそのまま斧槍の方に駆け寄った。 血を吹き出しながら倒れる剣士を一瞥し、 確かな手ごたえを確認

発展途上のその体では決定力に欠けている。 スクルドはその体の小ささを利用して斧槍の動きを翻弄するが、

せい ところどころからスクルドにかみつかれたり引っ か血を流 していたが斧槍の男の動きが鈍った様子はない。 かかれたり

、くそ、ちょこまかと」

に切りかかる。 俺はスクルドの動きに気を取られている斧槍の男の背後から一気

「つぐ」

筋肉のおかげで致命傷にはならなかったようだ。 血を吹き出して前のめりに倒れこむ斧槍の男。 どうやら、 分厚い

「うるせぇ、 「ひ、卑怯だぞこのクソガキ……」 こっちは卑怯だのなんだの言ってられる状況じゃない

んだよ」

お兄さんとの約束だ。 いや、 確かに卑怯だけどな。うん、 みんなはやっちゃいけないぞ。

ゃないだろう。 少なくとも斧槍の男の傷もすぐに動けるようになるようなものじ

確認する。 俺はウェイズとフロウを鞘に戻すと肩にスクルドが戻ったことを よし、 次だ。

駆け上る。 なんとなくプリルは二階にいる気がしたので、二階に続く階段を

プリルが二階にいなかっ たらどうしよう.....

2 8 話 根城っていうのは寂れた屋敷みたいです(後書き)

改訂させていただきました。卑怯者だ!主人公は卑怯者だ!

2 9 話 護衛はなかなか強敵みたいです(前書き)

どある方はそちらへお願いします。 理由(言い訳)なんかは活動報告でさせてもらいますので、苦情な 久しぶりの更新です。ずいぶんと遅くなって申し訳ありません。

出てしまいますので、もう一度28話の方をご確認ください。 29話の更新にあたりまして、28話を若干(結構?)改訂させて いただきました。 29話の更新前に読んでいた方は食い違いなどが

49話 護衛はなかなか強敵みたいです

下で戦いがあったことに気が付いたんだろう。 二階に上がってすぐ3人の冒険者風 の男たちに襲われた。 たぶん

失した。 連携もなっていないし、 しかない。 結果的に言うとこの3人は下で戦った2人よりはるかに弱かった。 ヴァンヘルトで武器をへし折ってやるとすぐに戦意を喪 動きもチンピラに毛が生えた程度のもので

人がこっちをにらんでいる。 続く廊下の先に目を向けると明らかに敵意をむき出しにした男2

そらくあそこにプリルがいるのか、 明らかに敵意を持っているのに扉の前から動こうとし ジエンロがいるからだろう。 ない

貴 樣、 ジエンロ様にはむかってただで済むと思うのか?」

りきたりなセリフだなと思いながらヴァンヘルトを握りなおす。 ヴァン ヘルトを片手に歩み寄ると男の1人が言った。 なんか、 あ

らよ」 関係ないな、 こっちはさらわれた妹分を助けに来ただけなんだか

トで受けると男を蹴り倒す。 他に言うことなんてない、 切りかかってきた男の剣をヴァンヘル

丈夫そうな鎧を着ていることだし死にはしないだろう。 即座に襲い掛かってくる2人目の男を横一線に切り払う。 かなり

した男の喉元に剣をつきつけてから武器の方をへし折る。 つも無力化できた。 重い鎧を着ているために起き上がるのに四苦八苦している蹴 これでこ り倒

俺は2人が守っていた扉を開けると部屋の中に歩み入る。

おやおや、 ずいぶんと騒がしかったがこんな小僧だったとはな」

男、 騎士風の男がいた。 部屋に入ると商人風の身なりの小太りの男と漆黒の鎧に身を包む 漆黒の鎧の男はかなり強そうだ。 小太りの男がジエンロなんだろう。 もう1人の

ためにご苦労なことだな」 おとなしくプリルを返せ。 プリルは奴隷なんかじゃない!」 プリル?あぁ、 この鬼人の小娘のことか?こんな奴隷の娘一 そうすりゃ危害は加えない 人の

男が動いた。 怒りに身を任せジエンロに襲い掛かろうと一歩動いた瞬間、 鎧の

りる。 きは俊敏なもので、 扉の前にいた2人の男よりも重そうな鎧を着ているというの 気づいた時には俺の喉元に剣がつきつけられて に動

「そういうわけにもいかない」「どけ」

ちとは動きが段違いだ。 鎧の男、 たぶん三井さん並みの手練れだろう。 さっきまでの男た

込めて鎧の男を睨みつける。 だけどプリルを目前にして引くわけにはいかない。 俺は目に力を

だ。 くっ お前みたいな小僧に勝てる相手じゃないぞ」 くっく、 そいつはかつてベンデランで王国騎士をしてい た男

う。 説明どうも。 なんで、 こういう小悪党ってのは説明好きなんだろ

さない」 「そっちこそ、 「ここで引けば手は出さない。 そこをおとなしくどけ。 おとなしく帰ったらどうだ?」 そうすればこっちも手は出

実力はすごい。 61 からだが、鎧の男は純粋に余裕からの言葉だ。 俺の言葉はなんとかこの男と戦わないようにっ たぶん、 俺じゃあ勝てない。 それだけ鎧の男の ていうわずかな願

何を言っても無駄みたいだな」

ヴァンヘルトを抜いた。 喉元につきつけられていた剣が動くのと同時に俺は後ろに跳んで

心配はない。 ヘルトはこの世界でも10指に入る業物の剣だ。 こんな室内でかまいたち (闇属性Ver) は撃てないけどヴァン 少なくとも折れる

問題だけど..... 折られる心配はない。 とも気をつけなくちゃ 実力差がある場合には剣を折られたりすることで無力化されるこ まぁ、 いけないけど、ヴァンヘルトなら少なくとも 弾き飛ばされたりしたらそれはそれで

されていく。 隙もない。 鎧の男が振るう剣をなんとかヴァンヘルトで受けるが、 まさに猛攻と言える鎧の男の怒涛の攻撃には反撃する 徐々に 押

「まだやるのか?」

ず聞いてきた。 息をしていることから実力差を察してほしい。 し込まれて少し距離が開いたところで、 たった10合程度剣を合わせただけでこっちは肩で 鎧の男は息ひとつ乱さ

「ま、まだ、まだぁ」

ら変わりがないのだろう。 らすれば剣術も何も知らない俺の攻撃なんて素人の振るう剣となん 俺はヴァンヘルトを構えなおして切りかかる。 鎧の男は軽々と俺の剣を受ける。 しかし、 鎧の男か

年齢のわりに大した実力だが、 経験不足だな」

上から、横から襲い掛かる剣を何とか防ぎながらどうにもならな 受けた剣をそのまま押しかえし鎧の男は攻勢に転じる。

合のいいこと現実にあるはずもない。 い今の状況を何とかできないかと俺は頭を働かせる。が、 そんな都

屋敷が崩壊する。 た大きさよりも小さくならない。 ナイフの時と違ってヴァンヘルトのかまいたちはワイバーンに使っ こうなったらかまいたちを使うしかないのかとも考えたが、 そうすればプリルだって怪我をするかもしれない。 こんな室内で使ったら間違いなく

「っく.....

できない自分の無力さにいら立ちが募る。 かったらその真価は発揮できない。 世界で10指に入るような名刀であっても使い手の実力が伴わな 鎧の男の攻撃を受けながら反撃

なかなかしぶといが.....そろそろ、 終わりにしよう」

の男はそう言うと構えを変えた。 瞬時に繰り出されたのは高速

の斬撃。

でもかろうじて線でしかとらえられない速さの斬撃は4... 回は連続で繰り出されたろう。 肉体強化のおかげか動体視力が並々ならないものになっ てい いや5 た俺

らえられていない攻撃をすべて受けるなんて芸当ができるはずもな なんとかヴァンヘルトを振り回すように攻撃を受けるが正確にと

触れ、 比べたらはるかにしょぼい防具だ。 最後の一太刀がサ 鮮血が宙を舞う。 ヤ人の戦闘服を切り裂いた。 鎧だけでなく俺の体もその刃に ヴァ ンヘルトに

「キュウ」

膝をつき鎧の男を見上げる形になる。 ヴァ ンヘルトを杖代わりにしてなんとか倒れることはなかったが、

てきて心配そうに俺を見上げている。 スクルドも切られたのと同時に飛ばされてたが、 即座に駆け寄っ

んだと実感する。 傷口だけじゃなく、 口からも血がこぼれるあたりマジで切られた

諦めろ、お前じゃあの少女は助けられない」

鎧の男は一振りして血を払うと剣を鞘に戻した。

だろう。 くとも俺との実力差ははっきりとしてい 背中を向けて悠々と戻るあたり自分の実力に確かな自信があるん いせ、 事実息ひとつ乱さないで俺を倒したんだから、 少な

てしまうだろう。 たとえ今背中から切り かかったとしても気づかれて受け止められ

だが、これは好機だ。

的がある。そのためだったらどんな卑怯な手だって使おう。 卑怯?知ったこっちゃないね。 俺にはプリルを助けるって

会はなかったけど生来俺はそういう男だ。 この世界に来てから自分のチートな能力なおかげでそういっ た機

鞘から抜き放った。 俺はヴァンヘルトから手を放すと風と水の属性の短剣、 フロウを

膝をついた状態じゃ切りかかろうにも遠すぎる。 けど俺は立ち上がっていない。3メートルは距離が離れているから 鎧の男だって俺がこれを抜いたことには気づいているだろう。

でこの実力差は覆せないぞ」 今更何をしたところで無駄だ。 そんな短い剣を一本持ったところ

俺は雑魚だ。 鎧の男には余裕が見て取れる。 そりゃそうだ、 この男からすれば

そいつはご忠告痛み入りますよ.....っと!」

いた風のナイフと同じ系統を持っているフロウを。 俺はフロウを振るう。 風と水の短剣。 そう、 俺が最初に装備して

はず。 ちょっとした違いはあっても同じ系統の武器だ。 だったら使える

まっすぐと伸びていく。 案の定不可視の風の刃は俺の振ったフロウと同じ軌道をたどり、

かまいたちはまっすぐと鎧の男に向かって伸びてい

無駄だ」

う 俺の予定通りに。 の男は剣を抜くと不可視のはずのかまいたちを剣で受けた。 そ

「ぐはぁっ!」

突如、鎧の男は体中から血を流し膝をついた。

ウィ ンドカッター !?無詠唱魔法だと!?」

うやく見つかった。 せてとどめもささずに俺から離れたからこそ俺が探していた隙がよ そう、フロウでの一撃はあくまでもおとりだ。 この男が余裕を見

ウをこれ見よがしに振って見せた。 なものがある。 魔法を使えばそれなりの実力者だったら感じ取れるひずみみたい しかし、俺はそれに気付かせないようにあえてフロ

たならそのひずみにも気づいただろうが、 いたこの男では気づけるはずもない。 もしも鎧の男が俺を一端の敵と認め、 緊張感を持ったままであっ 俺をなめて余裕を見せて

はぁはぁ.....ったく、よかったぜ。あんたが詰めの甘い男で」

同時に18もの風の刃が油断しているところを襲ったのだ。 実際できるかどうかは不安だったけど、前後左右上下に斜めから

あり、 さすがに無詠唱で同時に18もの刃を想像するのは難しい 鎧の隙間からはいたるところから血を流 一つ一つの威力は大したものじゃないが、 している。 鎧の男は右腕をな も

しているジエンロへ歩み寄った。 俺はヴァンヘルトを拾うと男の剣をへし折り、 無様に逃げようと

さぁ、プリルを返してもらおうか?」

話 護衛はなかなか強敵みたいです(後書き)

と言うかストーリーの作りこみの甘さが原因です申し訳ありません。 ないですが無理やりにでも納得するようお願いします。 なんか雰囲気おかしくね?みたいなご意見などは甘んじて受けます 卑怯者というか、 この性格にしないと今後の展開に支障が出てきますので申し訳 改訂後からガイのキャラクターが迷走中。 私の文章力

ので、 さて、 だきます。 ここで私なりの幸運スキルについての見解を述べさせていた 感想で幸運のスキルに関して様々な意見を頂きました。 です

ものが大前提です。 幸運スキルの主な能力は、 スキル所有者に幸運をもたらす。

プリルの誘拐に関してはスキルの所有者ではないのでこの幸運の範 疇外です。

す。 また、 態にかかわっても(それが例え途中から関わったとしても)、 にはスキル所有者の益になる結果をもたらすということでもあ 結果的にというか最終的にどんな事態が起きても、 どんな事 最後 りま

でガイに幸運をもたらすことにつながります。 プリルの誘拐に関する終わり方も結果的にプリ ルが誘拐されたこと

若干のネタバレですが、 最終的にはこの事件がガイに幸運をもたらすことになりま 30話ではガイに大した得はありません。

例として幸運スキルは召喚時にすでに所有していました。 ですが、

ます。 果的に三井と出会い、そのおかげで迷宮探索では非常に楽をしてい ガイはバルデンフェルトの勇者にはなれませんでした。 くあります。 これからもこの三井との出会いのおかげで得をすることは多 しかし、

カンストレベルでの幸運です。 も大局で見れば幸運につながるというのが、 こんな感じで、ピンポイントで見ればどこが幸運なんだ?ってこと 幸運のスキル。 それも

プ高になったりします。 れ、稀にギャンブルで大勝ちしたり、 ちなみに一般的な幸運スキル持ちの人は100レベルで強運と言わ 時々、 買った株が連日ストッ

ッキーくらいの恩恵しかありません。 それ以下ですと日常の中で小銭を拾ったりといったちょっとしたラ

ガイ以外では幸運スキルの最大レベルは251 リ連合国の大商人メッケスという人物がいます。 かかわってくる予定です。 のリンデンバルフェ これは後々物語に

30話 捕まってた人は意外と多いみたいです

い感じがするけど、 ジエンロにヴァンヘルトをつきつけながら俺は口を開いた。 傷口から血が流れ、 そんなことは今は置いておいていい。 口元も血で汚れて、 いい加減出血多量でやば

「プリルはどこだ?」

無様に這いつくばり、失禁しながら俺から逃げようしている。 鎧の男が負けるなんて思ってもみなかったんだろう。 ジエンロは

は後ろに逃げていき、 入り口側に立っている俺から逃げられるはずもないのにジエンロ 壁にぶつかって動きを止めた。

うるさい、プリルはどこだって聞いてるんだよ!」 ひ い い 命だけは、 命だけはぁぁ

ルトの切っ先をつきつけ、 腰を抜かしているのか立とうとしないジエン 俺は声を荒げた。 口の眼前にヴァンへ

隣の部屋でお、 檻に入れてあります..

「檻だと?」

ひいいご、ごめんなさい。 すぐに出しますから命だけはご勘弁を」

る 俺は無理やりにジエンロを立たせると剣をつきつけたまま歩かせ

いるはず。 この屋敷に入ってから倒した相手は8人だ。 こいつを人質にすればそうそう手は出されないだろう。 今の俺の状況で二人の相手をするのは若干きついものが まだ最低でも2人は

「……プリル」

リルに俺は駆け寄った。 檻の中で両手足を鎖でつながれ眠っているのか動こうとしないプ

配はない。 衰弱しているのか怪我らしい怪我は見当たらないが目を覚ます気

゙おい、さっさと開けろ」

リルを抱き上げる。 ヴァ ンヘルトをつきつけてジエンロをせかすと檻から出されたプ

あ、やば.....」

で謝らないとまずいな。 抱き上げた時にプリルの服を俺の血で汚してしまった。 これは後

ц 二度とプリルに手を出すなよ?次はお前も容赦しない. はいい L١

ける。 しまうだろう。 またこんな目にあったらプリルの心に消えない傷跡が残って ンヘルトをつきつけながらドスを聞かせてジエンロに囁きか 絶対こんなことが再び起こるような事態は避けたい。

屋敷にはあとどれだけの人間がいるんだ?」

「え?」

るはずだ」 人や人間がいるんだろ?それ以外にも屋敷の護衛だってまだ残って 「え?じゃない。 この屋敷にはプリル以外にもお前らがさらった亜

だ。 は思わないが、 今までにさらわれて奴隷として売られてしまった人間まで救おうと 少なくともプリルー人がさらわれた亜人ってことはないだろう。 今目の前にいる被害者ぐらいは助けたっていいはず

ば単なる善だ。 を与えないと気が済まない。 偽善って言われるだろうけど、 それにプリルを傷つけたジエンロにはそれ相応の罰 偽善でも助けられた相手からすれ

人で全てです」 奴隷は下の階に10 人ほど.... 護衛は1階に3人、 2階に6

3人に扉の前の2人に鎧の男で6人。 1階で倒したのは広間にいた二人、 護衛は後1人か。 2階では階段を上った直後の

態で相手をするのは厳しいな。 聞いていた情報より少ないのはラッ キーだろう。 だけど、 今の状

、よし、1階に行くぞ」

「へ!?」

1階のお前がさらった連中も解放してもらう。 それぐらいはして

もらわないとな」

「そ、それはご勘弁を.....」

「別にお前の命で罰を与えたっていいんだぞ?」

ひいい、わ、わかりましたぁ」

人たちを解放 ジエンロは慌てて部屋を飛び出した。 しに行ったんだろう。 言われた通りにさらっ

がら部屋を出た。 俺はヴァンヘルトを片手にプリルももう片方の手で抱きかかえな

ジエンロ様、どういうことですか!?」

理部屋を警備していた男が抗議の声を上げる。 突然、 亜人たちを解放しだしたジエンロを前にして亜人たちの管

「うるさい!こっちは命がかかってるんだ!」

ていく。 口は血眼になって亜人たちの檻を開け、 手枷や足枷を外し

に変質者です。 てないけどそんな感じでかわいらしい少女に近寄っていく姿は完全 てそんなぶよぶよの顔をさらにぐちゃ ぐちゃ にしてげへげへは言っ うんジエンロさん顔が怖いです。 いくら俺が脅したからっ

放されたことが分かったの 助けてよかったと思える。 突然檻から出された亜人たちはキョトンとしてい か表情に歓喜の色が浮かんでいく。 るけど次第に解 うん、

もうどこへでも行け!」

自業自得だな。 は人族だったけど、 すべての亜人、 悪銭身につかずはちょっと違うけど似たようなもん というか亜人は3人だけで他の捕まっていた人間 を前にしてジエンロは言った。 涙流してるけど

ていた人たちの前に立つ。 あたふたとしている警備の男をしり目に俺は部屋に入ると捕まっ

「一応、確認するけど行くあてはある?」

りしたら目も当てられない。 れはまぁ置いておこう。せっ 突然自分たちの前に立った俺が誰なのかって顔をしてるけど、 かく解放してあげたのにまた捕まった そ

う。 少なくとも偽善であろうが尻拭いくらいはしないといけないだろ

ついでにね」 本当は俺の妹分のこの子を助けるだけのつもりだったんだけどその あぁ、 一応君らを解放するようにそこの豚に言っ たのは俺なんだ。

まっていた人たちはお互いを見合ってから俺の方を見る。 プリルを抱いている俺にようやく事態が呑み込めつつあるのか捕

あの.....私たちはどうなるんですか?」

が一歩前に出て聞いてきた。 れて当然かな。 人族の少女いや、 女性かな?たぶん15か16歳ぐらいだろう。 そりや、 ついでとは言ったけど警戒さ

が近いなら帰るといい。 者のギルドに登録してるからそこで話をしてもらえれば俺が直接行 はずれに俺の家があるからそこを訪ねるといい。 とは2度とないはずだから。 かたに売られたとかだったら帰りづらいかもしれないけど帰る場所 別にどうもしないよ。 この街に家があるなら帰ればいい。 少なくとも、こいつが君たちに手を出すこ もしもこいつに何かされたんなら東の なんだったら冒険 借金

俺は人族の捕まっていた人たちにはそう言った。 たぶん隣の国か

街で奴隷として売る理由が見当たらない。 ら売られてきたなんて話はないと思う。 それだったらわざわざこの

少なくとも近くの村だとかそんなレベルなんじゃ ないだろうか。

自分の里に帰るくらいだったら送っていくよ。 いでしょ?どっか別の国に行くとかってんならちょっと難 あと、 たら食費なんかの旅費くらいは払ってもらうけど」 人族以外の君らはどうする?この街に住んでるわけじゃ まぁさすがに村につ しいけど

ぼ無償で里まで帰してやるなんて普通はないだろう。 まぁ、 捕まっ 売れば金になると言われている (実感ないけど) 亜人をほ ていた亜人の人たちは俺の言葉を聞いて驚いたみたい だ。

ないんなら助けるべきじゃない。 でも、 これは偽善を働いた俺に対する尻拭いだ。 そんなこともし

さっ に帰って家族を安心させてあげるといい。 そこで詳しい話は聞けるから。 まぁ、 きも言った通り東のはずれに俺の家があるからそこに来るとい 今日はもう遅いし帰る場所が遠い人はうちにくるとい 帰る家がこの街にあるんなら早く なにか心配事があるなら、

止まらない 俺は自分の言いたいことを言うと部屋を後にした。 し早く帰らないとまずいかもしれな ĺį l1 l1 加減血も

から俺 の方には見向きもしない。 警備してい た男はジエンロを問い詰めるのに必死みたい だ

けどこの世界の夜空はなかなかきれいだ。 空の左右には月が浮かび、 呆然自失のジエンロを残して俺は寂れた屋敷を出た。 空一面を星が輝いている。 血だらけ の俺の後をぞろ 改めて思う

ぞろと10人くらいの男女がついてくる光景ははたから見たら異様 な光景だろう。

「ガイ!」 クレイ様!」

外に出てすぐ、慌てた様子のアリアと血だらけの俺を無視してレ

ナがスクルドに駆け寄ってきた。

あぁ、これでもう安心だな。プリルをアリアに預けた直後、 俺は

意識を手放した。

なんか最近、気を失ってばっかりだな

話 その後はこれからのことで大変なんだぜ

いない自分の部屋の天井が目に入った。 目を覚ますといつも通り.....と言うにはそれほど長い間暮らして

感じてるってことだろう。 けるってことはここが俺の居場所として自分でも居心地がいいって 元の世界の自分の部屋とは違うけどこの部屋の天井を見て落ち着

日斬られた腹のあたりがちょっとだけ痛むが、 たぶん医者を呼ぶとかして治癒魔法をかけてくれたんだろう。 あくびを噛み殺しながらベッドから降りてリビングへ向かう。 大した痛みじゃない。

「おはよう」

住人は増殖したんだ? リビングに入った俺は驚きのあまり目を丸くした。 1234.....アリアたちを含めて8人もいる。 いつの間にうちの 何この人数。

ちにつれてきたんだっけ 疑問と同時に答えも出た。 そういえば、 昨日助けた亜人たちをう

おはよう.....もう大丈夫なの?」

「おはよ、大丈夫。大して痛まないから」

法……あの子の場合回復魔術だっけ?かけてくれたんだから」 っそ、よかった。 レナにお礼言っときなさいよ。 あの子が回復魔

゙え、レナが.....」

ナが俺に回復魔術をかけてくれるなんて夢にも思っていなかった。 完全にアリアの言葉は予想外だった。 ったいどういう風の吹き回しだろう。 俺のことを毛嫌いしてい

で汚してしまったことを喚き散らすわと一悶着あった。 と同じく一日おいて気が付いたプリルが泣きついてくるわ、 の疑問は置い ておくとしてそれからはけっこう大変だっ 服を血 た。

つ こう面倒なことになるっぽい。 問題はプリルだけじゃなく、助けた亜人や人族の連中のこともけ

の連中。 3日あれば全員送り届けることができそうだ。 人族の連中はほとんど隣町とか隣の村みたいなレベルだから2 が、 やばいのは亜人

やなく、 フェルトが戦争中の相手国だ。 に長いこの国の (今はバルデンフェルトに吸収されているから旧) ちの里は獣人、 のが東側にある国境を越えた先にあるという点だ。 これは旧国境じ 国境の南北に分かれ そして何より問題なのは最後の一人、獣人、戦狼族の里っていう アリアに持ってきてもらった地図で確認したところ助けた亜人た 今のバルデンフェルトの国境の最東端の先、 猫族の里と鬼人の里の2つが国の端っこ。それも縦 ている。それぞれ片道で一週間はかかるらしい。 現在バルデン

なことは言うもんじゃないな。 短くても半月、長ければ3か月はかかると言われた。 みたが、 戦争中の相手国の人間を通してもらえるもんかアリアに確認し たとえギルドの職員であっても面倒な手続きを繰り返し、 うん、

まさかこんな面倒なことになるなんて夢にも思ってなかった。

まぁ言ってしまった以上責任はとらないとな。

「ごめんください」

玄関 というか、 の方から聞こえてくる声、 聞き覚えのあるこの声は三井さんじゃ 来客みたい

「あ、よかったガイ君いたんだね」

61 案の定玄関まで出迎えに出ると鎧に身を包んだ三井さんが立って 城勤めの三井さんが街のはずれにあるうちに何の用だろうか。

思ったけど無事でよかったよ」 迷宮で時間になってもも戻ってこなかったときはどうしようかと

てくれなくて......一応言伝は頼んでおいたんですけど聞いてません 「すいません、 一度だけお城まで行ったんですけど門番の人が通し

だったのだ。 しかし、その時門番をしていたのは俺を城から放り出した一般兵B 俺は一度迷宮探索の後に三井さんを訪ねて城を訪れてい ಶ್ಠ

利かない一般兵Bのことだから言伝すら伝えてない可能性も否定は できない。 事なしるしとお礼なんかを伝えてその日は家に帰った。 を貸さず城に入れろと言う言葉は断られ、せめて三井さんを呼べと いう妥協案も却下された。 しょうがないから伝言だけでもと俺が無 この一般兵Bはモブキャラのくせに勇者の俺の言うことに一切 あの融通の

とになったからせっかくだし俺が呼びに来たんだ」 たけどなかなか会えなかったしね。 うん、 聞いた聞いた。 話を聞いてから何度かギルドにもいっ 今回姫様が君を召喚するってこ てみ

7 「姫様が召喚?新しい勇者でも呼ぶんですか?いやでも俺を召喚っ

んでるってこと。 ははは、 召喚ってのはそのまんまの意味だよ。 悪いんだけど城まで来てもらえる?」 姫様がガイ君を呼

姫様が呼んでる?少なくとも俺は国のお偉いさんに呼び出される

たりするんならまだしもなんでお姫様なんぞに呼ばれるんだろうか? 昨日のジエンロとの騒動に関しても街の警備兵やらに呼び出され

躍してるでしょ?あの迷宮の時もワイバーンを倒したっていうし、 昨日は奴隷商のジエンロって男と一騒動起こしたらしいじゃないか」 ほら、 そんなことまで知ってるんですか?」 ガイ君って冒険者になったばかりだっていうのに かなり

ているっていうのは驚きだ。 ワイバーンのことはともかく昨日起きたばかりの事件まで知られ

行っても問題はないのかな..... まぁ、 少なくとも悪い意味で呼び出されたわけでもなさそうだし

てもい かりました。 いですか?」 ただ、 少し準備があるのでちょっと待ってもらっ

だから」 ことになりそうだから、どれだけ待っても昼過ぎってところが限度 いよ。ただ、あんまり姫様を待たせて怒らせるとガイ君が困る

しだけ詰めておきたいから12時前には何とかなるだろう。 時計を見ると今は10時、 亜人のみんなを送り届ける話をもう少

はどうします?」 わかりました。 とりあえず12時には家を出ますけど、 三井さん

12時か.....よかったら待たせてもらってもいい かな?

はい、 じゃあリビング.....はちょっと今ごちゃごちゃしてるんで、

一階の部屋は適当に使っていいんで」

オッケ、 それにしてもずいぶんデカい家買ったね」

迷宮で思いのほか儲けられたんで」

この家を買ったことでどれだけ俺が苦労したことか

へ向かうことにした。 俺が助けた連中を送り届ける話をいくらか詰めたところで俺は城

さと送り届けてから馬車なんかをレンタルして亜人の人たちを送る ことになった。 結論から言えば、短い期間で送り届けられる人族の人たちをさっ

まうだろうから、実際に動き出すのは明日以降の話だ。 とりあえず、送っていくにしても今日行けば時間も遅くなってし

相変わらず無駄にでかい。 他愛もない話をしながら三井さんと歩いていくと城へ到着し

じゃ、行こうか」

っ い い

「キュイ」

三井さんの後に続いて俺と俺の肩に乗るスクルドは城の中へ足を

運 ぶ。

市民が会うんだから謁見の間で間違いないだろう。 と出会った謁見の間みたいな部屋だ。 しばらく城の中を歩いてたどり着いたのは、 まぁ、姫様と俺みたいな一般 初めて俺が三井さん

ふむ、ようやく来たか」

. 遅くなり申し訳ありません、姫様」

より

だけがこの部屋に残される。 姫様は恭しく頭を下げる三井さんを下がらせると俺と姫様の二人

んでるもんじゃないのか? いせ、 普通こういうときって大臣だとか従者とかがずらー

つ た。 まさか、 お前は あ の時の勇者がこれほどの活躍をするとは思っていなか いったいどんな魔法を使ったんだ?」

「...... はぁ」

不意に姫様は口を開いた。 三井さんが下がってからしばらく無言の時間が続いていたのだが、

態を解決していったらこうなっていたとしか.....」 魔法って言っても、 俺は特に何も..... 流されるままに直面し た事

· ふむ、おもしろいな」

かず俺は無言のまま姫様の次の言葉を待った。 リアクションに困ります。 面白いなら笑ってください。 まさか姫様に突っ込みいれるわけにもい そんな真顔でそんなこと言われ ても

三井ですら勝てんほどの男だった」 つて我が国の勇者を倒したほどの男でな。 お前が昨日倒したベンデランで騎士をしていた男なのだがな、 実力で言えばそれこそ、

どうだ、 お前 の実力 我が国の勇者となるか?」 のほどはあの男を倒したことで認めることができる。

バルデンフェルトに拘束されるということでもある。 安定するなら国に所属する勇者になることも悪くはないが、 今更そんなことを言われても困る。 まぁ、 ぶっちゃけ生活が それは

すればいいのかある程度の目算は立っている。 ただろう。 のかも分からなかった時ならばこの提案には一も二もなく飛びつい この世界に しかし、 来たばかりで右も左もわからず、 今の俺は少なくとも自分の生活でどんなことを 何をどうすれば

ガーつなく成功させることができる。 でだが、安全にそれなりの報酬をもらって生活に困らない生活をお なヴァンヘルトのおかげでちょっと危険度が高いぐらい くることは十分に可能な状態になっているのだ。 正真、 このまま冒険者として生活していれば、 まぁ、油断しないという前提 ランクに分不相応 の仕事もケ

しまったら、 人であればなんの問題もないが、バルデンフェルトの勇者になって 今は亜人の連中を里に送るという約束がある。 国境を超えることはまず間違いなく無理だろう。 国内の2

申し訳ありませんが、お断りします」

らないといけない。 少し考えた後でそう答えた。 自分で決めたことくらいは守

· そうか、わかった」

締めて何か書状のようなものを取り出した。 姫様はちょっとだけ落胆した様子だったけど、 すぐに表情を引き

口商会の話だ」 本来の用向きに戻らせてもらおう。 お前が壊滅させたジエ

なんでもあの男、 ただでさえ違法な誘拐奴隷商をしていただけで

なく麻薬の類の販売や様々な違法行為を行っていたらし

そのままジエンロは逮捕されたらしい。 かを調べるために調査に向かったところ違法行為がでるわでるわで、 俺が壊滅させたことで街の警備や国の騎士などの一部が状況なん

当防衛が十分に認められた。幸いなことに死者が一人も出なかった ことは称賛に値すると姫様は付け足した。 相手を殺しても正当防衛で十分に認められていたそうだ。 ために押し入ったこと、ジエンロの護衛の人数などの関係で俺は正 鎧の男が俺を斬ったことを証言したことや、 あの状況だったらたとえ 俺がプリルを助け

ドに話をつけておいた。お前のギルドランクは見込みありのEラン クとなる。 悪徳商人を摘発するのに貢献した褒美として、 これまでの成果を考えれば当然と言えるがな」 帝国の権限でギル

あの.....すいません見込みありってなんですか?」

いかんせん、 自分のギルドのランク付けのことを知らんのか? この世界に来てから2週間程度の勇者なもんで..

ても異例だろうしな」 確かにな、2週間でギルドランクを2つも上げるなど、 勇者で

るらしい。 ありのEランクだと中位の仕事が多少の制限はあるもの Eランクであれば下位の仕事しか受けることはできないが、 仕事でも十分にこなす素質があるということを示すらしい。 の説明によると、 なんでも見込みありとは、 上のランク の受けられ 見込み 通常の \dot{o}

冒険者になれたらしい。 たかがEランク、 されどEランク、 まぁ、 先はまだまだ長いんだけど。 これで俺もようやく **(**)

れてしまった人間を買い戻すために使う予定だが、 にも慰謝料として額は少ないが支払いをすることになっている。 とジェンロの財産はすべて没収 じた。 すでに奴隷として売ら 誘拐 されていた

話によればお前の所に何人かやつのところに捕まっていた人間がい るそうだな。 正確な人数を報告し、 金を受け取っておけ」

「....はい

手を振った。 これで用はすべてなんだろう。 姫様は黙るとシッシと言った風に

俺は一度頭を下げると無言で謁見の間を後にする。

謁見の間を出たところでは三井さんが待っていた。

や。姫様の話ってなんだったんだい?」

ランクの話、 「え、なに?ガイ君もバルデンフェルトの勇者になるの?」 いや、 けないことがあるんで」 バルデンフェルトの勇者にならないかって話と俺のギルド それはお断りしました。ちょっと用事と言うかやらなきゃ 後は昨日のジエンロのその後についてって感じです」

3つはもらえるのに」 へえ~もったいない。 バルデンフェルトの勇者になれば月に金塊

らうの? マジで?え、 マジで?何その額。 月に3000万も給料も

すか?年間で3億6000万っておま..... 一流アスリートの年収と同じぐらいの年収がもらえるってことで

選択ミスったかも。

いからさ」 その分めんどくさい仕事も多いけどね。 特にあの姫様は厳し

してきましたけどなんでですか?普通に考えたら役人とかが口頭でそういえば、 あのお姫様が直接俺にその後の話とかい ろい 3

ぶん話を詳しく知ってましたし」 適当に伝えるだけとかじゃ ないんですかね?しかもあのお姫様ずい

容だと思う。それをわざわざ姫様が直接二人だけになってまで話し 者というか秘書みたいなのとか偉そうな役人が読み上げるような内 たのはなんでだろう。 普通に考えたらあのお姫様が言っていたような内容はお姫様の従

でやっちゃうんだよね」 「いやぁ、 うちの姫様っ て完璧超人でさ。 役人仕事もほとんど一人

「 は ?」

り占領したこの国の政策もほとんど全部姫様がやってるから。 ったし、 んか戦場に出て一人で中隊を一つ壊滅させたしね」 「今回のガイ君のことだって調べるののほとんどは姫様が自分でや 騎士とかから直接話を聞いて事件の概要を書類にまとめた 前な

なんですかその人は....

あのお姫様って実は強くて何でもできる人だったんですね..

怒らせたりしなくてよかった.....かな?

引いているそれなりにデカい奴だ。 城に呼び出された翌日、 俺は街で馬車を買った。 2頭の白い馬が

お願いする。おいおい俺も御者のやり方を教わることにしよう。 初めての馬車ってことで勝手がわからなかったので御者はレナに

り込む。 けにはいかないんだ。 にもいかない。アリアだって仕事があるから四六時中うちにいるわ とはいえ、 モンスターに襲われる程度のことはあるだろうが、危険は少ない。 ジエンロに捕まっていた人族の連中を馬車に乗せ、俺とレナが乗 今回の旅はプリルはお留守番だ。 ただ送り届けるだけだし 勝手がわからない亜人の連中だけを家に残していくわけ

じゃあプリル、 3日くらいで帰ってくるからいい子にしてるんだ

ぞ?」

「うん、お兄ちゃん」

っぱい遊んでやることにしよう。 少しばかり寂しそうな様子だったけど、仕方がない。 帰ったらい

き出す。 レナに鞭を打たれた白馬たちが走りだし、荷台の方も引かれて動

と手を振り続けていた。 見えなくなるまで手を振り続けるプリルに応えるように、 俺もず

に危害が及ぶようなことはなにもない。 人まで大喜びして何度もお礼を言われることはあったけど、 突然いなくなった子供が突然帰ってきたので子供の両親や他の村 こっち

う。 に強烈な頭突きをかましてくるというトラブルがあったくらいだろ ルは花が開くように笑いながら駆け寄ってきて、そのまま俺の胸元 問題と言えば、 これは送り届けてる間の問題じゃないか。 約束通りの3日が過ぎて家に帰ったところ、 プリ

けた。 片道1週間もの時間をかけてやってきた猫属の里でも大歓迎を受

っとした金までもらってしまった。 の少年を連れてきたことを話すと態度が一変し、 里に入った直後は、 なぜ人族がと警戒されたが捕まっていた猫族 いた ありがたいんだけどね。 お礼と言ってちょ

ら再び旅立ち、次に来たのが鬼人の里だ。 猫族 の里を出てから再び1週間をかけて家に帰る。 1日休んでか

ここはプリルの生まれた里でもある。

緒にプリルが馬車から降りたのも大きかったかもしれない。 鬼人の少女を馬車から降ろすと鬼人たちの表情が和らぐ。 猫族 の里と同様に里に入ってしばらくの間は警戒されていたが、 少女と一

もが声をかけその無事を祝う。 鬼人たちは一様に少女とプリルのことを心配していたようで、 誰

ルが涙を流すことはなかった。 プリルの両親のことを聞くと泣きだす人間もいたが最後までプリ

なぁ、 プリ お前はここに残ってもいいんだぞ?」

鬼人の里を出るとき俺はプリルの頭をなでながら言った。

ちゃんがいるところにいたい」 ううん、ここにはお父さんもお母さんもい ないから..... 私はお兄

「.....そっか」

ſΪ リルが自分の意志でそう決めたのだ。 俺が口を出すべきじゃな

らそれはそれで嬉しいから断る理由もない。 俺としてもプリルが居なくなると寂しいし居てくれるというのな

に向かって頭を下げていたのが印象的だった。 鬼人の里を出るとき、鬼人の少女とその両親がいつまでも俺たち

人を里に帰しただけで1か月が過ぎた。 鬼人の里から家に帰るのにまた1週間の時間がかかり、亜人の二

って、俺たちはひとまず腰を落ち着ける。 半月の間、空けていた家にいたアリアと戦狼族の少年にお礼を言

んだ。 1か月の間ほとんど馬車で旅をするっていうのもかなり疲れるも まぁ、 おかげで御者のやり方も完全に覚えたがな。

で、どうしようか?」

面倒なことになった。 俺はアリアやレナ、 プリルたちを前にして言った。 いや、 ほんと

状態にある。 今俺たちがいる街はバルデンフェルトに所属し、イェメンとは戦争 最後まで残った戦狼族の少年の里は隣国イェメンにあるとい まぁ、 早い話が通行禁止になっているわけだ。 う

ブルの上に広げられた地図には国境を挟んだ反対側にバツ印

が書かれている。 これが戦狼族の少年の里がある場所だ。

力して差し上げているんですよ?」 どうするもなにも、 あなたが約束したと言うから私はわざわざ協

ロイ君もお家に帰してあげるんじゃないの?」

よ? 61 うん.....そりゃ俺だってロイは家に帰してやるつもりです

もあってプリルとは非常に仲良くしてもらっている。 ちなみにロイっていうのは戦狼族の少年の名前だ。 年が近いこと

里にでも住まわしてもらいますから」 住まわせてもらっているのが邪魔だっていうならどこか別の一族の は気にしないでくださっていいですよ?いつまでもガイさんの家に の ... イェメンとこの国のことは知ってますから...... 僕のこと

るって決めてるから.....問題は」 やったのにお前だけは国が違うからって断りたくない。 いや、そういうわけにもいかないっ て。 他の連中も家まで送って つか、 届け

俺は言いながらアリアに視線を向ける。 の視線に気づいたアリアは少し困ったようにため息をつい た。

は無視できな 一応あっちの国も議会には登録してるだけに誘拐された亜人の問題 ガイに頼まれてた通りギルドを通して通行許可を求めたよ。 いだろうからね。 ただ.....」

認を取っ そう、 ていたのだ。 俺はアリアさんに頼んでイェメンに行けないかギルドに確

動いているからだ。 ギルドは基本的に国の影響を受けると言ってもすべての国に存在 原則中立を保っ ている。 ギルドはあくまでギルド議会の方針で

に活動をしているわけではないと言うのが問題なのだ。 ただし、 ギルドに所属している人間が必ずしもギルド のためだけ

えることができた。 ドに所属している人間は特殊な例を除けばすべて無審査で国境を越 おり、どんな国の影響も受けない組織として存在していたからギル 行くと言って国境を越えた。 かつて戦争をしている2つの国で、冒険者が隣の国にある迷宮に 当時はギルドは完全に中立を宣言して

被った。 襲ってくるとは思っていなかった相手側の国はかなり大きな被害を の貴族の家に生まれ一際愛国心の強かったその冒険者は迷宮を無視 して王都を強襲。 だが、その冒険者はただの冒険者ではなかった。 戦時中で警戒が強かったとはいえまさか冒険者が もともとい た

相手側に奇襲をかけると言う戦略が頻発することとなった。 その後、 冒険者ギルドや商人ギルドに所属している人間を買収

戦時中などの国境越えは様々な制約を受けることとなった。 ギルド議会が話し合った末、 その事態を重く見た国家連合議会 (国連みたいなものらしい たとえギルドに所属しているとしても

が、 平時であれば多少面倒であれ問題なく国境を越えることができる 過去の例があるのだから同じと言うわけにはい かなくなる。

をこなすことで国境は越えられる。 時中であっても平時よりは厳しいまでも戦時中にしては軽い手続き 単純にギルドに所属する人間ではなく、ギルドの職員であれば

どうせ俺には することで問題なく国境を越えられないか調べてもらっていたのだ。 俺は、 そんなギルド職員としてのアリアさんの伝手なん イェメンをどうしようだとかって考えはない か のだから。 を利

あた 人だったら通れるって許可はもらえたんだけどね。 ただ、

ギルドに所属する冒険者は同じっ ターになんとかしてほしいってごり押ししたけど結果はバツ. てわけにはいかないってさ。

「そっか.....」

思ったけど、そこまでうまくはいかなかったようだ。 先に二人の亜人を里に帰している間に許可が取れるんじゃないかと これで国境を越えるのが面倒になった。 もしかしたらロイよりも

けど、 こんな時に幸運スキルがうまい具合に働いてくれると助かるんだ なかなか思うように幸運が訪れるわけじゃない。

向こうの国のギルドから護衛が派遣されると思うわ」 るのはありだけど、 「うう~ん、たぶん無理ね。 いくらなんでも護衛もなしで隣の国まで行くのは無理だろ?」 なぁ、 アリアの護衛ってことでついていくことはできない 護衛じゃ国境は越えられない。国境を越えたら 国境までなら護衛ってことでつい の か?

「……そっか」

けど.... 正攻法はダメ、 護衛も無理。 だったら正攻法以外ってことになる

「国境は無理やり越えるしかないのかなぁ.....」

で無許可の国境越えなんて、ギルドから除名処分されるわよ!?」 ちょ、 ちょっとそれはやめときなさいよ。 戦争中の厳戒態勢の中

「ん~それはちょっとなぁ」

だったらばれないように国境を越えればい いんじゃないですか?」

「ばれないようにってどうやって?」

賢者として名高いエルフだったらそれらしい策ってのがあるのか? 頭を悩ませている俺とアリアにそう言ってきたのはレナだっ

な 森の中を通り抜けるのはかなり厳しいんじゃない ナが指示したあたりは確かに森らしいものが書かれ のか? てい 61

名が書かれていません。 こか東の国で召喚された勇者だと言い張れば何とかなると思います」 幸いなことに勇者である獅子王さんのギルドカードには所属国家 身分証明をしなくてはいけなくなってもど

でも書かれるのかと思っていたら、 いるのだが勇者である俺のギルドカードにはそれがない。 の表現ができないみたいだった。 レナの言うとおり、普通ならばギルドカードには生国が書かれ ギルドカードではこの世界以外 異世界と 7

イを連れて通るのは厳しくないか?」 ルドの仕事で単なる採集でもBランク以上になるような森だろ?ロ 「でもさ、 レナ。 森を抜けるのってきつくないか?そこの森っ てギ

ど大国よ。 「馬鹿ね、 それ以前にイェメンはバルデンフェルトほどじゃな 国境に沿ってずっと壁ができてるんだから通れないわよ」 け

な万里の長城?あれだってところどころに抜け道はあったはずだぞ。 そうなの?っていうか、 国境線上にずっと壁があるってどん

で、そんな問題があるらしいけどどうなの?」

教えたくはありませんが、 分に可能です」 の里があります。 大丈夫です。本来ならアリアさんはともかく人族であるあなたに クレイ様もいらっ この森の丁度国境の境目の延長線上に私 しゃ いますから、 通ることは十

アリアはともかくってお前...

「ただ....」

「ただ?」

れは一方通行です」 「エルフの里は出口と入り口が一つずつしかありません。 そしてそ

つまるところは行きはいいけど帰れないってことか.....

を見ていると言っていた。 争に決着がつきそうか確認したけど、バルデンフェルトは1年ほど 国境を越えなきゃいけないってことで、いつごろイェメンとの戦

だからアリアに正攻法で国境を越える方法を確認していたわけだ 行けない時間がそのまま戻れない時間に変わるってのも痛いな。

ちが無理をする必要はありません」 やっぱ り、僕がこっちで暮らしてればいいんですよ。 ガイさんた

らな」 だらない遠慮でこの国にいるっていうなら縛ってでも連れて行くか 「ロイ、何度も言うが俺の中でお前を里に送り届けるのは決定事項 お前が心底この国で暮らしたいってんなら反対しないけど、

「ちょっとガイ……」

. いくらなんでもそれは暴論過ぎませんか?」

それが帰れる場所にあるんなら絶対に帰るべきだ。 誰だって自分のいたいと思える場所にいた方がい

俺はどれだけ望んだって帰れないんだからな。

だよな。 の世界も気に入ってるって言っても、 ここのところの旅の連続で俺もホームシックになってたらしい。 いや......今頃になってホームシックか......アリアたちもいるしこ この世界にあいつはいないん

やる。 りたいのか?帰りたくないのか?それだけはっきり言ってくれ。 ろに行けばいい」 しもお前が自分の里に帰りたいなら俺は全力でお前を里に帰らせて まぁ、 帰りたくないっていうなら、ここに居てもいいし好きなとこ 確かに俺の言ってることも乱暴だけどさ。 ロイ、 お前は帰

... それは... 僕も帰れるなら帰りたいです」

「よし、わかった」

俺はロイの言葉で意思が固まった。

ごめん。 ら、好きに使ってよ。 「レナの言うとおりエルフの里から国境を越えよう。 しばらく帰れなくなった。 絶対、 戦争が終わったら帰ってくる」 この家はこのままにしておくか アリアさん、

「 は ?」

いや、は?ってなんですか?

なんでそんな意外そうな顔してるんですかマジで。

「あんた何言ってるの?」

「何ってあの.....」

「私もついて行くにきまってんでしょ?」

え!?」

今度は心底俺が意外そうな顔をする番になった。

ついてくるってマジですか?

?仕事とかどうするの?」 そんなもんイェメンの方のギルドに転属願いだすわよ。 アリア?この街には最低でも1年は帰ってこれないんだよ 最近勤務

えに関してはマスターから許可とってあるしね。 態度がどうのってマスターに文句言われてるし、 加の手続きすれば向こうのギルドですぐに働けるわよ」 あとはちょっと追 イェメンの国境越

だからってあの.....

?引っ越しのときだってさんざん話したでしょ?」 そもそも、 あんたはこういう時になんで私の意思を無視するわけ

· えっと..... そうでしたっけ?」

ツンって音が聞こえた気がする。 たぶん俺の言葉でアリアの中の何かが切れた。 俺はなんとなくブ

「ぐほぁっ!」「こ・の・鈍感男がっ!」

俺の動体視力じゃ線でも捉えられなかった。 い、ジエンロの館で戦った鎧の男の攻撃より速かったかもしれない。 アリアの渾身の右ストレートが俺の頬をきれいにとらえる。

備を始めた。 こうして気を失った俺は翌日になって目を覚ましてすぐに旅の

戻ってきたときに超過分を支払うことになる) がない場合は継続して管理するってオプションをつけておいた。 て期間を越えて戻ってこなかった場合でもギルドなどから死亡報告 に管理してくれるっていう人を雇った。 1年たったら戻ってくるつもりだし家は処分せずに家主の代わ 念のために契約料を倍にし

をもう一台に予備の馬を含めて4頭の馬を購入した。 必要最低限の衣類や家財具なんかでも結構な量になったので馬車

の転属手続きなんかも3日で終了。 武器屋のおっ さんや三

えでお尋ね者になりそうな場合は三井さんができる限り便宜を図っ 井さんなんかにも別れの挨拶を済ませて準備は万端。 てくれるって言ってくれたのは非常にうれしいことだった。 もしも国境越

込み街を後にする。 アリアにレナ、プリルとロイ、そして俺とスクルドが馬車に乗り

ある。 視線を外した。 て来よう。 いないと言うのにこの街を出ると言うのはなんとも感慨深いものが この世界に来てから1か月と半分くらいか。 戦争が終わって国境が自由に越えられるになったら必ず戻っ 俺はそう心に決めて小さくなっていく街の姿から静かに 大して時間が過ぎて

キュイ!」

32話 俺たちは街を出ることになったんだぜ(後書き)

これにて1章は終了です。

すので、 詳細を省いている部分があってちょ 次回からはイェメン編に入ります。 気が向いたら訂正するかもしれません。 いとばかりお恥ずかしい出来で この話はかなり駆け足でかな ij

す。 ちなみに、 にこれたの?って質問が来そうですので先に説明させていただきま エルフの里の出口はイェメン側なのにどうしてバルデンフェルト側 レナの国境越えに関してですが

つ レナがバルデンフェル たからです。 以 上。 側に来たのはガイが召喚されるよりも前だ

.....すいません、つまり

ガ に大した手続きなどは必要ありませんでした。 にはイェメンと戦争状態にはなっていなかったので国境を超えるの イたちが暮らしていた街のある国を統治していたからです。 その頃 イが召喚される前、ということはデ・ブーという無能な王様がガ

に手続きもくそもありません。 スクルドに至っては見た目が単なる小動物だっ たので国境越える の

以上が理由となります。

でください。 書いておきますので、 2章を始める前に登場人物紹介 (2章版) 設定関係が気になる方は暇つぶしにでも読ん と国の設定なんかも一応

も しか したら、 2章を開始するのは2 ,3日後になるかもしれませ

てください。 んがどんだけ空いても1週間以内に更新しますので気長に待ってい

ますのでなにかございましたらどうぞ、 例え更新 していなくても感想なんかには随時返事をさせていただき 感想の方へお願いします。

追記

ック感覚で隣の国に行くことは(物理的な距離を考えなければ)十 分に可能です。 な例であり、 国境越えに関してですが、 フリーパスです。 戦時中以外では例えイェメンでも国境を越えてピクニ 国境線に沿って壁が作られているイェメンが特殊 普段は手続きをすると言ってもほとんど

んです。 せいぜい止められるのは明らかな不審人物や指名手配犯ぐらいなも

避けるため越境条件が非常に厳しくなっている。 ただし、 今回の場合は戦時中のため不穏分子が国内に侵入するのを ということです。

人物紹介 (2章編) (2章開始時) (前書き)

どを記載してあります。 人物の簡単な説明、戦闘員であった場合はレベルや装備、スキルな

脇役は紹介されていません。 主要キャラクターのみで、登場回数が少ないキャラクターやモブ、

人物紹介 (2章編) (2章開始時)

獅子王ガイ 主人公 人族

レベル:47 (2章開始時)

装備:ヴァンヘルト (魔剣第3位) 双剣ウェイズ&am р ;

フロウ (レア+)

手甲 (ノーマル) 鉄の胸当て (ノーマル)

9 5 魔剣士Lv . 3 1 冒険者 L V 1 e t C

スキル:幸運Lv

. 9 9

魔術Lv

6 3

肉体強化Lv

В а ٧ e Т а m e r D а n e S S i

t u e

国イェメンへと向かった。 れそうな亜人を助けたことがきっかけで召喚された土地を離れ、 異世界に召喚された元普通の高校生。 現勇者兼冒険者。 奴隷にさ 隣

・リア・ロントリー 人族

女 23歳 (2章開始時) 職業:冒険者ギルドの受付

ぼれ的な感覚からガイに惚れた。 ガイが冒険者ギルドに入ることになる原因を作った張本人。 目

ルドに転属した。 ガイが1年以上街を離れることになったので、 自らも隣の国のギ

スクルド 雌 ? 歳 リウンド 種族:神獣 状態:幼獣(2章開始時)

ガイにとっての癒し的存在その1。 元はエルフの里で育てられていたが本人は戻る気は一切ない。 伝説上の神獣。 ガイに拾われてからガイのペットになっている。

女 アンストロ・ 19歳 (2章開始時) リィガー エルフ 職業:エルフの戦士

装備:祝福された全能の弓 (レア+ 祝福された小刀

(ノーマル+)

エルフの鎧 (レア) エルフのローブ (レア)

21話現在)

レベル:189

魔術 L V スキル:エルフの秘術Lv . 7 7 剣士L V . 4 3 . 9 8 精霊術LV 弓桁 L V . 8 8 4 2 e t c 回復

ドがガイの下に残ると意思表示したのでレナもガイとともに居る。 スクルドを探してエルフの里を出たエルフの戦士の一人。 エルフとしてはまだまだ年若いが実力はエルフの中でも随一。 スクル

女 9歳(2章開始時) 職業:なしプリル・リーベン 鬼人

イの癒し的存在その2。 破壊力抜群の頭突きをガイに喰らわせることもある。 両親を失い、ガイの下で暮らしている鬼人の少女。

無邪気でガ

230

人物紹介 (2章編) (2章開始時) (後書き)

とりあえず、2章更新の前に2章開始時の人物紹介だけです。

方はよろしかったら読んでやってください。 次の話をお待ちいただいているみなさんごめんなさい。 「仮初の戦士」っていう小説を性懲りもなく書き始めたので、 暇な

1 話 いきなり捕まっちゃったんだぜ (前書き)

2章開始です。

いますが、ご了承ください。 1章の時とは雰囲気とかちょっといろいろ違う面も出てくるかと思

-話(いきなり捕まっちゃったんだぜ)

元高校生の勇者兼冒険者だ。 俺の名前は獅子王 ガイ、 ちなみに本名。 勇気あるGGGの隊員.....ではない。

離れ、 らといろいろな紆余曲折を経て、 ある日突然異世界に召喚されて、勇者だなんだ、 隣国のイェメンへと向かっている途中だ。 召喚されてから暮らしていた街を 冒険者がどうた

郷であるエルフの里を目指しているわけだが 今俺たちが向かっているのはイェメンではなくレナとスクルドの故 まぁ、 イェメンに行くためにはいろいろと面倒なことがあっ

まだつかないのか?」

びくするせいでまともに寝られなかった。 森の中で野営なんかしたけどいつモンスター 街道を1週間かけて東へ進み、 森へ入ったのが昨日の話。 に襲われるかってびく 初めて

ら俺がやってた方が気持ち的にもよかったかもしれない。 寝ずの番はレナがやってくれるっていうから、 任せたけどこれな

出たので、今は俺の乗る馬車とレナの乗る馬車は並走している。 森の中とはいえ、 途中からそれなりの幅がある道みたいな場所に

· そろそろです」

着くの?」 そろそろ、 そろそろ、 って昨日も言ってなかった?あと何時間で

「見えました」

「<u>へ</u>?」

ナが指差す先にはどう見ても今も左右に続いている普通の森の

るようにも見える。 延長にしか見えない。 が、 言われてみるとどこか空気がゆがん

でに解除はすんでいます」 本来ならエルフ以外は通れない結界が張られているのですが、 す

気にする必要はないんだろう。 因ってことでい つまりは、 空気 いんだろうか?まぁ害がないっていうならそんなに がゆがんで見えるのは結界を解除してあるのが原

お前そんなに帰りたくないのかよ..... 俺の膝 の上で丸まっていたスクルドの機嫌が心なしか悪そうだ。

えたわけだが、 に馬の頭が入っていく。 スクルドの背中を軽く撫でてやっている間に空気がゆがんだ空間 目の前に広がる光景に思わず息をのんだ。 続いて御者の席に座っている俺もそこを越

「おおおお」

めた。 車を曳いている馬の方は突然景色が変わったことに混乱して足を止 まで興奮した声が聞こえてくる。 が、 プリルとアリアも俺と同じ感想なんだろう。 状況がわかっていなかった馬 隣の馬車からこっち

世界が広がっているなんて誰も想像できない。 当然と言えば当然だ。 何の変哲もない森を越えたらそこにこん な

エルフの子供たちがそこかしこを走り回っている。 って言われてそうな幹の太さが云十メートルっていう巨木が鎮座し、 上がった木 集落と言ってい で木 の根の下に扉があるのは、 の下に住んでいるエルフもいるんだろう。 いんだろうか?その中心にはたぶんおそらく ちょっとした竪穴式住居みた 木造の家や盛り

立ち並ぶ木 ほど幻想的な光景だった。 Ż の間から差し込む陽光を受けるその集落は言葉にで

すげぇな。レナ、エルフの里ってこんな.....」

なぜかって?俺の目の前を矢が通り過ぎたからさ。 俺は言葉を最後まで続けることができなかった。 え、 なにどゆ

「動くな!」

からこちらを狙っているエルフが4人。 俺たちが入ってきた入り口のすぐ横にある高台みたいな場所の上 全然気が付かなかった....

「あの.....怪しいものじゃないですよ?」

俺たちの前の方から一人のエルフが歩み寄ってくる。 銃を突き付けられた時みたいに降参って感じで両手を上げる。

意な人攫いだな」 「どうやってここに入ってきたかはわからないが、ずいぶんと不用

「いや、人攫いじゃないです」

てのもエルフの知り合いに入らせてもらったってだけなんで.....」 「?ならば、なぜこの場所に来たと言うのだ?君は人間だろう?」 あの、ここに来たのはただ通り抜けるためでして、入った方法っ 知り合い?」

俺よりは間違いなく強い。 るレナの方に目を向けた。 そのエルフの男は俺から視線を外すとローブで顔を覆い隠してい 身のこなしからわかるが、 ないって知らせろよ。 ちょうど俺と三井さんの間くらいかな? っていうか、 このエルフの男はかなり強い。 レ ナ。 さっさと顔見せて敵

一君がその知り合いかな?アンストロ」

え!?気が付てる?顔隠しててもわかるなんてなんでだ?

は知っているだろう。だというのになぜだ?」 君ならばこの里に人間を入れるのが禁忌とされていることぐらい ウェルナー、あなたにはあのお方が見えないんですか?」

たら、 レナがウェルナーと呼んだ男は、再び俺の方に目を向けた。 目を見開いてその場に土下座する。 え、 なんで? と思

? あ、 クレイ様!よ、 あぁ よくぞお帰りくださいました」

見えた。 んだっけ?普通に子猫みたいな感じで相手してたから忘れてた。 高台の方も見てみたら弓を下してこっちに礼を尽くしているのが なるほど、そういえばスクルドってここで神様として扱われてた こっちっていうかスクルドにだろうけど。

キュイ」 キュイ っは、すぐにクレイ様のご自宅にお送りさせていただきます」

視して俺たち ウェルナーさんは首を左右に振っているスクルドのことなんか無 や、 ウェルナーさん?たぶんこいつ違うこと言ってますよ? の乗った馬車を曳く馬をひいて歩き出した。

きゅ、キュイ!」

だった。 そう思いながらもウェルナー さんを止めずに流れに身を任せる俺 スクルド. だって下手に口はさんだら矢が飛んできそうなんだもん。お前が何を言いたいのか俺には分かるぜ。

た。 んな小動物が住んでるっていうのになぜ?って思うくらいデカかっ ウェルナーさんにつれてこられたスクルドの家っていうのは、

外からパッと見ただけだと、この家で7人くらい暮らして いるっ

て言われても納得できるサイズって言えばわかるだろうか?

俺の買った家よりは小さいけどスクルドのサイズを考えると異常

だ。

えないんだからまぁ、 入り口は人間が入れるサイズだが、 当然のことだろう。 扉はない。 スクルド は手が使

さぁ、クレイ様到着しました」

に向かって恭しく礼をする。 ウェ ルナーさんはひいていた馬から手を放すとこっち (スクルド)

とする気配を察したスクルドが俺の肩に駆け上り、 は野営なんかしないでここで一泊できるかもしれない。 とりあえず話もしなくちゃいけないだろうし、 うまくすれば今日 俺は軽く飛んで 俺が立とう

御者の席から降りる。

めた。 スク ルドを肩に乗せる俺のことを見てウェルナー さんが顔をしか

[.] で、君は何者なのかね?」

俺は獅子王ガイと言いまして、 こい つの.....」

その男はクレイ様をペット扱いする極悪非道な人間です」

「 は ?」

な!?」

た。 なんてどういうつもりだ? つか、 俺の言葉をさえぎって発せられたレナの言葉に場の空気が固まっ なな レナのやつ、ここまで来ていきなり極悪非道とか言い出す みなさん殺気を向けるのをやめていただけませんか?

クレイ様をその肩から降ろしてください」

いつの間にやら弓に矢をつがえてこっちを狙っているレナ。 あの

..... 本気ですか?

なことしていいのか!? を行動に移す。ちょ、 行動に移す。ちょ、お前らにとっての神が俺の肩にいるのにそんレナに呼応するように何人ものエルフたちが俺に向けていた殺気

おい、レナどういうつもりだ!」

ために里を出たんです。 どういうつもりもありません。 私はクレイ様をこの里に連れ 私の目的はなにも変わっていません」 . 戻す

方八方から矢が飛んでくる。 そういう意味じゃなくてさ。 やばい、 い、 下手に抵抗したら四

スクルド.....降りてくれ」

抵抗も出来ずにスクルドに方から降りるように言った。 武器でも抜こうものなら即座に矢は放たれるだろう。 俺はなんの

の肩から降りたスクルドは俺の足元に留まって申し訳なさそう

「……キュウ」

て俺は両手を上にあげる。 弱弱しいというか申し訳なさそうに鳴いたスクルドに微笑みかけ

るだろう?」 イ様を攫ったのが人間だったとはな。 相応の覚悟はできてい

ことを話すかどうかは知らないけど」 「攫ってなんかいないって、 その辺の話はレナに聞けよ。 ほんとの

ァンヘルトが持てなかったのか重さのあまりに仰向けに倒れこんだ エルフには思わず吹き出してしまった。 数人のエルフに取り押さえられ武器もすべて取り上げられる。 ヴ

っつ.....で、俺をどうするんだ?」

ありません。牢屋にご案内します」 言いたいところですがあなたのような人間の血でこの里を汚したく 「そうですね。 クレイ様をたぶらかしたあなたは即座に処刑

「それはそれは……快適な場所なんだろうな?」

「ええ、 ベッドは削り出された岩でできていますので寝心地抜群で

目に遭うなんて思ってもみなかったぜ。 そいつは豪勢だな。 ったく、エルフの里についていきなりこんな

アリアにまでこんな乱暴な真似はするなよ?」

せん。 安心 しばらくこの里で落ち着いてもらったらあの街まで送り届け してください。 彼女はあなたと違って何の悪事も働いていま

ますよ」

「そいつはありがたいな」

遠ざかっていく。プリルもロイもひどい目に合わないといいけど...... れたけど、それは俺が人間だからだろ。 ま、エルフはそんなに野蛮な種族じゃないだろ。乱暴に捕まえら 縄で縛られ担ぎ上げられた俺はアリアたちの乗る馬車から徐々に

.....うん、そうだよな?

1 話 いきなり捕まっちゃったんだぜ (後書き)

急転直下?の展開です。

ちりはっきり描きますので、よろしければお楽しみに なんでこうなったか、とかこれからどうなるの?っていうのはきっ

重要なお知らせ

重要なお知らせです。

内容をまず簡潔に述べさせていただきますと

させていただきます」 箱庭の勇者 ~ガイの成り上がり冒険記~を" いったん"全消去

1章での矛盾の量の多さなどから、どうしても自由に動けなくなっ てしまう部分が多く出てきてしまいました。 理由 (言い訳) としては、2章でストーリーを作りこむに当たり

たので、 求が強くなり、 リーを作りこんでいるうちにモチベーションが上がってき 1章どころか世界設定から全部いじくってみたいという欲 箱庭の勇者を根本から作り直すことにしました。

せていただきます。 なのですが、 今まで応援してくださった読者の方々には非常に申し訳ないこと いったんデー タ消去ののちに1 から作り直すこととさ

ます。 るんだから勘弁してくれよ」という読者様もいらっしゃるかと思い ただし、 というか、 1度読んだのにまた最初からやるなんて続きが気にな 今この場を読んでいただいている読者様の大多数

ぼすべて変更させていただきますので、 世界設定 (魔法の在り方など) や今までにおこったエピソードはほ ただけるものを目指しております。 心心 登場人物 (名前と口調や人間関係) はそのままにしつつも 新しい作品として読んでい

せん。 ることになります。 ルフの里へ(その後想定していたストーリーという部分は変わりま 基本的な流れは変わらないので、街でしばらく過ごす 街で起こったエピソード、 ガイの冒険の軌跡なんかを変更す 2章でエ

ご容赦ください。 訳ない限りですが、 続きを楽しみにしていただいていた多くの読者様には非常に よりおもしろい作品を作るために必要なことと 申し

き込んでくださった多くの方にはご迷惑おかけして本当に申し訳な に入り登録してくださった3700人以上の読者の方々、 限りです。 とくに作品を評価してくださった300人近い読者の皆様、 感想を書 お気

にアップさせていただきます。 今後の予定ですが、 本日24時に新世界設定、 プロロー グを新規

明日(8日)、 24時に1話から3話程度を更新するつもりです。

しい作品名は「箱庭の勇者 ~ガイのなりあがり冒険記~」

させていただき、 に関しては12日24時ぐらいに消去させていただきます。 こちらの「箱庭の勇者 ガイの成り上がり冒険

回に関してはどうかご容赦ください。 今後はこのようなことは二度と行わないようにしますので、

だきます。 悪いので謹んで受け取り、 むか、ユーザーメッセージにてお送りください。全面的にこちらが 消去に当たっての苦情等ございましたら、こちらの感想に書き込 しっかりと読んだうえで対応させていた

始まる「箱庭の勇者」にてよりおもしろい作品を目指すと言うこと でどうかご容赦ください。 本当に読者の皆様に迷惑をかけて申し訳ない限りですが、 新たに

ただ、 ので、 * 消去せずに新しいバージョンと比べたいという意見がありました 消去はしないことにしました。 検索対象からは外させていただきます。

完結と言う形で終了させていただきました。

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きイ 最近では横書きの の縦書き小説 の縦書き小説 F小説ネッ います。 ンタ そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 0 タ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n8705v/

箱庭の勇者 ~ガイの成り上がり冒険記~

2011年9月13日19時10分発行